

教 職 課 程

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁	
免許状取得に必要な 共通科目	コミュニケーション英語Ⅰ	1～7	
	情報処理Ⅰ	8	
	スポーツ理論	9	
	スポーツ実技Ⅰ（看護学科）	10	
	コミュニケーション英語Ⅱ	11～18	
	情報処理Ⅱ	19	
	スポーツ実技Ⅰ（栄養学科・社会福祉学科）	20	
	スポーツ実技Ⅱ	21	
	日本国憲法	22	
教科に関する科目・教科又は教職に関する科目	中学校 (社会)	哲学	23
		経済学	24
		社会学	25
		生命倫理	26
		現代経済論（国際経済を含む）	27
		国際関係論（国際政治を含む）	28
		家族社会学	29
		日本史	30
		教育学	31
	高等学校 (公民)	心理学	32
		ジェンダー論	33
		地域社会論	34
		人権と法	35
		外国史	36
		文化人類学	37
		地理学（地誌を含む）	38
		倫理学	39
		法学（国際法を含む）	40
		生涯学習論	41
	高等学校 (福祉)	ソーシャルワーク論Ⅰ	42
		子ども福祉論	43
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	44
		点字	45
		ソーシャルワーク論Ⅱ	46
		高齢者福祉論	47
		障害者福祉論Ⅰ	48
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	49
福祉環境論Ⅰ		50	
社会福祉原論		51	
教育学		31	
介護概論		53	
ソーシャルワーク論Ⅲ		54	

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
教科に関する科目・教科又は教職に関する科目	ソーシャルワーク演習Ⅲ	55
	障害児の病理と心理Ⅰ	56
	入門手話	57
	ソーシャルワーク論Ⅳ	58
	基本介護技術	59
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	60
	ソーシャルワーク現場実習Ⅰ	61
	社会保障論	62
	地域福祉論	63
	介護福祉論	64
	医療概論	65
	介護現場実習	66
	生涯学習論	41
	実践手話	68
	社会福祉教育論	69
教職に関する科目	教職概論	70
	教育心理学	71
	教育原理	72
	教育課程論	73
	特別活動論	74
	教育方法・技術論	75
	社会科・公民科指導法Ⅰ	76
	福祉科教育法Ⅰ	77
	生徒指導論	78
	教育法概論	79
	社会科・公民科指導法Ⅱ	80
	福祉科教育法Ⅱ	81
	道徳教育論	82
	学校カウンセリング	83
	社会科指導法	84
	教育実習事前事後指導	85
	教育実習Ⅰ	86
	教育実習Ⅱ	87
	教職実践演習(中・高)	88

<教職課程>

区 分	科 目 名	頁
特別支援学校教諭	障害児の病理と心理 I	89
	障害児教育学	90
	障害児の病理と心理 II	91
	障害児教育方法論	92
	障害児教育課程論	93
	肢体不自由者教育課程論	94
	聴覚障害教育総論	95
	知的障害心理・生理・病理	96
	肢体不自由心理・生理・病理	97
	病弱心理・生理・病理	98
	肢体不自由教育演習	99
	病弱教育学	100
	視覚障害教育総論	101
	障害児教育実習事前事後指導	102
	障害児教育実習	103
栄養教諭	教職概論	70
	教育心理学	71
	教育原理	72
	教育課程論	73
	特別活動論	74
	教育方法・技術論	75
	生徒指導論	78
	栄養教諭論	104
	道德教育論	83
	学校カウンセリング	84
	食生活・食文化論	105
	食教育指導論	106
	栄養教育実習事前事後指導	107
	栄養教育実習	108
	教職実践演習(栄養教諭)	109

免許状取得に必要な共通科目

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	Martin Meadows				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	This course focuses primarily on developing communication skills through interaction with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program. Students will learn about everyday activities and concerns of students from other cultures and, by sharing aspects of their own daily lives with foreign students, have opportunity to reflect on and re-evaluate their own cultural values and assumptions.				
授業の概要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their daily lives and concerns in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the daily concerns of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own culture. In addition to the virtual exchange, students will rehearse and construct original, "model" speeches and receive feedback from their classmates. Classroom activities will also provide opportunities for spontaneous and unrehearsed speech acts. By the end of this course, all students will be able to make and post a short recorded speech, and provide verbal feedback to their classmates' speeches.				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test (all students) 2 Adding resources to Moodle 3 Introduction to Cross-Cultural Communication 4 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions 5 Virtual Exchange (VE) - Self-introductions 6 Virtual Exchange (VE) - My Place 7 Virtual Exchange (VE) - My Place 8 Virtual Exchange (VE) - Events in our Lives 9 Virtual Exchange (VE) - Events in our Lives 10 Virtual Exchange (VE) - My Future Plans 11 Virtual Exchange (VE) - My Future Plans 12 University Life - Interviewing a Partner 13 University Life - Interviewing a Partner 14 Part-time Jobs 15 Final Speaking Exam 				
授業の留意点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning and participate actively in pair and group activities. Students are also expected to learn how to use some computer-based applications required for the online exchange.				
学生に対する評価	Class participation - forum posts and replies (40 pts), Term-end oral test (40 pts), Extensive reading (20 pts)				
教科書 (購入必須)	Online materials in the Moodle-based course.				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	小古間 甚一				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	英語 I で学習した基礎的な文法知識を使って英語を発信する力をつける。英語によるコミュニケーション能力を高める。例文を参考にしながら英文が作成できる力を身に付ける。				
授業の概要	中学生レベルの基礎的な文法知識を使って短文を作る練習を徹底的に行う。毎回英文を書き提出してもらう。最終的に 200 ワード程度を英文を書いてもらい、それをもとにして英語による質疑応答を行う。英語の基礎的な力を高めるために E ラーニングによる英語読解カトレーニングを行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス 英語 I の復習 2 主語と動詞 3 現在形、過去形、完了形 4 受動態 5 分詞の用法 6 不定詞の用法 7 動名詞の用法 8 比較の用法 9 関係詞を使った英文 1 10 関係詞を使った英文 2 11 仮定法を使った英文 1 12 仮定法を使った英文 2 13 自由テーマ作成 14 英語による質疑応答 (1) 15 英語による質疑応答 (2) 				
授業の留意点	遅刻・欠席をしないこと。遅刻 (5 分程度) 3 回につき 1 回の欠席とする。授業で説明したことをきちんとメモすること。授業で学んだ内容を忘れないようにしっかり復習すること。				
学生に対する評価	基礎文法確認テスト (20 点)、課題提出 (20 点)、英語質疑応答テスト (30 点)、E ラーニング読解トレーニング結果 (30 点)				
教科書 (購入必須)	プリントを配布する。				
参考書 (購入任意)	辞書 (中学生用が望ましい)、参考書、英語 I で配布した資料等を持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担 当 教 員 名	野月 朱美				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授 業 の 概 要	英語で自分の言いたいことを伝える練習をする。また、英語の質問に、間を開けず適切に反応できるように練習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラスガイダンス・リスニング（パーティの予定） 2 リスニング（店での会話） 3 リスニング（野球の観戦に誘う） 4 リスニング（面会の予約を取った相手に会いに行く） 5 リスニング（郵便局にて） 6 リスニング（映画のチケットを買う） 7 リスニング（クラブ活動を休んだ理由） 8 身の回りのものを英語で説明し伝える 9 ジョークを英語で伝える 10 西洋の昔話を英語で伝える 11 寸劇のテーマを考え、原稿を作り始める 12 寸劇の原稿を最後まで作り、教師に提出する 13 添削原稿を受け取り、内容を確認、さらに推敲する 14 原稿を完成させる 15 寸劇発表 				
授 業 の 留 意 点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること 寸劇の原稿作りにはパソコン等の翻訳ソフトは使わないこと				
学 生 に 対 す る 評 価	小テスト（60点）、E-learning（15点）、寸劇（10点）、授業参加度（15点）				
教 科 書 （購入必須）	なし				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	野村 幸輝				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	<p>「英語で話す マイワールド 240」</p> <p>授業の到達目標は、国内あるいは国外、どのような状況においても英語の「聞く」「話す」を駆使できる、全シチュエーション型・英会話人になるための技術を学ぶ。受講者は中学生～高校1年生レベルの単語と文法のみを使い、その目標を達成させる。</p> <p>授業のテーマは、自己紹介における英会話である。「発音クリニック」として英語の正しい音の指導にも力を入れる。英語に自信のない学生には特にこのコースをお勧めする。</p>				
授業の概要	<p>日本国内で英語話者と会話をするための英語での自己紹介（自分、家族、友だち、故郷）。各学生が割り当てられた範囲を授業内で発表する。パソコン、プロジェクター、動画、静止画を使用した講義と演習。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ミー！ 「あいさつ」 3 ミー！ 「プロフィール」 4 ミー！ 「趣味」 5 ミー！ 「好きなもの、嫌いなもの」 6 マイ・ファミリー！ 「親」 7 マイ・ファミリー！ 「兄弟、姉妹」 8 まとめ 9 マイ・ファミリー！ 「誰がナンバーワン？」 10 マイ・フレンズ！ 「プロフィール」 11 マイ・フレンズ！ 「高校時代」 12 マイ・フレンズ！ 「親友」 13 マイ・ホームタウン！ 「こんな場所」 14 マイ・ホームタウン！ 「日本について」 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>すべての講義に出席すること。担当者（野村）も活発になるようなクラス作りに努める。各自の担当の宿題をやることはもちろん、担当ではない部分についても事前に読んでくること。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）、宿題（10点）、参加態度（30点）</p>				
教科書（購入必須）	<p>『英語で話す マイワールド 240』 著・野村幸輝 2018年（初回講義の際に購入できる）</p>				
参考書（購入任意）	<p>『もっと遠くへ アメリカ 1986～1990』 著・野村幸輝（購入の必要はありません）</p>				

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	藤岡 順子				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	必 修	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	<p>中学、高校と学んだ英語を実際に使えるものにしていきます。いかに自分のことや日常生活を英語で言えるかということに重点を置き授業を進めます。英語圏との文化の違い、考え方の違い(或いは同じ)にも注意を向け、日本の文化を英語で言えるようにします。日本語とは違う英語のリズムを身につけるために Listening にも力をいれます。</p>				
授 業 の 概 要	<p>会話を主にしたテキストの他にスヌーピーの英語なども題材にしながら授業を進めます。また英語のポップミュージックもとりあげます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class placement test 2 Introduction I am ~ 3 Getting know the classmates 4 Talking about hometown (1) 5 Talking about hometown (2) 6 Japanese culture ? Enjoy Autumn Leaves 7 What do you like? 8 Talking about daily life (1) 9 Talking about daily life (2) 10 How was your weekend? (1) 11 How was your weekend? (2) 12 Japanese culture ? New Year's Day 13 Talking about the vacation (1) 14 Talking about the vacation (2) 15 POP music 				
授 業 の 留 意 点	<p>毎回辞書を持ってくること。 授業へ積極的に参加し、少しでも多く英語を話すようにすること。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>ほぼ隔週に行われる小テストの合計を 100% (100 点)とし点数で評価をするが、その他提出物なども加味し総合的に評価します。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>クラス分けテストの後、最初の授業時に指定します。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	前田 千早				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	This course is designed to focus on the listening and speaking skills of the students in hopes to improve their abilities to communicate in English.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Orientation/test 2 introduction 3 Health Habits 4 Haiku 5 Cross words 6 Life Boat 7 Project outline 8 Proper Sentences 9 Describing people 10 How much? 11 Guess who 12 Scrabble 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (20点) Term Project (20点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語 I				
担当教員名	野村 太				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授業の概要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授業の計画	1 クラス分けテスト 2 Name & Age 3 Hometown & Education 4 Personality & Health 5 My dream 6 My family 7 Pets 8 Clothes 9 Cooking & Restaurants 10 Smartphones 11 Sleeping and Shopping 12 Weekends & Daily schedule 13 My favorite seasons 14 English 15 Music				
授業の留意点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学生に対する評価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教科書 (購入必須)	プリントを配付します。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	情報処理 I				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	情報処理技術に関する基礎・基本を理解し、ワープロソフトを用いた文書の作成や、表計算処理ソフトを用いたデータの集計など、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで情報処理能力を習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報機器の操作（OSの操作方法、プリンタ等周辺機器の使用方法）、文書の作成（電子メール、Wordを利用した文書作成の方法）、情報の整理（Excelによる数値データの処理、グラフの描画）の方法・技術について演習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、学内コンピュータ・電子メールの使用方法、パスワードの変更 2 Windowsの基本操作（起動・終了・保存・移動・複製・削除）、キー入力練習 3 Wordを用いた文章の入力・印刷と編集機能、プリンタの使用方法 4 表の作成と編集 5 クリップアート、ワードアート、図形描画 6 スマートアート、段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 7 はがき作成、差し込み印刷 8 Excelを用いたデータの入力・計算 9 ワークシートの活用1（SUM、AVERAGE関数、罫線のスタイル） 10 ワークシートの活用2（絶対参照と相対参照、MAX、MIN、COUNT、COUNTA、IF関数） 11 グラフの作成（棒グラフ、積み上げグラフ、折れ線グラフ、円グラフ、3Dグラフ、複合グラフ） 12 データベース、データの抽出、ピボットテーブル 13 Excelの応用1（RANK、LOOKUP、INDEX関数） 14 Excelの応用2（文字列、データベース関数） 15 3D計算、WordへのExcelの埋め込み 				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので、欠席はなるべくしないこと。また、進度の遅い者は課題が溜まっていく傾向にあるので、復習を行い演習のペースに遅れないようにすること。なお、他者が作成した課題をコピーして提出した者は、事情聴取の上、当該課題を採点から除外して評価を行う。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業で課す13課題の完成度によって評価を行う。課題点90点以上で受講態度良好の者は秀、課題点80点以上で態度良好の者は優、課題点70点以上で態度良好の者は良、課題点60点以上で態度良好の者は可とする。それ以外の者は不可とする。				
教 科 書 (購入必須)	実教出版編修部：30時間でマスター Word2016、実教出版、2016年 実教出版編修部：30時間でマスター Excel2016、実教出版、2016年				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	スポーツ理論				
担 当 教 員 名	関 朋 昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	<p>スポーツが、社会の中でどのような立場をもち、私たちの生活と連結しているのかを広い視野に立って探求できることを目標とする。また、基本的な保健知識を理解するとともに、所属学科と本講義内容との連携を常に意識し、思考性を深めることをテーマとする。</p> <p>学習到達目標としては、スポーツと自分自身が専攻する学科を関連づけながら今日的課題をみつめることができるようになる、すなわち自分なりの「問い」を立てることができるようになることである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>(1) 大学生としての保健に関する基本的な知識教養の習得と、スポーツとの関連性を理解する。</p> <p>(2) スポーツが、商業化される問題点と実社会との関係性を学ぶ。</p> <p>(3) スポーツと各学科との連携教育を意識する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：本講義のねらい 2 生活習慣とスポーツの捉え方について 3 運動の捉え方について 4 栄養の捉え方について 5 休養の捉え方について 6 大脳皮質と適応規制の関係 7 社会的欲求とスポーツについて 8 筋組成について 9 スポーツ倫理学 10 学校スポーツ（1）日本 11 学校スポーツ（2）諸外国 12 スポーツとマーケティングの考え方（1）スポーツプロダクト論 13 スポーツとマーケティングの考え方（2）スポーツプロデュース論 14 リーダーシップとチームワークの形成（1）チーム論 15 リーダーシップとチームワークの形成（2）組織論 				
授 業 の 留 意 点	<p>スポーツ、運動、健康に関連するニュース報道、新聞、SNSなどを媒体としながら情報を収集しておくことが学習成果を上げることになるため情報収集のための予習時間が必要不可欠なものとなる。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>小レポート 60 点。優秀なレポート、発表は 40 点で評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	なし				
参 考 書 (購 入 任 意)	関朋昭 (2015) 『スポーツと勝利至上主義』ナカニシヤ出版.				

科 目 名	スポーツ実技 I (看護学科)				
担当教員名	関 朋昭				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実技
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：選択必修
学 習 到 達 目 標	<p>生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。</p> <p>学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロワーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン) 				
授 業 の 留 意 点	<p>服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。看護学科は前期の開講となる。</p> <p>日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。</p>				
教 科 書 (購入必須)					
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	Martin Meadows				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	This course builds on the virtual exchange conducted in Communication 1 and extends the development of communication skills and strategies. Again, students will interact with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program to further learn about the values and concerns of students from other cultures. Students from all participating countries will, if possible, engage in a collaborative project that requires them to both explore their own cultural perspectives and show an understanding for opinions and values of other cultures as well.				
授業の概要	Using a Moodle-based virtual exchange platform, students will develop writing and speaking skills by posting textual and audio accounts of their values and opinions in shared online forums. At the same time, listening and reading skills will be developed as students read and listen to posts made by their exchange counterparts. Students will not only gain an understanding of and appreciation for the values of English-language-learning students from a different culture, they will develop a greater appreciation of their own cultural values. A collaborative project will be undertaken in small groups of both Japanese and foreign students that requires students to prepare simple research inquiries about aspects of their own cultures and investigate the inquiries of their exchange counterparts. A final group presentation will be made of what has been learned.				
授業の計画	<ul style="list-style-type: none"> * Orientation and Introduction * Cool Japan - Cool Nayoro 				
授業の留意点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning, for engaging with their exchange counterparts, and participating actively in group activities.				
学生に対する評価	Class participation (30pts), Group-based research inquiry/presentation (30pts) Term-end presentation (40pts)				
教科書 (購入必須)	Various printed and online materials.				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	小古間 甚一				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	基礎的な文法知識を応用して英文を作り、英語で発信する力を身に付ける。仮定法や過去完了形など難しい文法知識を使って英語で伝える力をさらに身につける。				
授 業 の 概 要	テーマに沿って英文を書く。まとめとして250～300語程度の英文を2つ書き、それを使って英語による質疑応答をする。基礎力養成のためにEラーニングによる読解トレーニングを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 英語の基礎 復習 2 1週間の出来事を書く1 3 1週間の出来事を書く2 4 1週間の出来事を書く3 5 自己アピール1 6 自己アピール2 7 友人に近況を報告する1 8 友人に近況を報告する2 9 自由課題1 構想 10 自由課題2 英文下書き 11 自由課題3 ワープロ原稿作成 12 自由課題4 原稿修正 13 自由課題5 原稿提出 14 自由課題6 発表1 15 自由課題 発表2 				
授 業 の 留 意 点	遅刻・欠席・居眠り厳禁。遅刻（5分程度まで）3回で欠席1回分とする。辞書（中学生用が望ましい）を必ず持参すること。予習・復習をしっかりと行い、基本的な英文法の知識を理解するよう努めること。				
学 生 対 する 評 価	英作文テスト（30点）、課題提出（20点）面接試験（20点）、Eラーニング読解トレーニング結果（30点）Eラーニングによる読解トレーニング30000ワード以上をクリアすること。				
教 科 書 （購入必須）	プリントを配布する。				
参 考 書 （購入任意）	高校時代に使った参考書、教科書、辞書（中学生用が望ましい）を持参すること。英語Ⅰ・Ⅱで配布したプリントを持参すること。				

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野月 朱美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	英語をコミュニケーションの道具として活用する。				
授業の概要	英語で自分の言いたいことを伝える練習をする。また、英語の質問に、適切に間を空けず反応できるよう練習する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス・リスニング（電話での会話） 2 リスニング（道案内） 3 リスニング（ホテルにて） 4 リスニング（空港での会話） 5 リスニング（パソコンについての会話） 6 リスニング（映画に誘う） 7 リスニング（アルバイトの問い合わせ） 8 身の回りのものを英語で説明し伝える 9 ジョークを英語で伝える 10 日本の昔話を英語で伝える 11 寸劇のテーマを考え、原稿を作り始める 12 寸劇の原稿を最後まで作り、教師に提出する 13 添削原稿を受け取り、内容を確認、さらに推敲する 14 原稿を完成させる 15 寸劇発表 				
授業の留意点	辞書持参のこと 毎回復習し、小テストに備えること Show and Tell の原稿作りにはパソコン等の翻訳ソフトは使わないこと				
学生に対する評価	小テスト（60点）、E-learning（15点）、寸劇（10点）、授業参加度（15点）				
教科書（購入必須）	なし				
参考書（購入任意）					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	野村 幸輝				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	<p>「英語で話す マイワールド 240」</p> <p>授業の到達目標は、国内あるいは国外、どのような状況においても英語の「聞く」「話す」を駆使できる、全シチュエーション型・英会話人になるための技術を学ぶ。受講者は中学生～高校1年生レベルの単語と文法のみを使い、その目標を達成させる。</p> <p>授業のテーマは、海外旅行における英会話である。「発音クリニック」として英語の正しい音の指導にも力を入れる。英語に自信のない学生には特にこのコースをお勧めする。</p>				
授業の概要	<p>海外旅行をする際に最低限必要となる会話の練習。映像を見ながら観光（レストラン、ショッピング、コンサート、スポーツ観戦など）にも出かける。各学生が割り当てられた範囲を授業内で発表する。パソコン、プロジェクター、動画、静止画を使用した講義と演習。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ニューヨーク！ 「フライト」 3 ニューヨーク！ 「空港、ホテル」 4 ニューヨーク！ 「タクシー、レストラン」 5 ニューヨーク！ 「質問をしてみる」 6 ロサンゼルス！ 「写真を撮る」 7 ロサンゼルス！ 「ショッピング」 8 まとめ 9 ロサンゼルス！ 「テーマパーク」 10 ロサンゼルス！ 「スポーツ観戦」 11 ハワイ！ 「カメラを失くす」 12 ハワイ！ 「お腹が痛くなる」 13 ハワイ！ 「ファーストフード」 14 ハワイ！ 「散策しよう」 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>すべての講義に出席すること。担当者（野村）も活発になるようなクラス作りに努める。各自の担当の宿題をやることはもちろん、担当ではない部分についても事前に読んでくること。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）、宿題（10点）、参加態度（30点）</p>				
教科書（購入必須）	<p>『英語で話す マイワールド 240』 著・野村幸輝 2018年（初回講義の際に購入できる）</p>				
参考書（購入任意）	<p>『もっと遠くへ アメリカ 1986～1990』 著・野村幸輝（購入の必要はありません）</p>				

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	藤岡 順子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学習到達目標	世界の多くの国で英語は共通語として使われています。それに対応していくために自分の意見を簡単な英語で表現できるようにします。ネイティブの発音にならなくても世界の様々な国の人と簡単なコミュニケーションがとれるようにします。 日本の文化や習慣も英語で説明できるようにします。				
授業の概要	会話が主のテキストの他、映画のスク립ト、スヌーピーとその仲間の会話も使い授業を進めます。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 My Summer Break 2 Let's talk about Japan 3 Let's chat 4 Let's chat 5 What do you like 6 Talking about food and recipes (1) 7 Talking about food and recipes (2) 8 Let's talk about Japan 9 Talking about travel (1) 10 Talking about travel (2) 11 Let's talk about Japan 12 My opinions, your opinions 13 Do you agree? 14 Talking about my future plans 15 Review 				
授業の留意点	辞書を持ってくること。パートナーとのロールプレイも行いますので、積極的に参加することをもとめます。				
学生に対する評価	隔週の小テストの合計を100% (100点) とし評価しますが、課題の提出なども加味し評価します。				
教科書 (購入必須)	コミュニケーション英語Ⅰで使うものを引き続き使います。				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担当教員名	前田 千早				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開講形態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	The objectives of the second part of this course are the same as the goals for English I. After the completion of both courses, the students are hoped to have gained more confidence in English and to have enjoyed the English language.				
授業の概要	The classes will focus on a different topic every week. The students are encouraged to openly share their own experiences and interests with their classmates. There will be a variety of speaking, writing and listening assignments.				
授業の計画	1 Introduction 2 Giving Direction 3 Tanka 4 Recipe 5 Family Tree 6 Invitations 7 Photographs 8 Jobs 9 Shopping 10 School 11 How was your trip? 12 Life Boat 13 Term project 14 Term project 15 Term project				
授業の留意点	Students should come prepared to speak and study English at each lesson. Participation in class will be an important part of this course.				
学生に対する評価	Class participation (60点) Readers (20点) Term Project (20点)				
教科書 (購入必須)	Materials will be handed out in class Dictionary				
参考書 (購入任意)					

科 目 名	コミュニケーション英語Ⅱ				
担 当 教 員 名	野村 太				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	北海道を訪れる外国人が急増する傾向は今後も続くといわれています。皆さんもこれから先、思いがけない場面で英語を話さねばならない機会が来るでしょう。自信をもって会話できることを目標に掲げ、訓練します。				
授 業 の 概 要	音読、シャドーイングなどの方法を用いて基礎会話力をつけ、習熟度を見ながら応用編に入ります。				
授 業 の 計 画	1 Outline of the course 2 Traveling 3 Computers 4 TV 5 Hot springs 6 Drinking 7 Movies 8 Reading 9 Driving 10 Comics 11 Baseball & Soccer 12 Companies, Jobs, and Commuting 13 Co-workers, Working hours & Meetings 14 Vacations and Business trips 15 Review				
授 業 の 留 意 点	授業中の居眠り、無断のスマホ操作は授業放棄とみなし、欠席に準ずる処置をとります。				
学 生 に 対 す る 価 値 評 価	授業態度 50 点、期末テスト 50 点合計 100 点で評価します。無断欠席は 8 点、授業放棄行為は 5 点減点します。Moodle で規定語数に達しなければ不足語数 100 語につき 1 点減点、その反対に多く読めば加点します。				
教 科 書 (購 入 必 須)	プリントを配付します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	情報処理Ⅱ				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	情報コミュニケーションおよびネットワークに関する基礎・基本を理解し、プレゼンテーション資料の作成、インターネットを利用した情報配信やコミュニケーションなど、日常生活および専門科目に適用できるレベルまで、情報発信能力を確実に習得することを到達目標とする。				
授 業 の 概 要	授業では、情報の表現・伝達(PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成)、情報の発信 (HTML タグによる Web ページの作成・配信) について演習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、情報コミュニケーション・ネットワークとそのアプリケーション 2 PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成 3 プレゼンテーション資料のブラッシュアップ、図形の挿入 4 グラフの挿入、アニメーションの設定、リハーサルにおける操作 5 PowerPoint を活用した情報表現 (自作スライド1) 6 PowerPoint を活用した情報表現 (自作スライド2) 7 ホームページのしくみ、HTML 言語とは、Web デザインの基礎 8 画像の表示 (イメージタグ)、ハイパーリンク 9 表組み (テーブルタグ) 10 フレームタグ 11 スタイルシート 12 著作権、肖像権、情報発信者としての心構え 13 情報モラル、SNS との関わり方 14 Web ページによる情報発信 (自作ページ1) 15 Web ページによる情報発信 (自作ページ2) 				
授 業 の 留 意 点	毎回の授業において課題を出すので、欠席はなるべくしないこと。また、進度の遅い者は課題が溜まっていく傾向にあるので、復習を行い演習のペースに遅れないようにすること。なお、他者が作成した課題をコピーして提出した者は、事情聴取の上、当該課題を採点から除外して評価を行う。				
学 生 に 対 す る 価 値	授業で課す 10 課題の完成度によって評価を行う。課題点 90 点以上で受講態度良好の者は秀、課題点 80 点以上で態度良好の者は優、課題点 70 点以上で態度良好の者は良、課題点 60 点以上で態度良好の者は可とする。それ以外の者は不可とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	実教出版編修部：30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2016、実教出版、2017 年 吉田喜彦、影山明俊：30 時間でマスター Web デザイン、実教出版、2003 年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	スポーツ実技 I (栄養学科・社会福祉学科)				
担当教員名	関 朋昭				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	実技
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職：選択必修
学習到達目標	<p>生涯スポーツを視野に入れ、多くの学生が、過去の体育授業で経験してきたバドミントン、バレーボールをとりあげ、それらの技術構造や練習方法を学習し、生涯を通じて明るく豊かな活力ある生活を営むことができる能力や態度を育成する。</p> <p>学習到達目標としては、講義の中でどのようなふるまいが求められているのか、各人がリーダーまたはフォロワーとなり、自発的な行動が取れるようになることである。</p>				
授業の概要	<p>学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「応用技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 ストレッチ運動・バレーボール基本練習 3 バレーボール(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 技術練習(オーバーハンドパス) 4 バレーボール(2) ①技術練習(アンダーハンドパス) ②ルール確認 ③試しのゲーム 5 バレーボール(3) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<1> ③試しのゲーム 6 バレーボール(4) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<2> ③試しのゲーム 7 バレーボール(5) ①技術練習(コンビネーション) ②ゲーム戦術<3> ③ゲーム 8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど) 9 バドミントン(2) ①技術練習(ハイクリア、スマッシュなど) ②主なルール ③簡易ゲーム 10 バドミントン(3) ①技術練習(サービス) ②戦術<1> ③ダブルスゲーム 11 バドミントン(4) ①技術練習(ドロップショットなど) ②戦術<2> ③ダブルスゲーム 12 バドミントン(5) 団体戦(ダブルスゲーム) 13 まとめ チーム編成および総合試合の戦略策定 14 まとめ 総合試合①(バレーボール、バドミントン) 15 まとめ 総合試合②(バレーボール、バドミントン) 				
授業の留意点	<p>服装は運動に適したものであること。ジャージ、トレーナー、Tシャツ、ショートパンツ等で、運動靴は球技専用のシューズが望ましい。栄養学科・社会福祉学科は後期の開講となる。</p> <p>日頃から健康管理やスポーツに関わるメディア情報や関連書籍などに関心を持ち、予備知識を得ておくこと。</p>				
学生に対する評価	<p>評価は、授業での意欲・態度 80 点、レポートの提出 20 点とする。</p>				
教科書 (購入必須)					
参考書 (購入任意)					

科目名	スポーツ実技Ⅱ		
担当教員名	関 朋昭・荻野 大助・今野 聖士・敦賀 信人		
学年配当	1年	単位数	1単位
開講時期	後期	必修選択	選択
		開講形態	実技
		資格要件	教職：選択必修
学習到達目標	<p>スポーツ実技Ⅱは、名寄市の地域資源を活用し、生涯スポーツとして親しむことのできるウィンタースポーツの修得をめざしている。この講義では、雪質日本一と呼ばれる名寄市の自然環境を生かしたスキー、および全国でも恵まれた競技環境にあるカーリングをとりあげる。スキーおよびカーリングは選択制とし、どちらか一方のみ履修可能とする。</p>		
授業の概要	<p>(スキー) 授業では、スキー(スラローム)の基本技術を、「重心の先行を伴う左右交互荷重」とおさえ、「プルークボーゲン」を「基礎滑降法」と位置づけ、ブライトターンを経て、パラレルターンへと発展させる。学外実習であるため、地域社会との交流といったことも本講義のねらいでもある。(関)</p> <p>(カーリング) まずカーリングについての基礎知識を学び、実技は氷になれるところから始める。基本動作の練習を行った後、チームを編成してゲームの実戦を行い、戦略を練るところまでをめざす。(敦賀)</p>		
授業の計画	<p>授業計画(スキー)</p> <p>第1日目 午前—実技① 午後—実技②</p> <p>第2日目 午前—実技③ 午後—実技④</p> <p>第3日目 午前—実技⑤ 午後—実技⑥</p> <p>*7月に初回ガイダンスを行う *10月と12月初旬に、オリエンテーション及びガイダンスを行う</p> <p>学習プログラム・A(初心者および初級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初歩動作 — 歩き方、坂の上り方、方向転換 2. 滑走感覚養成 — 直滑降、プルークファーレン→山回り→停止 3. 基礎滑降法 — プルークでの左右交互荷重による大回り、小回り <p>学習プログラム・B(初中級者および中級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブライトターン — ターンの切り換えにおける諸動作とタイミング 2. 開脚パラレルターン — 立ち上がり抜重による同時切り換え <p>学習プログラム・C(中級者および上級者対象)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カービングターン — エッジ感覚重視の同時切り換え → 緩・中・急斜面 2. ウェルデン — 速いタイミングによる同時切り換え → 緩・中・急斜面 	<p>授業計画(カーリング)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ルール・ポジションの役割 ②氷の状態・カーリングの歴史 ③用具などの説明 ④カーリング技術の基礎(氷に慣れる) ⑤カーリング技術の基礎(リリースフォームなど) ⑥カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング(スウィーピング) ⑦カーリング技術の基礎(作戦) ⑧ゲームの進め方とその実際(先攻・後攻の有利・不利) ⑨ゲームの進め方とその実際(氷の状態に合った作戦) ⑩ゲームの進め方とその実際(チームに必要なこと・チーム作り) ⑪ゲームの進め方とその実際(勝ってる時、負ける時の作戦) ⑫より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合ったショット・作戦 ⑬より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに必要なもの ⑭より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの長所、短所 様々なことを学んでもらう ⑮技術と戦略作りのまとめ 	
授業の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3日間の集中講義で実施する(積雪の状況から冬季休業期間中もしくは土曜日と日曜日の実施となる)。 2. スキーのリフト代は個人負担とする。ウェア、帽子、グローブ、ゴーグルなどは各自用意すること。カーリング用具はレンタル可能(個人負担)。 3. スキーは10月のオリエンテーションでは事前調査用紙を記入し提出し、12月のガイダンスではグループ分けと事前確認を行う。 4. 【重要1】受講希望者が多い場合、抽選とし人数制限をすることがある。 【重要2】初回のガイダンス不参加者は、履修意思がないものと考え履修資格を認めない。 ゆえに、掲示板を見逃さないように(スキーは7月、カーリングは10月予定)。 【重要3】スキーは二回目(10月予定)、三回目(12月予定)のガイダンスに関しても、 【重要2】と同様に、不参加者は履修意思がないものと考え履修放棄したとみなす。 		
学生に対する評価	評価は、授業での意欲・態度80点、レポートの提出20点とする。		
教科書(購入必須)	テキストは使用しない。		
参考書(購入任意)			

科 目 名	日本国憲法				
担 当 教 員 名	松倉 聡史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	学習到達目標を①立憲主義の憲法という意義を理解すること、②日本国憲法の成立の根拠を理解すること、③日本国憲法の平和主義の意義を理解すること、④憲法の基本原理や理念を理解すること、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権と統治機構との関係を理解することとする。				
授 業 の 概 要	立憲的意味の憲法を理解しつつ、憲法は国民一人ひとりを権力者から守るために制定されたことを学ぶ。憲法は人権保障の定めと国家の機能を立法・行政・司法の三つに分類し、三権分立による統治機構の定めもおかれている。日本国憲法は時代に流されない恒久な価値を示すものとして、日本の国民の幸福のためにつくられていることを深く理解し、学ぶこととする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方・・・憲法とは何か 2 立憲主義とは何か 3 法の支配とは何か 4 日本国憲法の基本原理 5 基本的人権とは何か 6 法の下での平等とは何か 7 精神的自由権（1）思想・良心の自由、信仰の自由 8 精神的自由権（2）表現の自由 9 経済的自由権 10 社会権（1）生存権 11 社会権（2）教育を受ける権利 12 権力分立 13 国会 14 内閣 15 裁判所 				
授 業 の 留 意 点	憲法が権力者の上位に立ち、権力者に歯止めをかけることにあり、「国民に権利・自由を保障すること」を目的とするものであることに留意して、学ぶ必要がある。そのような視点から、憲法改正の論議についても考察する。				
学 生 に 対 す る 評 価	授業参加態度（10点）、リアクションペーパー（20点）、レポート試験（70点）によって総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	「伊藤真の憲法入門」（日本評論社）を利用したい。適宜、プリント等を配布したい。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書として、芦部信喜「憲法」（岩波書店）を利用する。				

教科に関する科目・教科又は教職に関する科目

中学校（社会）

高等学校（公民）

科 目 名	哲学				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>まずは古代人になったつもりで自然を観察しよう。何か規則的なものがあることが分かるだろう。それは目を凝らしても見えないし、耳を澄ましても聞こえない。となると考えるしかない。そこで古代人は理屈に理屈を重ねていくうちに、自然を超えたものを想定するに至った。しかし感覚できないものがどうして分かるのか。こうして彼らは懐疑に陥った。それを乗り越えるため、人類に恩寵を約束するキリスト教の神を前提にしたことで哲学は中世においては神学になった。だが神学の言うところは哲学以上に曖昧であるから、やがて懐疑が復活した。神学が駄目となると後は感覚に頼るしかないから、感覚できる現象を繰り返し観察していくうちに中世の自然学者たちは実験という手法を生み出した。その結果を数字で表現することを思いついたとき、科学が誕生した。もうお分かりだろう。哲学とはすべての学問の根幹であり、すべての学問は哲学の一部なのだ。だから哲学の歩んだ道を知ることは、学問のあるべき姿を知る助けになる。つまりどんな学問も、豊富なデータを土台に論理的思考を重ねていかねばならないのである。そのことを知るまでの先人の苦闘を辿っていこう。</p>				
授 業 の 概 要	<p>いかなる学問も確実な認識ができなければ成立しない。ではその確実な認識はいかにすれば可能なのか。いや、その前に確実な認識は可能なのだろうか。いや、そもそも確実なものなどあるのだろうか。古代ギリシア以来、人類を悩まし続けてきた難問とそれへの先人たちの苦闘を見ていくことで、人間の能力には絶望的困難があることを理解し、これから大学で学んでいくうえで必要な知識に対する謙虚な態度を涵養してもらいたい。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 本 当 に 在 る も の の 探 求 2 ソクラテスの問いかけ 3 プラトンのイデア論 4 アリストテレスの超自然 5 懐疑主義と神秘主義 6 アウグスチヌスの方法的信仰 7 初期中世哲学 8 大学の誕生とアリストテレスの流入 9 哲学と神学の関係 10 後期中世哲学と懐疑の復活 11 デカルトの方法的懐疑 12 理性主義の世界観 13 イギリスの経験主義 14 カントの批判哲学 15 人格的神の退場 				
授 業 の 留 意 点	<p>異常に板書が多いが、これはどうにもならない癖である。書かないと考えられないし、なによりも言葉が出てこない。ただし書いてある内容は陳腐なものだから、皆さんは無理して書く必要はない。もちろん書きたければ書いてもよい。本邦最北の哲学の思い出として。なお10回目くらいまでの内容は紀要に書いてあるので興味のある方はそれを読んでみればよい。内容的に整理されているし、少なくとも黒板の悪筆に悩まされる心配はない。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>期末試験（100点満点）で評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>特になし。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>『哲学のアポリア』(J.&S.Rachels 著 晃洋書房)</p>				

科 目 名	経済学				
担当教員名	今野 聖士				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識(明治以降の経済史を含む)を習得する、以上の3つの能力を育成する。				
授 業 の 概 要	経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣(お金)・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるように、できるだけ例をあげて説明する。スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス—経済学とは何か— 2 分業の利益 3 需要と供給・価格メカニズム 4 市場の効率性 5 市場の限界①(情報の非対称性・モラルハザード・逆選択) 6 市場の限界②(所得分配の不公平・貧困問題) 7 労働市場の機能と限界 8 GDP 9 貨幣と中央銀行 10 政府の役割 11 外国為替市場の仕組み 12 株式市場の仕組み 13 日本経済のあゆみ①(明治期からWW1まで) 14 日本経済のあゆみ②(WW1からWW2まで) 15 日本経済のあゆみ③(戦後について) 				
授 業 の 留 意 点	講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める(必須・評価対象)。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。				
学 生 に 対 す る 評 価	毎回の質問票で30点、期末レポート70点の合計100点で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参 考 書 (購 入 任 意)	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科 目 名	社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	社会福祉：必修 栄養・看護：選択	資 格 要 件	教(中社・高公)・社福・精保:必
学 習 到 達 目 標	この講義では「社会学的な見方」を学ぶ。身近な社会現象をとりあげながら、私たち個人の志向や行動がいかにか社会によって影響され、形成されているのかを考察する。看護・栄養・福祉・保育の専門職者にとって、社会学は、直面する諸問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。「個人を規定している社会の枠組みの存在を理解し」、「そこに多様な価値観があることを知り」、「将来の実践者として、多様な個人をどのようにとらえることができるのかを考える」、この3点を到達目標とする。				
授 業 の 概 要	自らの経験や身の回りの現象から社会の仕組みへと思考を広げていけるように、具体的事象の説明と理論的説明をバランスよく配置しながら進める。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自分でレジュメを完成させていくことで、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、さまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の特徴や傾向を点検し、振り返りの機会にする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 社会学とは何か (1) 社会学という学問の特殊性 3 社会学とは何か (2) 社会学の学び方 4 意思決定と行為 (1) 「社会」とは何かを考える 5 意思決定と行為 (2) 社会における振る舞い方を考える 6 役割とは何か (1) 役割葛藤と役割期待 7 役割とは何か (2) 役割とどうつきあうか 8 集団と規範 (1) 集団の定義 9 集団と規範 (2) 社会における集団 10 見える権力、見えない権力 (1) 権力の定義 11 見える権力、見えない権力 (2) 現代社会における権力 12 社会と文化 (1) 価値を決めるのは誰か 13 社会と文化 (2) マイノリティとマジョリティ 14 社会と文化 (3) 差別とはなにか 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心动向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順に取り上げることはしない。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する (100点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	宇都宮京子編 やわらかアカデミズム・(わかるシリーズ) 『よくわかる社会学』(第2版) ミネルヴァ書房 2009年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	生命倫理				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	看護：必修 栄養・社会福祉：選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>20 世紀半ば、医療技術の進歩により植物状態や臓器移植、さらには経口避妊薬が現れたことは医療の現場のみならず社会全体にも大きな影響を与えた。従来の医療倫理が現実によって乗り越えられてゆく有様をみて、医療関係者たちは個々の例に即応した状況主義的解決を模索するようになった。それが生命倫理という 20 世紀の決議論 Casuistry である。本授業の到達目標は次の二つである。</p> <p>(1)生命倫理において議論されている主要な問題点を理解する。 (2)それらの問題の背後にはいかなる思想があるのか洞察する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>生命倫理が登場した 60 年代の時代背景からまずパーソン論を説明し、そこから第Ⅰ部として安楽死・尊厳死、脳死と臓器移植、脳死体利用とアニマリズムを、第Ⅱ部として中絶、人工授精、体外受精、遺伝子治療、遺伝管理社会を、第Ⅲ部として万能細胞やクローン人間、遺伝子改良など遺伝子医療の近未来を見ていきたい。全体を通せば「権利主体をどう確定するか」(パーソン論)が第Ⅰ部と第Ⅱ部の問題であり、それはつまりところ人間観の問題であり、究極的には世界観にまで行きつく。つまり社会の宗教離れにより、それまでの規範が力を失ったため、行為の是非は個人の欲望で判断する以外になくなってしまったのである。では個人の欲望がすべてとなると将来はどうか。それが第Ⅲ部の問題である。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 第二次大戦後の医療の発達と伝統的な医療倫理 2 続き 中絶問題とパーソン論 3 1-1 生命の終わりに関わる医療・終末期医療 4 続き 安楽死から尊厳死へ 5 1-2 脳死と臓器移植 6 1-3 脳死体と動物の地位 7 2-1 生命の始まりに関わる医療・出生回避 8 続き 避妊から中絶へ 9 2-2 生殖補助・人工授精 10 続き 体外受精と代理出産 11 続き 超高齢出産と死後生殖 12 2-3 出生操作 13 続き 優生思想と遺伝管理社会 14 3-1 遺伝子に関わる医療 万能細胞と iPS 細胞 15 3-2 クローン人間 				
授 業 の 留 意 点	<p>板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。真面目に聞いてくれれば結構。医学の進歩が皆さ一人一人にとって切実な問題であること、人類全体としても大変な曲がり角にあること、さらには従来の倫理観がもはや曲がり角に来ていることが理解できることだろう。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>期末試験（100 点満点）で評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>なし。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>『基礎から学ぶ生命倫理学』村上喜良(勁草書房) 『生命倫理の教科書』黒崎剛/野村俊明(ミネルヴァ書房) 『神と生命倫理』古牧徳生編(晃洋書房)</p>				

科目名	現代経済論（国際経済を含む）				
担当教員名	今野 聖士				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	選択	資格要件	教職(中社・高公)：必修
学習到達目標	①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる 以上の3つの能力を育成する。				
授業の概要	現代経済論では、グローバル化する世界経済の下で、戦後70年を迎えた日本経済が今どうなっているのか。また、どのようにここまで歩んできたのか。そしてどのような理論でそれを説明することが出来るのか。と言った視点を持ちながら、現代日本の経済と関連する国際経済について解説していく。 講義の形式としてはスライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。				
授業の計画	1 ガイダンス日本経済のいま―戦後70年の日本経済― 2 日本経済の成長と循環①（アベノミクス景気・均衡成長・グローバリゼーション） 3 日本経済の成長と循環②（経済成長と景気循環） 4 望ましい物価とは①（デフレ経済・資産価格） 5 望ましい物価とは②（価格理論） 6 財政は再建できるのか①（高齢化と財政負担・財政改革・年金改革） 7 財政は再建できるのか②（財政の仕組み・財政の理論） 8 金融政策はどう変わったのか①（戦後金融システム・デフレ経済下の金融システム） 9 金融政策はどう変わったのか②（金融政策の理論） 10 日本の貿易に何が起きたのか①（アジアとの貿易・自由経済と経済摩擦） 11 日本の貿易に何が起きたのか②（貿易の理論・貿易の構造） 12 円の実力（円とドル・世界の新通貨体制） 13 地球環境とエネルギー問題①（地球温暖化と京都議定書・生物多様性・循環型社会） 14 地球環境とエネルギー問題②（エネルギー問題・公害と外部不経済・環境対策） 15 日本の選択―未来世代と成熟社会―				
授業の留意点	講義の最後10分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める（必須・評価対象）。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。				
学生に対する評価	毎回の質問票（30点）、期末レポート70点の合計100点相当で評価する。				
教科書（購入必須）	使用しない。毎回資料を配付する。期末レポートの際に必要なので無くさずに保存しておくこと。専用のファイル等を用意することが望ましい。				
参考書（購入任意）	指定しない。必要があれば講義中に随時紹介する。				

科 目 名	国際関係論（国際政治を含む）				
担 当 教 員 名	東原 正明				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)：必修 教(中社)：選択
学 習 到 達 目 標	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界がどのように構築されてきたのか、残された課題は何なのかについて自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。				
授 業 の 概 要	20 世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして 21 世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。まず、国民国家とナショナリズムについて考察し、その後、二つの世界大戦とその後の国際体制について検討する。さらに、冷戦体制と戦後ヨーロッパにおける平和の構築という観点から、分断国家であったドイツを中心としつつヨーロッパの動向を検討する。その上で、現代国家のあり方として重要な概念である福祉国家の現状についても取り上げる。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 「政治」、「国際関係」とは何か 3 「国家」、「ナショナリズム」とは何か 4 第一次世界大戦後の世界①ヴェルサイユ体制 5 第一次世界大戦後の世界②ファシズム国家の展開 6 第二次世界大戦後の世界①冷戦とは何か 7 第二次世界大戦後の世界②冷戦体制の現実 8 冷戦体制下の東西関係①西ドイツを例として 9 冷戦体制下の東西関係②ベルリン問題と東ドイツ 10 冷戦体制下の永世中立国－オーストリアを例として 11 冷戦体制の終結 12 ヨーロッパの統合 13 EU－国家連合から連邦国家へ？ 14 福祉国家の理論と現実 15 おわりに－国際関係をどう見るか 				
授 業 の 留 意 点	履修にあたっては、高校世界史、政治・経済の内容を再確認しておくことが望ましい。また、予習としては、日常的に世界政治の動向に関心を払い、新聞等を積極的に読んでおくことが必要である。復習としては、講義内容をふまえてノートやプリントを整理することが求められる。出席状況に十分留意すること。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験及び小テストの結果に基づいて評価する。配点は、定期試験を 80 点、小テストを 20 点とする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。講義時に資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	山本左門『現代国家と民主政治（改訂版）』（北樹出版、2010 年） 平島健司、飯田芳弘『改訂新版 ヨーロッパ政治史』（放送大学教育振興会、2010 年） その他は講義時に指示する。				

科 目 名	家族社会学				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	看護・社会福祉：必修 栄 養：選択	資 格 要 件	教職（中社・高公）：必修
学 習 到 達 目 標	<p>家族は、少子化、高齢化、経済変動などさまざまな社会的変化に大きく影響を受ける。栄養・看護・福祉・保育の専門職者にとって、家族社会学は、直面する家族問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。自らが関わる人々の背後にある多様な家族関係・家族生活を理解する力を身につけるために、「現代家族の成立の歴史を知り」、「家族をめぐる日常的な現象を考察し」、「多様な家族観が存在することを理解し」、「家族とは何かを考え、自分の家族観を相対化する」、この4点を到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。この授業においては、身近で具体的な事柄を取り上げながら、家族事象を様々な視角からとらえることを学ぶ。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自らレジュメを完成させていくことにより、自分の問題意識を深めていく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピーなどを配付し、家族に関わる様々な出来事をより身近に感じとれるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の柔軟性を点検する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 家族とは誰のことか (1) あなたの家族は誰ですか 2 家族とは誰のことか (2) 家族という語の曖昧さ 3 家族とは誰のことか (3) 主観的家族論 4 近代家族の誕生 (1) 近代家族の特徴 5 近代家族の誕生 (2) 近代家族を支える思想 6 近代家族の揺らぎ (1) 家族の変容 7 近代家族の揺らぎ (2) 家族を選択する時代 8 家族に求めるもの (1) 家族に何を求めるか 9 家族に求めるもの (2) 自由と選択 10 生殖補助医療における親子関係 (1) 生殖補助医療とは何か 11 生殖補助医療における親子関係 (2) 父は誰か 母は誰か 12 生殖補助医療における親子関係 (3) 科学と家族 13 生殖技術と市場 (1) 自由を制限するもの 14 生殖技術と市場 (2) 自由と自己責任 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心動向を考慮しながら、内容構成や順番など調整する。テキストの内容すべてを順にとりあげることにはしないので各自で学習すること。近代家族の成立とその変容に関する基本的な流れを頭に入れること。毎回の予習としてはテキストの関連箇所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する（100点）。				
教 科 書 (購入必須)	<p>神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ 『よくわかる現代家族』[第2版] ミネルヴァ書房 2009年</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	日本史				
担 当 教 員 名	井上 将文				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(中社)：必修	資 格 要 件	教職(中社)：必修
学 習 到 達 目 標	日本史に関するより広い時代・分野の学習を通じて、日本史に対する総合的な理解を身につけることにある。				
授 業 の 概 要	人口の移動(移植民)及びそれをめぐる政策の歴史を中心に、日本史(世界史的内容を含む場合もある)の学習を進めていく。各授業では、受講者の主体的な考察力を養成する目的から、小レポートの提出を義務付ける。また、適宜、映像学習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 古代～中世① 律令国家の移植民政政策その1 3 古代～中世② 律令国家の移植民政政策その2、小レポート① 4 近世① 中・近世世界の中の日本 5 近世② 戦国～江戸初期の移植民政政策 6 近世③ 南洋日本町の形成と衰退、小レポート② 7 明治① 明治国家の成立と北海道 8 明治② 近代日本のハワイ移民政策 9 明治③ 日露戦後の移植民問題 小レポート③ 10 大正～昭和① 「新外交」の時代と移植民問題 11 大正～昭和② 第一次世界大戦後の日本のブラジル移民政策 12 大正～昭和③ 「満洲国」と日本農村、小レポート④ 13 戦後～現代① 戦後日本と北海道開発 14 戦後～現代② 現代日本の人口問題 15 総括 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・出席を原則とする。正当な理由のない3コマ以上の欠席は減点、5コマ以上の欠席は成績評価の対象外となるので、注意すること。 ・受講者は各自、本講義が教職必修単位(すなわち、教員となる資格に関係する授業)であることに留意すること。ゆえに、授業妨害行為(私語に代表される講義の進行を妨げる行為)は、当然ながら、厳禁である。 ・退出・早退は、事前に必ず申し出ること。無断退出は認めない。 				
学 生 に 対 す る 価 値	<ul style="list-style-type: none"> ・授業末の小レポート(30～40分程度で、400字前後を予定) 40点(10点×4) ・学期末試験 60点(必ず受けること) ・このほか、毎回の授業態度もまた、成績評価に大きく関係する。毎回の授業態度を踏まえて、平常点から適宜、加点ないし減点を行う。 				
教 科 書 (購入必須)	特に指定はしないが、毎回レジュメ及び参考史料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)	北岡伸一『日本政治史』有斐閣、2011年。				

科 目 名	教育学				
担 当 教 員 名	加藤 隆				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)必修 教(中社・高福)選
学 習 到 達 目 標	<p>社会の急激な変化の中で、子ども達も変わってしまったという議論や指摘は多い。一体、子ども達の何が変わったのだろうかという問いを大切に授業を進めたい。そのことを具体的には、気質、心身、生活、関わりというキーワードから考えてみたい。また、そのような変化の背景や要因についても触れながら、子どもの全体像に迫りたい。そして、子どもの変化について問うことは、必然的に教育の課題や在り方を問うことにつながる。このようなことを通じて、受講生は自ら問題意識を持ち、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>前半においては、子どもの家庭や地域社会での生活を中心に引き上げ、食生活や家族との関わり、マスメディアの圧倒的な情報の中での孤独や関わり減少とが及ぼす実態や教育との関わりについて考える。後半では、学校教育から派生することがらを中心に引き上げ、小一プロブレム、多様化する中学校の実情、教師の課題と可能性などについて考えたい。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもは変わったか（戦前の子どもの姿を中心に） 2 子どもは変わったか（戦後の子どもの姿を中心に） 3 社会的権威の変化（権威の不在の中での子ども） 4 孤立する子ども達（豊かさの中での孤独） 5 子どもの五感の変化（アンバランスな五感の実態） 6 少年問題の噴出と対応策（その特徴と、求められるカウンセリング） 7 学校の中の子ども達（子どもに学校はどう映っているか） 8 教室の中の子ども変化（漂流する多数の個） 9 中学生問題に向き合う（問題を潜在化させる子ども達） 10 多様化する高校生たち（地方の高校の挑戦） 11 教師の可能性を探る（国際比較の中で教師像を考える） 12 学校改革の視点（何は改革すべきなのか、何は守るべきなのか） 13 家庭教育の見直し（現代家庭の危うさと可能性） 14 地域の教育力を構築する（過疎化の中で地域にある力とは） 15 これからの教育を考える（グループ発表、意見交流） 				
授 業 の 留 意 点	<p>自身の経験や課題意識など、教育についての問題意識を持って履修してください。予習も重視したい。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>評価は、授業での意欲・態度 30 点、レポートの提出 30 点、及び試験 40 点による。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>なし。資料は毎回教師が用意します。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>参考書については、講義開始時、指示します。</p>				

科目名	心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	2年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	社会福祉：必修 栄養・看護：選択	資格要件	教(高公)・社福士・精保士：必
学習到達目標	「心理学」という学問について網羅的に学び、扱われるトピックスについて理解し、専門領域や日常生活へ応用する。人間や動物の心と行動を「心理学的にみることができる」「心理学的に理説明することができる」ようになる。人間の認知や発達などに関する知識と理論に基づき、心理的な支援のできる専門職者を目指す。				
授業の概要	人間（動物）の心と行動を客観的・科学的に研究する学問としての「心理学」について、日常生活にひそむ心理学的な現象を実際に体験し、脳にハッキングをかけ、心理系映画なども視聴し、体系的かつ実践的に学習する。また、多数の写真やイラストのスライドなどから、人間の認知、子どもから大人までの生涯発達、心理的支援などについて考える。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> はじめに：履修上の注意事項、成績評価の方法、簡易な教育心理学的実験の演習 感覚・知覚・認知①：感覚・知覚、感覚遮断、順応、閾、サブリミナル効果、プライミング効果、知覚的セット（構え）、目、盲点の実験、視覚 感覚・知覚・認知②：色彩視、色覚異常、図と地、ルビンの盃、ゲシュタルト知覚、両眼視差、立体視、奥行知覚、エイムズの部屋 感覚・知覚・認知③：錯視、錯覚、動く錯視（北岡明佳）、ミュラー＝リヤー錯視、サッチャー（トンプソン）錯視、シェパード錯視、恒常性、擬態 感覚・知覚・認知④：耳、聴覚、音源定位、腹話術効果、マガーク効果、鼻、嗅覚、舌、味覚、うま味、味覚嫌悪学習 感覚・知覚・認知⑤：触覚、ホムンクルス、アリストテレスの錯覚、アフォーダンス、応用心理学、認知と文化 記憶：多重（二重）記憶モデル、系列内位置効果、H・M氏、感覚記憶、ワーキングメモリー（短期記憶）、長期記憶、記憶術、忘却、虚偽記憶 思考・言語・知能：思考、概念、推論、問題解決、ウェイソン選択課題、ヒューリスティックス、言語、言語相対性仮説、言語獲得、失語症、言語検査、知能理論、知能指数、知能検査、知的能力障害 学習：古典的条件づけ、強化、消去、般化、弁別、生物学的制約、オペラント条件づけ、問題箱、動因低減説、洞察学習、潜在学習、社会的学修理論、学習転移 感情・動機づけ：誘導運動、感情生起のメカニズム、動機づけ、内発的動機づけ、欲求階層説、葛藤、欲求不満、原因帰属理論、自己効力感、学修性無力感 性格・パーソナリティ：類型（タイプ）論、特製論、ビッグ・ファイブ、力動論、状況論、相互作用論、性格検査、ロールシャッハ検査、TAT、PF スタディ、Y-G 性格検査 社会と集団：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、援助行動、社会的比較過程理論、自己開示、対人魅力、リーダーシップ、集団浅慮、態度変容、バランス理論、同調実験、服従、偏見・差別、説得、認知的不協和 発達：生涯発達、発達段階、相互作用説、エソロジー（動物行動学）、アタッチメント（愛着）、認知発達、アイデンティティ（自我同一性）、中年期の危機、結晶性知能 心理臨床：ストレス、汎適応症候群、タイプA・B・C、トラウマ、PTSD、サバイバーズ・ギルト、心理アセスメント、心理的障害、サイコセラピー、カウンセリング、精神分析 まとめ 				
授業の留意点	心理学という学問を楽しんで学んでほしい。 配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理すること。				
学生に対する評価	(1) レポート形式による期末試験：50点 (2) 授業毎の小レポート：30点 (3) 授業参加態度：20点				
教科書（購入必須）	山村豊ほか 『心理学 [カレッジ版]』 医学書院 2017年				
参考書（購入任意）	板口典弘・相馬英恵ほか 『ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 ころを科学する10のアプローチ』 講談社 2017年 長田久雄（編） 『看護学生のための心理学：第2版』 医学書院 2016年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編） 『心理学：第5版』 東京大学出版会 2015年 下山晴彦（編） 『誠信 心理学事典（新版）』 誠信書房 2014年				

科 目 名	ジェンダー論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)：必修 教(中社)：選択
学 習 到 達 目 標	ジェンダー・バイアスだけではなく、社会におけるさまざまな「差別」の存在に気づき、その解決のために力を発揮できることは、看護・栄養・福祉・保育の専門職者として重要なことである。この講義は社会学の一領域という位置づけであり、ジェンダーをめぐる諸問題を社会的にみていく。「職場、家庭、教育、地域など多くの場面に潜むジェンダー・バイアスを具体的に知り」、「社会において男性と女性に異なる場所が用意されていることの意味とそれをもたらす社会の仕組みを理解し」、「社会としてこれらの問題にどのように対処していくべきなのかを考える」、この3点を到達目標とする。				
授 業 の 概 要	女性・男性を取り巻く社会的現実および最近の変化の様相を取り上げ、考察する。セクシャル・マイノリティについても理解を深める。空欄のあるレジュメを配付する。受講者は、講義を受けて自らレジュメを完成させることにより、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、ジェンダーに関わるさまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の柔軟性を点検する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 ジェンダーとはなにか (1) 「ジェンダー」のとらえ方 3 ジェンダーとはなにか (2) ジェンダー概念の変容 4 恋愛とジェンダー 5 結婚・家族はどう変わったか—非法律婚のライフスタイル (1) 非法律婚とは何か 6 結婚・家族はどう変わったか—非法律婚のライフスタイル (2) 非法律婚が意味するもの 7 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 生殖への4つの視点 8 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権について考える 9 学校文化とジェンダー (1) 学校という場所とジェンダー 10 学校文化とジェンダー (2) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム 11 メディアの性役割表現 (1) マスメディアのもつ影響力 12 メディアの性役割表現 (2) メッセージ伝達のメカニズム 13 介護とジェンダー (1) 介護は誰の責任か 14 介護とジェンダー (2) 家族とは誰のことか 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心動向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストは使用せずレジュメを配付する。予習としては、日頃から新聞を読み、ジェンダーをめぐる最近の議論の流れや特徴、法律関係のニュースに注目しておくこと。復習としては、レジュメや資料を見直すこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポートにより評価する (100点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	地域社会論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	①域社会をめぐる様々な議論について学びを深める。②現代社会の特色を把握し、教員や援助職として地域社会について学ぶことの意義を理解する。以上2点を到達目標とする。				
授 業 の 概 要	本講義は2部構成とする。2～6回は、地域問題のひとつとしての教育問題に注目し、教育をめぐる諸問題を、現代社会、地域社会が抱えている多様な問題と関わらせながら考察していく。続く7～14回は、学説史を踏まえながら、農村や都市等のかたちや現代社会における地域の課題について具体的に学んでいく。教育職・援助職として地域社会を把握する必要があるのか、保健福祉と結びつけながら講義を展開する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 教育問題から地域社会を見る〈仕事と若者〉 3 教育問題から地域社会を見る〈若者のアイデンティティ〉 4 教育問題から地域社会を見る〈エスニシティと教育〉 5 教育問題から地域社会を見る〈子育てとしつけ〉 6 教育問題から地域社会を見る〈いじめと不登校〉 7 地域社会の実態と課題を探索〈農村社会 1 制度としてのムラ〉 8 地域社会の実態と課題を探索〈農村社会 2 農村文化〉 9 地域社会の実態と課題を探索〈都市社会 1 都市とは何か〉 10 地域社会の実態と課題を探索〈都市社会 2 都市とエスニシティ〉 11 地域社会の実態と課題を探索〈住民運動〉 12 地域社会の実態と課題を探索〈福祉のまちづくり〉 13 地域社会の実態と課題を探索〈ソーシャルキャピタル〉 14 地域社会の実態と課題を探索〈北海道の地域社会〉 15 おわりに 				
授 業 の 留 意 点	講義の進行は「授業計画」にある通りだが、受講者の関心动向を考慮して内容構成を変更することがある。毎回レジュメを配付する他、必要に応じて、当該テーマに関わる論文や資料を配付する。課題等を提示する場合がある。受講生は「授業計画」をみて事前に関係する文献等から学習しておくことが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	レポートにより評価する(100点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。				
参 考 書 (購 入 任 意)	「新版キーワード地域社会学」(地域社会学会編、ハーベスト社、2011年) 「地域の社会学」(盛岡清志著、有斐閣アルマ、2008年)				

科 目 名	人権と法				
担 当 教 員 名	松倉 聡史				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教(高公)：必修 教(中社)：選択
学 習 到 達 目 標	学習到達目標として、①人権を人間の尊厳性という根拠から導かれることの意義と考察を深めること、②「基本的人権の尊重」という法学的な定義に対する見解を考察すること、③人権は第一に人間の本質たる人格性にもとづく、前国家的・生来的権利であり、第二に自由権であることを基本とし、第三に個人権であり、自然人に帰属する権利であることを理解する、④自由権のみならず社会権も基本的人権とすることの根拠を理解する、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権の歴史的展開や国際社会における人権を理解することとする。				
授 業 の 概 要	①世界の人権の歴史的展開をたどり、日本における人権の軌跡を探っていく。②明治憲法下の人権の特徴と日本国憲法の基本的人権と分類を探る。③国際法における人権分野と国連の働きを考える。④生活の中の人権を考え、21世紀の人権のあり方を考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人間の尊厳とは何か 2 基本的人権の尊重の根拠 3 人権の自然権としての位置づけ 4 世界の人権の歴史的展開（1） 5 世界の人権の歴史的展開（2） 6 日本の人権の歴史的展開 7 国際社会における人権 8 個人の権利とマイノリティー集団の権利 9 子どもの人権 10 子どもの権利条約の制定経過と特徴 11 女性の権利 12 具体的事例（1）公民権運動 13 具体的事例（2）生命倫理と人権 14 20世紀の人権とは何であったか・・・戦争と平和の問題を考える 15 21世紀の人権を考える 				
授 業 の 留 意 点	人権の特性を法学的な視点から理解することを基礎としながら、世界および日本における歴史的展開を学び、具体的な事例における問題点を探っていく思考力を養うことに力点を置く。				
学 生 対 する 評 価	授業参加態度（10点）、リアクションペーパー（20点）、レポート試験（70点）で総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	必要な資料を配布して、参考文献を紹介していく。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	外国史				
担 当 教 員 名	飯坂 晃治				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(中社)：必修	資 格 要 件	教職(中社)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>中学校社会科や高等学校公民科の教員に必要と考えられる世界史の基礎知識の習得を主な目的として、古代ギリシア・ローマ史を概説する。</p> <p>到達目標：世界史に関する基礎知識の習得、および近年の研究動向の把握</p>				
授 業 の 概 要	<p>古代ギリシア・ローマ史の概観をとおして、世界史の基本的な知識を習得するだけでなく、古代ギリシア・ローマに関する映画を鑑賞し、その表現手法を分析することで、現代と過去との関わりを考えてゆくような講義をめざしたい。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 古代ギリシア史の概観(1) 2 古代ギリシア史の概観(2) 3 古代ギリシア人の異民族観(1) 4 古代ギリシア人の異民族観(2) 5 古代ギリシア史の概観(3) 6 古代ギリシア史の概観(4) 7 ヘレニズム文化の諸相(1) 8 ヘレニズム文化の諸相(2) 9 古代ローマ史の概観(1) 10 古代ローマ史の概観(2) 11 辺境からみたローマ帝国(1) 12 辺境からみたローマ帝国(2) 13 古代ローマ史の概観(3) 14 古代ローマ史の概観(4) 15 古代ローマの滅亡 				
授 業 の 留 意 点	<p>受講前に下記の参考文献を読んでおくことが望ましい。また、講義で紹介する書籍や映画にも積極的に接してほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>リアクションペーパー（30点）と小テスト（70点）により評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>テキストは使用しない。レジュメ・参考資料を毎回配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>桜井万里子・本村凌二『ギリシアとローマ』〈世界の歴史5〉中央公論社、1997年（中公文庫版、2010年）</p>				

科 目 名	文化人類学				
担 当 教 員 名	渡部 裕				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(中社・高公)：選択
学 習 到 達 目 標	本講義の主要な目標は、文化人類学の根幹である民族学を学ぶことによって、人類の文化や社会の在り方の多様性を理解するとともに、他者の文化・社会に対する自己の認識・価値観を見つめ直すための視点を養うことです。また、寒冷な北方地域に暮らしてきたアイヌを含む北方諸民族の文化を知ることで、さまざまな工夫や英知が込められた北方の文化の特徴を学びます。				
授 業 の 概 要	文化人類学(民族学)の歴史や学説の概要を学び、具体的な研究事例からさまざまな文化や社会のあり方、歴史的な変化や文化の相互作用、また北方諸民族の文化的特徴などを学びます。さらに、他者の文化を理解する方法を考えます。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 文化人類学とは：人類学・文化人類学の研究分野と基本概念 2 人類の進化と移動・拡散：われわれはどこから来たか 3 日本の人類学・文化人類学の始まり：柳田国男、宮本常一、鳥居龍蔵の調査研究 4 参与観察に基づく民族調査：B. マリノフスキー、F. ボアズ、原ひろ子の調査から 5 アメリカの文化人類学：F. ボアズと後継者たち 6 寒冷環境における人類の適応：北方諸民族の文化 7 アイヌの歴史と文化：北太平洋沿岸における位置づけ 8 記録されたアイヌ文化：文書と絵画にみるアイヌ文化 9 毛皮交易と北方諸民族の経済活動 10 文化接触①：北洋漁業の日本漁民とカムチャツカ先住民との事例 11 文化接触②：イヌイト(エスキモー)の事例 12 近代国家の先住民経済と社会 13 現代の先住民社会：カムチャツカにおける現状 14 バナナ、ナマコ、エビをめぐる文化人類学 15 文化の多様性と文化相対主義 				
授 業 の 留 意 点	本講義では各受講者が積極的に文化人類学(民族学)を学ぶ姿勢が重要であり、授業のなかで適宜、質問や小レポートによって受講者の理解度や意見・感想を確認します。				
学 生 に 対 す る 評 価	講義修了後のレポート(50点)と、随時行う小レポート(50点)によって評価します。また、授業態度も加味します。				
教 科 書 (購入必須)	適宜、プリントを配布します。				
参 考 書 (購入任意)	参考図書については、講義の際に指示する予定。				

科 目 名	地理学（地誌を含む）				
担 当 教 員 名	鈴木 邦輝				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(中社)：必修	資 格 要 件	教職(中社)：必修
学 習 到 達 目 標	今日の地表空間は、過去の歴史が投影されており、未来を展望するヒントも秘めている。本講義は、地表空間を研究対象とする地理学を通じて、居住する地域を認識し理解する事から出発し、視点を持った目を地域と日本、そして世界に向けての目標とする。				
授 業 の 概 要	身近な地域を題材に、基礎、方法論を学んだのち、自然と人文分野を融合した地誌を、日本から世界に向けて展開し、地理学の総理解をはかりたい。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地理学・地誌を学ぶ 2 地表空間の認識・理解 3 地理的調査・解析の方法 4 地図を読む・旅する 5 自然と人文の地理学 6 地域の時空断面 7 北の視点の北海道地誌 8 東西南北の日本地誌 9 都市と農村の日本地誌 10 流域の日本地誌 11 グレートジャーニーの世界地誌 12 食の世界地誌 13 宗教の世界地誌 14 交流・交易の世界地誌 15 地理学・地誌の可能性 				
授 業 の 留 意 点	地理学はフィールド科学なので、足を使つての巡検、地図類を用いての実習を多く取り入れる。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート提出と授業態度の総合評価による。				
教 科 書 (購入必須)	現在のところ使用しない予定				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	倫理学				
担 当 教 員 名	古牧 徳生				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教職(高公)：必修、教職(中社)：選択	資 格 要 件	教(高公)：必修、教(中社)：選択
学 習 到 達 目 標	主要な倫理説の趣旨を自分の言葉で説明できること。				
授 業 の 概 要	<p>今はむかし、昭和天皇は「雑草という草はありません」と言われたそうだ。まことに名言である。日本人にはレンコンとかゴボウとかワラビとかゼンマイは野菜だが、西洋人にとってはまったくの雑草にすぎない。昔の日本人なら食べなかったマグロのトロは今では高級食材である。ということは自然の世界にもともと価値などないのに、人間が自分の都合に合わせて野菜とか雑草とか言っているわけである。さらに道徳とは高い価値を追求して生きることであるから、道徳についても自然法則のような客観的な基準などないことになる。しかし我々は現実に道徳を云々して生活をしているのだから、ここで一度くらいは価値とか道徳とか考えてみてもいいだろう。本授業では西洋の哲学者たちの倫理思想を見ていくことで、時代や地域の制約を越えて人間のあるべき姿がはたしてあるのか考えてみたい。</p> <p>内容は大別して四つに分けられる。時代順にまず(1)古代の徳の倫理説を見たあと、(2)功利主義へと至る近世イギリスの一連の道徳感覚説を一つずつ見ていこう。次にそれと対比する形で(3)カントの倫理説を見てみよう。それから(4)進化倫理の主張を見ていこ</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ピュシスとノモス 2 アリストテレスと徳の倫理 3 エピクロスとストア派 4 キリスト教倫理 5 ホッブズの性悪説の社会契約論 6 ロックの性善説の社会契約論 7 シャフツベリとマンデビル 8 ハチソンとアダム・スミス 9 ヒューム 10 功利主義 1 11 功利主義 2 12 カントの倫理説 1 13 カントの倫理説 2 14 進化倫理 1 15 進化倫理 2 				
授 業 の 留 意 点	とかく道徳とか倫理と聞くと非常に堅苦しい響きがあるため、一般の受けは哲学以上に芳しくない。だが本当は哲学の中では一番わかりやすい分野であるし、哲学の諸分野の中でこれからも残るのは第一に倫理学だと思うから、とにかく聞いてもらいたい。なお板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。				
学 生 対 する 評 価	試験がすべて。受講者が数人程度なら 30 分程度の口頭試問をする。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特にない。				
参 考 書 (購 入 任 意)	一応、参考書として図書館にあるのを訳書をあげておく。 『現実をみつめる道徳哲学』『ダーウィンと道徳的个体主義』 『倫理学に答えはあるか』『卓越の倫理』『哲学のアポリア』				

科 目 名	法学（国際法を含む）				
担 当 教 員 名	松倉 聡史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(中社・高公)：必修	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>①法とは何であり、法の精神とは何であるかという根本的な問いかけをもって学ぶこと。②一人ひとりが主体的な権利意識と義務意識をもつこと。③各人が社会生活において生成するあらゆる紛争において、社会正義を実現する法的思考力（リーガル・マインド）を養うことをねらいとする。</p> <p>学習到達目標としては、①法と他の社会規範の差異を把握すること、②法の効力の優劣を理解すること、③法の体系と分類を理解すること、④法の特徴と原理、理念を理解することである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>①法とは社会生活を平穏に維持するための社会規範の一つであるが、他の規範とどう異なるのかを考察する。②法学の対象を国家がつくる「法律」を中心とするが、判例法、慣習法、条理といったことをも広く「法学」として考察する。③一般法学としての法学概論にとどまらず、日本国憲法や国際法などをも広く取り扱う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方・・・法とは何か、法の精神とは何か 2 法と社会生活・・・法と社会規範 3 法と道徳との違いは何か 4 法の目的とは何か 5 憲法はなぜ、国家の基本法といわれるのか 6 憲法の三大基本原理とは何か 7 権力分立の原理 8 統治機構 9 行政法とはどのような法であるか 10 行政法のしくみと行政行為 11 国際法とはどのような法であるか 12 国際法にはどのような特徴があるか 13 子どもの権利条約について 14 法と日本人 15 法の精神、まとめ 				
授 業 の 留 意 点	テキストと六法（例えば、『岩波コンパクト六法』有斐閣）などを持ってくること。				
学 生 対 する 評 価	授業参加態度（30点）、レポート試験（70点）を総合的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	伊藤正巳・加藤一郎編、『現代法学入門』[第4版]（有斐閣双書、2005年）をテキストとする。また、必要な資料を配布する。				
参 考 書 （購入任意）	参考書として中川淳編『やさしく学ぶ法学』（法律文化社）、渡辺洋三『法とは何か』（有斐閣新書）、渡辺洋三『法を学ぶ』（有斐閣新書）、原田尚彦『行政法要論』（学陽書房）など。				

科 目 名	生涯学習論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教(高公)必修 教(中社,高福)選択
学 習 到 達 目 標	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問題への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習の機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。				
授 業 の 概 要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいつくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(=エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「人間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 生涯学習とは何か ―保健・医療・福祉・保育との関連にもふれて 2 成人にとっての「学び」 ―自主夜間中学を例に 3 生涯学習の国際的な動向と「学習権」の発展 4 家庭・学校・地域の連携と社会教育の役割 5 生涯学習・社会教育の法と行政 6 生涯学習・社会教育の施設と職員 7 自己教育活動と仲間づくり・集団づくり 8 北海道の地域づくりと生涯学習・社会教育 9 子どもの職業体験にみる学習の組織化 10 誰が学習要求を組織するのか 11 学習過程とその支援(1) 子育て支援と親の学習 12 学習過程とその支援(2) 健康学習を例に 13 学習の構造化 ―青年・若者をめぐる社会教育実践(1) 14 自分さがしと居場所づくり ―青年・若者をめぐる社会教育実践(2) 15 若者自立支援と社会教育 ―青年・若者をめぐる社会教育実践(3) 				
授 業 の 留 意 点	教育実習にともなう欠席状況等によって授業の順番を変更することがある。				
学 生 対 する 評 価	期末レポート(70点)のほか、小レポートやグループワークの参加状況等(計30点)で評価を行う。				
教 科 書 (購入必須)	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参 考 書 (購入任意)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017年				

教科に関する科目・教科又は教職に関する科目

高等学校（福祉）

科 目 名	ソーシャルワーク論 I				
担 当 教 員 名	田中 利宗				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	社会福祉士の役割と意義を社会福祉士及び介護福祉士法の制定・見直しを通して理解し、さらに社会福祉士の専門性と役割を精神保健福祉士との関連のなかで学ぶ。また、国際ソーシャルワーカー連盟や日本ソーシャルワーカー協会、各種専門職団体のソーシャルワークに係る定義やソーシャルワークの形成過程を理解することによって相談援助の概念と範囲を学ぶ。				
授 業 の 概 要	相談援助の理念と相談業務の学習では、権利擁護、人権尊重、利用者本位等の意味・内容を理解しながら、総合的かつ包括的な援助と多職種との連携の意義と必要性を福祉行政、民間の施設・機関、さらには諸外国の動向を学ぶ。また、社会福祉士の相談援助の基盤と専門職についての学びを深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の基盤と専門職をまなぶにあたって(オリエンテーション) [DVDを活用] 2 社会福祉士の役割と意義 (1) 3 社会福祉士の役割と意義 (2) 4 相談援助の定義と構成要素 (1) 5 相談援助の定義と構成要素 (2) 6 相談援助の形成過程 (1) 7 相談援助の形成過程 (2) 8 相談援助の形成過程 (3) 9 相談援助の理念 (1) 10 相談援助の理念 (2) 11 中間のふり返りとまとめ 12 専門職倫理と倫理的ジレンマ(事例をまじえて) (1) 13 専門職倫理と倫理的ジレンマ(事例をまじえて) (2) 14 専門職倫理と倫理的ジレンマ(事例をまじえて) (3) 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	教科書にもとづいて授業を進める。小テスト等が評価の対象になっていることに注意すること。				
学 生 対 対 する 評 価	(1)小テスト・課題レポート(3回実施予定)：40点 (2)期末試験：60点				
教 科 書 (購 入 必 須)	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 【第6巻】 相談援助の基盤と専門職』 ミネルヴァ書房編『ミネルヴァ 社会福祉六法 2017』ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	子ども福祉論				
担 当 教 員 名	小野寺 理佳				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	1. 現代社会における子どもと家族の問題を社会的・歴史的背景をふまえて理解する。 2. 児童・家庭福祉制度と支援について理解する。 3. 子どもや家庭への支援の意味や専門職のあり方についての理解と考察を深める。				
授 業 の 概 要	上記の学習到達目標を達成するために、①現代社会における子どもと家族の生活実態とこれを取り巻く社会状況、必要とされる福祉（子育て、貧困、ひとり親、非行、児童虐待等）について理解する。②子ども家庭福祉制度の歴史を理解する。③子どもの権利について理解する。④子ども家庭に関わる法制度および具体的課題と施策について理解する。⑤子ども家庭福祉を担う専門職のあり方について理解する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 「子ども」とはどんな存在なのか 2 現代社会における子育て 3 子ども家庭福祉の歩み 4 子どもの権利と子ども家庭福祉に関わる法体系 5 子育て支援 6 児童相談所の役割・児童虐待・社会的養護 7 小括 8 子ども家庭に関わる課題と施策 (1) 貧困 9 子ども家庭に関わる課題と施策 (2) 母子保健と障害 10 子ども家庭に関わる課題と施策 (3) ひとり親家庭と女性福祉 11 子ども家庭に関わる課題と施策 (4) 非行 12 ディスカッション (1) 子ども福祉に関わるテーマの映像資料を見よう 13 ディスカッション (2) 映像資料を見た感想や意見を交換しよう 14 子ども家庭福祉の専門職・多職種連携・ネットワーキング 15 まとめ				
授 業 の 留 意 点	・テキストの該当箇所、関連箇所を授業の前後に読むこと。 ・授業の展開、受講者の関心動向によって、順序を変更する場合がある。 ・必要に応じてリアクションペーパーの提出を求める。 ・映像資料が長尺である場合やディスカッションを深めるためにより多くの時間が必要と判断される場合は、授業計画を調整して時間を確保することがある。				
学 生 に 対 す る 評 価	レポート 20 点 定期試験 80 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	中央法規 新・社会福祉士養成講座 15 「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(第6版)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	ソーシャルワーク演習 I				
担当教員名	佐藤 みゆき・長谷川 武史・堀 智久				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 実践力の高い社会福祉士（ソーシャルワーカー）を養成する観点から、ソーシャルワークの基本的知識と技術を習得するための基礎的知識を習得する。</p> <p>2. 疑似体験やグループでの討議などを通じて、コミュニケーション能力や自己覚知能力を習得する。</p> <p>3. 相談援助事例の検討を通じて相談援助技術の基本を習得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められている相談援助に関する知識と技術について、実践的に習得していきます。具体的には、自己覚知や基本的なコミュニケーション技術と方法の習得を通じて、基本的な面接技術の習得ができるように学んでいくこととなります。</p> <p>1年次は入門編として具体的課題別の相談援助事例を活用し、総合的包括的な援助について実践的に学べるようにします。その際、具体事例を通じて、相談援助場面や過程を想定し、個別にまた集団的に実技指導ができるような演習内容にしていきます。</p> <p>なお、演習内容によっては学科内の他の教員が参加して展開することもある。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク演習 I を始めるにあたって 2 自己理解と自己覚知(1) 3 さまざまな疑似体験と実体験(1) 4 さまざまな疑似体験と実体験(2) 5 さまざまな疑似体験と実体験(3) 6 さまざまな疑似体験と実体験(4) 7 さまざまな疑似体験と実体験(5) 8 自己理解と自己覚知(2) 9 自己理解と自己覚知(3) 10 自己理解と自己覚知(4) 11 相談・援助実践について学ぶ(1) 12 相談・援助実践について学ぶ(2) 13 相談・援助実践について学ぶ(3) 14 相談・援助実践について学ぶ(4) 15 ソーシャルワーク演習 I ふりかえり 				
授 業 の 留 意 点	<p>ソーシャルワーク〈社会福祉援助実践〉の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、グループ別の演習で展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望んでいます。</p>				
学 生 対 する 価 値	<p>(1) 授業参加態度：30点 (2) 課題レポート(3回実施予定)：70点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>必要に応じて資料等を配布します。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	点字				
担 当 教 員 名	宮崎 伸一				
学 年 配 当	1年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：選択
学 習 到 達 目 標	視覚障害者を生活者として考える。点字表記の読み書きについて、表記法により正しく、伝言程度の文章を作成することができる。				
授 業 の 概 要	盲人～視覚障害者への過程を考える。点字文章の目読と点訳基礎知識を学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害者の歴史 ルイ・ブライユ～石川倉治 2 視覚障害者の歴史 読むことを点に変えて 3 視覚障害者の歴史 視覚障害者情報提供施設について（読書権） 4 視覚障害者の日常生活を考える1（中途失明者） 5 視覚障害者の日常生活を考える2（アクセシビリティ） 6 点字表記解説 点字の歴史から読み書きのポイント 7 点字表記解説 語の書き表し方1 8 点字表記解説 語の書き表し方2 9 点字表記解説 語の書き表し方3 10 点字表記解説 語の書き表し方4 11 点字表記解説 分かち書き 12 点字表記解説 分かち書き 13 点字表記解説 記号類 14 点字表記解説 書き方の実際 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	点字を目読する時、15センチ程の定規などがあれば便利です。点字文には墨字が一切ありませんので、定規などで、読んでいく場所に添えて置くと良いと思います。 新たに6点の文字を覚えるので、授業の復習が重要となります。「初めての点訳」を授業の進み具合により読み込んで下さい。				
学 生 に 対 す る 評 価	点訳等課題の提出と試験				
教 科 書 (購 入 必 須)	書籍：初めての点訳（全国視覚障害者情報提供施設協会） 教材：点字器（6行）平点筆付き ※教材発注後は返品ができないので、発注後に履修を辞退しないように。（その場合であっても教材は必ず購入してもらいます。）				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅱ				
担 当 教 員 名	田中 利宗				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	社会福祉士の役割と意義を社会福祉士及び介護福祉士法の制定・見直しを通して理解し、さらに社会福祉士の専門性と役割を精神保健福祉士との関連のなかで学ぶ。また、国際ソーシャルワーカー連盟や日本ソーシャルワーカー協会、各種専門職団体のソーシャルワークに係る定義やソーシャルワークの形成過程を理解することによって相談援助の概念と範囲を学ぶ。				
授 業 の 概 要	相談援助の理念と相談業務の学習では、権利擁護、人権尊重、利用者本位等の意味・内容を理解しながら、総合的かつ包括的な援助と多職種との連携の意義と必要性を福祉行政、民間の施設・機関、さらには諸外国の動向を学ぶ。また、社会福祉士の相談援助の基盤と専門職についての学びを深める。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 前期の講義の要点整理と後期の講義の展開について 2 総合的かつ包括的な援助の全体像について (1) 3 総合的かつ包括的な援助の全体像について (2) 4 包括的な援助を支える理論 [DVDをみて学ぶ] (1) 5 包括的な援助を支える理論 [DVDをみて学ぶ] (2) 6 包括的な援助を支える理論 [DVDをみて学ぶ] (3) 7 相談援助にかかわる専門職の概念と範囲 (1) 8 相談援助にかかわる専門職の概念と範囲 (2) 9 相談援助にかかわる専門職の概念と範囲 (3) 10 総合的かつ包括的な援助における専門的機能 (1) 11 総合的かつ包括的な援助における専門的機能 (2) 12 総合的かつ包括的な援助における専門的機能 (3) 13 総合的かつ包括的な援助における専門的機能 (4) 14 総まとめ (1) 15 総まとめ (2) 				
授 業 の 留 意 点	教科書にもとづいて授業を進める。小テスト等が評価の対象になっていることに注意すること。				
学 生 対 対 する 評 価	(1) 小テスト・課題レポート (3回実施予定) : 40点 (2) 期末試験 : 60点				
教 科 書 (購入必須)	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 【第6巻】相談援助の基盤と専門職』 ミネルヴァ書房編『ミネルヴァ 社会福祉小六法 2017』ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	高齢者福祉論				
担当教員名	黄 京性				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	本講義では、高齢者を取り巻く環境の変化や関連する諸問題・課題及びニーズを総合的に理解することで高齢者及び高齢社会に対する適切な知識及び必要とされる支援方法を学ぶ。特に、その変化が激しい高齢者における保健・医療・介護関連の制度及び施策に関する動向を時代的背景のその詳細を的確に学習することを目標とする。				
授 業 の 概 要	高齢者・高齢期の身体的・精神的・社会的な特徴やそれに関連する諸要因を自ら考えた上、さらに学術的及び科学的な根拠をもとに学習する。その上、現行の高齢者の健康や生活を支える諸制度・施策を体系的に学ぶ。特に、介護保険制度に関する詳細な知識習得のための構成にする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 加齢（老化と疾病を中心に） 2 高齢者・高齢期の特徴（心理・社会的特性を中心に） 3 高齢社会日本の現状 4 高齢社会対策の変遷と主な内容 5 高齢者の医療保障 6-7 高齢者の在宅福祉サービス 8 介護保険制度 9 介護保険制度 10 介護保険制度 11 高齢者の虐待及び認知症対策など 12 高齢者を支援する組織と役割 13 高齢者を取り巻く法制度に関する最近の動き 14 国際高齢者福祉 15 総括 				
授 業 の 留 意 点	加齢、高齢者、高齢期、高齢社会、介護及び年金など、全てが身近な問題であることの認識をもって授業に望んでほしい。そのためには授業前後における予習及び復習を徹底すると同時に、日頃マスコミなどの高齢者関連情報に常に関心を持つことが本科目に大いに役立つことを忘れずに。				
学 生 に 対 す る 評 価	テスト 80 点とレポートなど課題への取り組みや授業態度などを総合的に評価。（授業妨害行為は減点の対象）				
教 科 書 （購入必須）	高齢者に対する支援と介護保険制度 第5版（中央法規）				
参 考 書 （購入任意）	高齢者白書、介護保険六法				

科 目 名	障害者福祉論 I				
担 当 教 員 名	堀 智久				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教(高福)・社福士・精保士：必修
学 習 到 達 目 標	障害者福祉とは、障害者の社会生活上の問題を社会福祉サービスや社会福祉の援助方法を用いて解決しようとする施策と実践の総称をいう。本講義では、第一に、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢等を理解する。第二に、障害者福祉制度の発展過程について理解する。第三に、相談援助活動において必要となる障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解することをねらいとする。				
授 業 の 概 要	授業の計画にあるように、実態、歴史、障害（者）の概念等について学んだ後、障害者総合支援法を中心に障害者福祉に関する法律について学習する。福祉サービスとその実施体制、専門職の役割や実際等について学ぶとともに、他職種連携、ネットワーク等望ましいあり方についても言及したい。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢 3 障害者福祉の歴史 4 障害（者）の概念 5 障害者福祉の法体系と障害者基本法 6 身体障害者福祉法・知的障害者福祉法 7 精神保健福祉法・発達障害者支援法ほか 8 障害者総合支援法の概要 9 障害者総合支援法と介護保険制度の関係性 10 障害者総合支援法における支給決定プロセス 11 障害者総合支援法における自立支援給付 12 障害者総合支援法における自立支援医療費ほか 13 障害者総合支援法における組織及び団体の役割とその実際 14 障害者総合支援法における専門職の役割とその実際 15 障害者総合支援法における他職種連携、ネットワーク 				
授 業 の 留 意 点	配布資料の自己管理をしっかりと行うこと。必ず復習しましょう。				
学 生 対 する 評 価	リアクションペーパー・宿題（40点）、レポート課題（30点）、期末試験（30点）				
教 科 書 （購入必須）	テキストについては別途周知する。また、毎回、関連する資料を配布する。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅱ				
担当教員名	永嶋 信二郎・長谷川 武史・江連 崇				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 実践力の高い社会福祉士（ソーシャルワーカー）を養成する観点から、ソーシャルワークの基本的知識と技術を習得するための基礎的知識を習得する。</p> <p>2. 疑似体験やグループでの討議などを通じて、コミュニケーション能力や自己覚知能力を習得する。</p> <p>3. 相談援助事例の検討を通じて相談援助技術の基本を習得する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>ソーシャルワークの知識と技術に関する他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士に求められている相談援助に関する知識と技術について、実践的に習得していく。具体的には、自己覚知や基本的なコミュニケーション技術と方法の習得を通じて、基本的な面接技術の習得ができるように学んでいく。</p> <p>1年次は入門編として具体的課題別の相談援助事例を活用し、総合的包括的な援助について実践的に学べるようにしていく。その際、具体事例を通じて、相談援助場面や過程を想定し、個別にまた集団的に実技指導ができるような演習内容にしていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク演習Ⅱをはじめるにあたって 2 基本的なコミュニケーション技術の理解(1) 3 基本的なコミュニケーション技術の理解(2) 4 基本的なコミュニケーション技術の理解(3) 5 基本的な面接技法の理解(1) 6 基本的な面接技術の理解(2) 7 基本的な面接技術の理解(3) 8 基本的な面接技術の理解(4) 9 基本的な面接技術の理解(5) 10 基本的な面接技術の実践(1) 11 基本的な面接技術の実践(2) 12 基本的な面接技術の実践(3) 13 基本的な記録技法の理解(1) 14 基本的な記録技法の理解(2) 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>ソーシャルワーク〈社会福祉援助実践〉の実際をより具体的、実践的に学ぶことができるように、グループ別の演習で展開されます。学生個々の主体的参加や積極的発言を強く望む。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>(1) 授業参加態度：30点 (2) 課題レポート(3回実施予定)：30点 (3) 期末レポート：40点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>必要に応じて資料等を配布する。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	福祉環境論 I				
担 当 教 員 名	小林 浩				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>目標は三つある。一つは、福祉住環境改善(高齢者や障害者のバリアフリーな住生活に配慮した住宅改善)における社会福祉士や保健師・看護師に期待される役割を理解することである。二つは、福祉住環境改善のための建築手法(いわゆるバリアフリー化手法)、高齢者にとって適切な温熱(温度と湿度)環境と色彩・照明環境の概要を理解することである。三つは建築空間にかかわる(使用するのにスペースの確保を必要とする)大型福祉用具の種類・機能を理解することである。</p>				
授 業 の 概 要	<p>福祉住環境改善は、高齢者の事故防止、介護予防、介護負担の軽減などを図る上で必須の課題になる。この改善のための支援プロセスにおいて、社会福祉士、保健師・看護師などの保健医療福祉スタッフには、対象者の生活の場に臨んで活動する職種であるがゆえの役割に対する期待がある。住環境に存在している問題・課題を発見すること、対象者に対し改善への動機づけを行うこと、改善後にフォローアップするという役割である。上記三つを目標にして、これらの期待される役割にかかわる基礎的知識・認識について解説する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢期における福祉住環境改善の役割と改善プロセスにおける在宅ケア支援職への期待 2 福祉住環境改善の事例 3 建築空間理解のための基礎事項(建築図面、平面記号、動線、戸建て住宅の構造・工法) 4 高齢者の身体的・心理的特性(傾向) 5 バリアフリー化の共通基本手法(1)段差の解消、床材の選択、手すりの取付け 6 バリアフリー化の共通基本手法(2)建具への配慮、スペースへの配慮、家具・収納への配慮 7 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(1)外出、屋内移動(アプローチ・外構、玄関) 8 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(2)屋内移動(廊下、階段、出入口) 9 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(3)排泄(トイレ) 10 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(4)入浴(浴室) 11 バリアフリー化の生活行為・場所別手法(5)着脱衣・洗面・整容、調理と食事、団らん、就寝(洗面・脱衣室、台所・食堂、居間、寝室) 12 建築空間にかかわる大型福祉用具(段差解消機、階段昇降機、リフト)と介護保険対象の改修工事、福祉用具 13 地域ケア実習室の見学(バリア箇所、バリアフリー箇所の比較確認) 14 高齢者・身障者に配慮した温熱環境 15 インテリアの色彩と照明 				
授 業 の 留 意 点					
学 生 対 する 評 価	試験(配点 80 点)と住まい診断(レポート、配点 20 点)で評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは指定しない。授業時に資料プリントを配付する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	社会福祉原論				
担当教員名	田中 利宗 他				
学 年 配 当	1年	単 位 数	4単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必修選択	必修	資 格 要 件	教(高福)・社福士・精保士：必修
学 習 到 達 目 標	社会福祉とは何か、歴史的に陶冶されてきた福祉の思想。それに基づいた援助や制度の展開。社会福祉実践の基礎に流れる原則など、社会福祉の基本的枠組みと基本概念及び論点の理解を目指す。				
授 業 の 概 要	前期は、社会福祉の歴史的な理解をふまえた現代の到達点と課題を概観し、社会福祉的ニーズや社会福祉援助の理論と方法など、その基本的な理解と論点に触れながら講義を進めていく。後期は、社会福祉各論にも触れながら、とくに国際比較の視点も入れて、日本の社会福祉のあり方に言及する。なお、各回の講義の中では、できる限り社会福祉の基本概念や基本用語に関する初歩的理解の課題を取り上げていく。				
授 業 の 計 画	1 プロローグ：(モチベーション) 2 社会福祉とはどんなこと(概念) 3-5 社会福祉の発展(慈善事業、社会事業、社会福祉) 6-8 第二次大戦後の社会福祉の展開と到達点 9-11 社会福祉の対象とニーズの実現(ニーズとは何か) 12-14 社会福祉援助の理論と方法(ニーズ実現とソーシャルワーク) 15 前期のまとめと討論 16-17 社会福祉の概念と基本視点をあらためて考える 18-21 社会福祉の諸分野の課題(公的扶助、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉) 22-24 社会福祉の法と行財政 25 社会福祉の組織と運営(専門職論) 26-27 社会福祉と地域社会の課題 28-29 日本の社会福祉の今後の課題(世界との比較も踏まえて) 30 後期のまとめと討論—エピローグ—				
授 業 の 留 意 点	参考文献は講義の中で紹介する。社会福祉の知識体系は既成の学問分野を多く含んでいることから、とくに基礎的知識も求められる。したがって、社会学、心理学、経済学、哲学、倫理学等などにも親しんでもらいたい。なお、多くの資料等を手渡すので各自管理してほしい。				
学 生 に 対 す る 評 価	前期レポートと後期レポートを加味し、評価する。				
教 科 書 (購入必須)	「新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉 第4版」中央法規 毎回プリント資料とともに、必要に応じて、参考図書を紹介する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	介護概論				
担 当 教 員 名	千葉 安代				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 介護とは何か、介護の専門職の役割について述べるができる。</p> <p>2. 同じ福祉領域に働く介護福祉士への理解を深め、自らの専門性との関係性について考えることができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>介護は、対象の特性を理解し、どのような生活を望みどうありたいのか、より良く生きるための可能性を引き出し支援する役割をもつ。介護の目的、対象理解、実践のための方法論を学び、福祉の実践者としての基礎を学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 高齢社会の現状、家族構造と機能の変化 3 高齢者の理解 4 介護問題、家族介護の現状 5 老化に伴う心身機能の変化 6 高齢者の総合的理解 7 介護の概念、範囲 8 介護の目的、専門職倫理 9 高齢者を支援する専門職の役割 10 介護過程 11 認知症のケア①：認知症と介護の視点 12 認知症のケア②：家族への支援 13 生活支援技術（移動・食事・排泄等） 14 終末期と介護の視点 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>・授業開始 15 分以上の遅刻は欠席とみなす。</p>				
学 生 対 する 評 価	適宜レポート 30 点、定期試験 70 点				
教 科 書 (購入必須)	新・社会福祉士養成講座 13 「高齢者に対する支援と介護保険制度」：中央法規出版				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅲ				
担 当 教 員 名	小銭 寿子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	社会福祉士における相談援助の基盤となる理論と支援方法について学び、人と環境とその関係という三者に介入する方法を理解する。 専門的援助関係について、対人援助業務に不可欠な価値・倫理や援助過程についておさえ、具体的事例を通してアウトリーチやアセスメントの意義と重要性について理解を深める。				
授 業 の 概 要	相談援助・調整・連携業務に役立つ社会福祉実践に必要な理論と技術の基本を理解する。 相談援助の展開過程について、導入からアセスメントの技術について事例を通して展開する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワークの相談援助技術：ソーシャルワークとは 2 ソーシャルワークの構造と機能 3 相談援助の視点：人と環境とその関係性 4 相談援助関係 5 相談援助の展開過程 6 相談援助の展開過程①：インテーク～アセスメント、介入 7 相談援助の展開過程②：モニタリング、効果測定、終結、予防的対応 8 アウトリーチの技術 9 社会福祉士の専門性：連携・調整業務 10 相談援助事例から展開過程をふりかえる 11 実践現場における契約の技術 12 社会福祉士の価値・倫理：支援対象者の自己選択・自己決定 13 アセスメントの技術①：情報収集・面接技術・ジェノグラム 14 アセスメントの技術②：地域資源の把握とエコマップ 15 アセスメントの技術③：支援に活用するアセスメントの実際 				
授 業 の 留 意 点	ソーシャルワーク演習やソーシャルワーク実習との関連も加味しながら社会福祉士の専門性について関心を広げ、出席や課題に対する意欲を持続するよう事例を具体的に伝える。				
学 生 に 対 する 評 価	定期試験 80 点、レポート提出 20 点とし、総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第3版 第7巻 相談援助の理論と方法Ⅰ』				
参 考 書 (購 入 任 意)	ミネルヴァ書房 『社会福祉用語辞典』 小銭寿子『対人援助職における“人”の理解とスーパービジョン』(2013) 風詠社				

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅲ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・長谷川・堀・江連				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 実践力の高い社会福祉士（ソーシャルワーカー）を養成する観点から、1年次に習得した基本的知識と技術を基に、人々が地域で自立して生活していくための必要な社会資源を整理し、グループ討議を通じて課題等を明らかにしていきます。</p> <p>2. 具体的な課題の明確化と相談支援過程を想定しながら、相談援助事例を通して考察を深めます。</p> <p>3. 面接やカンファレンスのロールプレイを通して、面接技術やアセスメント能力を高めます。</p>				
授 業 の 概 要	<p>基本的な相談援助場面における知識と面接技術、支援方法、社会資源の活用やネットワーキング、アウトリーチやチームアプローチなど、総合的に包括的なソーシャルワーク実践ができるような展開をしていきます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク演習Ⅲを始めるにあたって 2 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(1) 3 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(2) 4 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(3) 5 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(4) 6 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(5) 7 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(6) 8 相談援助場面及び相談援助の過程における方法と視点(7) 9 相談援助における資源開発・ネットワーキング(1) 10 相談援助における資源開発・ネットワーキング(2) 11 相談援助における資源開発・ネットワーキング(3) 12 ソーシャルワークの価値と倫理に関する理解(1) 13 ソーシャルワークの価値と倫理に関する理解(2) 14 事例に基づく相談援助の理解 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱを基礎に、ソーシャルワーク(社会福祉援助実践)における援助場面と援助過程を具体的に学べるように、グループ別の演習によって相談援助の過程を効率的、実践的に進行していきます。</p>				
学 生 対 する 評 価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加態度：30点 2. 課題レポート：70点 				
教 科 書 (購入必須)	<p>必要に応じて参考資料・教材等を配布します。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	障害児の病理と心理 I				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福・特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる障害に関連して、以下の3点を学習する。</p> <p>(1) 言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2) 言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3) 障害種別により言語発達の支援目標を説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類 2 音韻の産生 3 構音の発達と構音障害 4 構音検査 (概要) 5 構音検査 (結果の解釈) 6 構音指導 (事例) 7 言語の発達 8 言語発達の阻害要因 9 言語発達評価 評価の流れ 10 言語発達評価 国リハ式言語発達遅滞検査の概要 11 言語発達評価 国リハ式言語発達遅滞検査の発達段階 (段階1～2) 12 言語発達評価 国リハ式言語発達遅滞検査の発達段階 (段階3～5) 13 言語発達遅滞児の支援 評価結果の読み取りと支援結果の作成 14 言語発達遅滞児の支援 絵画語い発達検査 (PVT-R) の概要 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>自らの発話の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>授業内課題提出 40 点、試験 60 点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	入門手話				
担 当 教 員 名	福島 麻由美				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：選択
学 習 到 達 目 標	手話は、聴覚障害者の言語であることを理解する。 聴覚障害と、またそれに伴う情報障害についての理解を深める。 その上で、聴覚障害者の母語である手話の歴史と成り立ちを学び、簡単な日常会話程度の手話を覚える。				
授 業 の 概 要	手話はボランティアの小道具的な扱い方をされることも多く、成り立ちについても誤解されていることは多い。講義の中で手話ができるようになることを目指すのではなく、聴覚障害者を理解し、聴覚障害者の「命の言葉」としての言語である手話を理解していく。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 手話を学ぶにあたって 2 手話の成り立ちと歴史 3 聴覚障害者について 4 指文字 数字の表し方 5 全国の都道府県名 6 自己紹介 1 名前の表し方 7 自己紹介 2 数詞を使って 8 自己紹介 3 趣味について 9 単語の数をふやそう 1 家族関係の表現 10 単語の数をふやそう 2 自然現象や色の表現 11 文章の基本 1 疑問文の作り方・答え方 12 文章の基本 2 文末の表現 13 文章の基本 3 可能・不可能・数量の表現 14 文章の基本 4 長文の表現 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず一緒に手を動かして、積極的に手話を覚える努力をする。 ・毎回必ずレポートを提出する。 ・その日の講義で学んだ手話を、確認・復習する。 				
学 生 に 対 す る 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (60点) ・毎回提出のレポートによる評価 (40点) 				
教 科 書 (購入必須)	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク論Ⅳ				
担 当 教 員 名	小銭 寿子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	相談援助の展開過程より具体的支援事例を通して介入やモニタリング、面接や記録など社会福祉士に必要な技術を習得する。社会福祉士資格取得に不可欠なソーシャルワーク現場実習等をふまえ、相談援助の方法と技術の意義を理解する。				
授 業 の 概 要	社会福祉実践に必要な理論と技術の基本を理解する。 ソーシャルワークの支援事例を通して専門的視点、介入方法、介入の技術を知る。 受講学生の関心があるテーマ等も取り入れながら、価値・倫理、援助の原則を理解する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の展開過程①：介入とは 2 相談援助の展開過程②：モニタリングの意義と方法 3 相談援助の展開過程③：効果測定、評価の意義と方法 4 社会福祉士の専門性：地域における資源開発とサービス創出 5 支援事例からアセスメントをふりかえる 6 面接の技術①：コミュニケーション、非言語コミュニケーション 7 面接の技術②：援助の原則、マイクロカウンセリング、応答技法 8 記録の技術①：マッピングの活用（ジェノグラム・エコマップ） 9 記録の技術②：時系列の変化と各種記録様式 10 交渉の技術①：説明責任と権利擁護、情報公開 11 交渉の技術②：連携・協働実践における交渉と調整・仲介業務 12 契約・介入・終結時における倫理的配慮について 13 援助の原則とサービス提供の実践現場を理解する 14 信頼関係の構築に必要な自己理解、自己覚知 15 総括 				
授 業 の 留 意 点	テキストを基本に展開するが、配布資料や事例を伝えることが多いので集中して聴講すること。具体的な相談援助の方法、技術の習得とソーシャルワーク演習等との連動した科目であることを留意し、出席や目的意識を明確にして臨むことが必要である。				
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験 80 点、レポート課題等 20 点とし総合的評価する。				
教 科 書 (購入必須)	中央法規 社会福祉士養成講座編集委員会編 『新・社会福祉士養成講座 第3版 第7巻 相談援助の理論と方法Ⅰ』				
参 考 書 (購入任意)	ミネルヴァ書房 『社会福祉用語辞典』 小銭寿子『対人援助職における“人”の理解とスーパービジョン』風詠社. 2013				

科 目 名	基本介護技術				
担 当 教 員 名	川田 哲也				
学 年 配 当	2年	単 位 数	1単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>①体の仕組みを知ることにより、エビデンスに基づいた基本的な介護技術を習得することができる。</p> <p>②「自立」を目的とした介護技術を学ぶことにより、アセスメント能力の向上と介護のポイントを習得することができる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>専門職として、介護の基礎知識を学んだ上で、本人の状態を把握し適切な方法で介助、支援できるポイントを学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 なぜ、人は寝たきりになるのか？ 2 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは1（覚醒と座位の重要性） 3 移動、移乗介助1（寝返り～起き上がり） 4 移動、移乗介助2（立ち上がり～移動） 5 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは2（食事の基礎知識と介助のポイント） 6 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは3（排泄の基礎知識と介助のポイント） 7 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは4（入浴の基礎知識と介助のポイント） 8 コミュニケーション技法と現場でのポイント 9 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは5（認知症の基礎知識と対応方法） 10 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは6（アセスメントの基本とICFの視点①） 11 エビデンス（根拠）に基づく介護技術とは7（アセスメントの基本とICFの視点②） 12 演習1（事例をとおしての介護実技） 13 演習2（事例をとおしての介護実技） 14 演習3（事例をとおしての介護実技） 15 講義のまとめ（現場で求められる社会福祉士の介護技術の視点） 				
授 業 の 留 意 点	動きやすい服装				
学 生 に 対 す る 評 価	(自己評価 25点満点) + (テスト 35点満点) + (レポート 40点満点) = 100点				
教 科 書 (購入必須)	介護基礎学 竹内孝仁 医歯薬出版				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク演習Ⅳ				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・長谷川・堀・江連				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	<p>1. 実践力の高い社会福祉士（ソーシャルワーカー）を養成する観点から、1年次に習得した基本的知識と技術を基に、人々が地域で自立して生活していくための必要な社会資源を整理し、グループ討議を通じて課題等を明らかにしていきます。</p> <p>2. 具体的な課題の明確化と相談支援過程を想定しながら、相談援助事例を通して考察を深めます。</p> <p>3. 面接やカンファレンスのロールプレイを通して、面接技術やアセスメント能力を高めます。</p>				
授 業 の 概 要	<p>基本的な相談援助場面における知識と面接技術、支援方法、社会資源の活用やネットワーキング、アウトリーチやチームアプローチなど、総合的に包括的なソーシャルワーク実践ができるような展開をしていきます。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソーシャルワーク演習Ⅳをはじめるにあたって 2 事例に基づく相談援助の理解(1) 3 事例に基づく相談援助の理解(2) 4 事例に基づく相談援助の理解(3) 5 事例に基づく相談援助の理解(4) 6 事例に基づく相談援助の理解(5) 7 相談援助場面における面接・カンファレンスを体験する(1) 8 相談援助場面における面接・カンファレンスを体験する(2) 9 相談援助場面における面接・カンファレンスを体験する(3) 10 相談援助場面における面接・カンファレンスを体験する(4) 11 相談援助場面における面接・カンファレンスを体験する(5) 12 相談援助場面における面接・カンファレンスを体験する(6) 13 相談援助場面における技術（技能）および相談援助過程の理解(1) 14 相談援助場面における技術（技能）および相談援助過程の理解(2) 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲを基礎に、ソーシャルワーク(社会福祉援助実践)における援助場面と援助過程を具体的に学べるように、グループ別の演習によって相談援助の過程を効率的、実践的に進行していきます。</p>				
学 生 対 する 評 価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業態度：30点 2. 課題レポート：70点 				
教 科 書 (購入必須)	<p>必要に応じて参考資料・教材等を配布します。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	ソーシャルワーク現場実習 I				
担 当 教 員 名	佐藤(み)・永嶋・長谷川・堀・江連				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社会福祉士：必修
学 習 到 達 目 標	実践力の高い社会福祉士(ソーシャルワーカー)を養成する観点から、ソーシャルワーク現場実習Ⅱに先立ち、社会福祉施設・機関の見学実習を通じて、社会福祉現場とはどのような機能や役割、また、どのような専門職員が従事しているのかを理解するとともに、見学後のグループ討議等によってその知識を深め、ソーシャルワーク実習Ⅱに向けて、ソーシャルワーカーとしての資質を向上させ、施設実習に対する基礎知識を身に着けることを到達目標とします。				
授 業 の 概 要	社会福祉現場における見学、実習に先立ち、当該施設の施設長等よりお話をお聴きし、当該施設の理解を深めます。また、実際に社会福祉現場で実習することを通じて、社会福祉現場の実状と課題を整理し、次年度の現場実習に役立てていかれるようにします。現場実習先は、社会福祉機関・施設(行政・地域包括支援センター、社会福祉協議会、高齢者関連施設、障害者関連機関・施設、児童関連施設等)です。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会福祉機関・施設実習① 3 社会福祉機関・施設実習② 4 社会福祉機関・施設実習③ 5 社会福祉機関・施設実習④ 6 社会福祉機関・施設実習⑤ 7 ソーシャルワーク現場実習報告会参加 				
授 業 の 留 意 点	前段は、全体で社会福祉施設・機関についての基本的な学習おこないます。後半では、グループに分かれて個別に演習を展開していきます。これらを通じて、社会福祉施設についての法的根拠、社会的役割、機能の理解等を重点的に学習していきます。また、実習の際の基本的な心構えやマナーなどについても学びます。				
学 生 に 対 す る 評 価	演習を通じていくつかの課題を提示します。そのレポートと出席状況、演習における授業態度を総合的に判定し、評価します。演習態度 30 点 レポート 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要に応じてレジュメを作成して配布します。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	社会保障論				
担 当 教 員 名	永嶋 信二郎				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	必修	資 格 要 件	教職(高福)・社福士・精保士：必
学 習 到 達 目 標	<p>1 社会保障の理論と歴史を学ぶことを通して、「社会保障とは何か」を理解し、社会保障を総合的に把握する。</p> <p>2 年金保険制度の仕組み、医療保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度などの様々な社会保障制度の仕組み、特徴、役割について理解する。</p> <p>3 ソーシャルワークにおける社会保障の位置づけについて理解できるようになる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>社会保障は人々の生活において直面する社会的リスクに対応することによって人々の社会生活を保障する政策であり、セーフティ・ネットの役割を果たしている制度である。そこで、本講義では、社会保障の仕組みと歴史的展開を明らかにすることによって、社会保障が社会に対して果たしている役割を学ぶ。そして、そのために、この授業では、社会保障の倫理と歴史、年金保険、医療保険、介護保険、労働保険、社会福祉、民間保険、現代における社会保障、そして各国における社会保障について講義を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 社会保障の概念・対象・理念</p> <p>3 社会保障制度の歴史</p> <p>4 社会保障制度の体系</p> <p>5 社会保険と社会扶助</p> <p>6 社会保障の財源・費用・経済</p> <p>7 年金保険制度（1）年金保険の仕組み</p> <p>8 年金保険制度（2）国民年金</p> <p>9 年金保険制度（3）厚生年金</p> <p>10 年金保険制度（4）共済年金と年金における最近の動向</p> <p>11 医療保険制度（1）医療保険の仕組み</p> <p>12 医療保険制度（2）健康保険と共済組合</p> <p>13 医療保険制度（3）国民健康保険</p> <p>14 医療保険制度（4）高齢者医療制度</p> <p>15 医療保険制度（5）国民医療費と医療における最近の動向</p> <p>16 介護保険制度（1）介護保険の歴史、保険者、被保険者、利用手続き</p> <p>17 介護保険制度（2）介護保険の保険給付、運営、最近の動向</p> <p>18 労災保険制度（1）労働保険と労災保険の歴史・被保険者</p>				<p>19 労災保険制度（2）保険給付、保険料、最近の動向、雇用情勢</p> <p>20 雇用保険制度（1）歴史、被保険者、保険給付</p> <p>21 雇用保険制度（2）保険料と最近の動向</p> <p>22 社会福祉制度（1）社会福祉制度と生活保護制度（公的扶助）</p> <p>23 社会福祉制度（2）児童福祉、障害者福祉、ひとり親家庭への支援、高齢者福祉、社会手当</p> <p>24 社会保障と民間保険（1）社会保険と民間保険</p> <p>25 社会保障と民間保険（2）民間保険</p> <p>26 現代社会における社会保障制度の課題（1）少子高齢化と労働市場の変化</p> <p>27 現代社会における社会保障制度の課題（2）日本の少子化対策</p> <p>28 諸外国における社会保障制度（1）社会保障の類型とヨーロッパにおける社会保障</p> <p>29 諸外国における社会保障制度（2）アメリカとアジアにおける社会保障と社会保障における国際化</p> <p>30 まとめ</p>
授 業 の 留 意 点	<p>社会保障は、国民の関心が高い分野であることから、様々なメディアでもよく取り上げられている。よって、日頃から社会保障に関心を持ち、様々なメディアを通して、社会保障の情報に触れておくことで授業の内容も理解しやすくなると思われる。ただメディアの情報を鵜呑みにせず、自分で考えて理解するようにしてほしい。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>宿題として配布するプリント（30点）と期末試験（70点）で評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障（最新版）』中央法規出版</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>椋野美智子・田中耕太郎編著（2018）『はじめての社会保障 第15版』有斐閣</p>				

科 目 名	地域福祉論		
担 当 教 員 名	佐藤 みゆき		
学 年 配 当	2 年	単 位 数	4 単位
開 講 時 期	通年	必修選択	必修
		開講形態	講義
		資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必
学 習 到 達 目 標	1. 地域福祉の歴史的展開を踏まえて、新しい地域福祉の展開について理解する。 2. 社会サービスとの関係で、地域ケアと地域自立支援のための方法論を理解する。 3. 地域福祉の主体形成の意義と方策を理解する。 4. 最近の地域福祉の動向と課題を理解する。		
授 業 の 概 要	2000 年の介護保険制度発足以降、市町村間の在宅福祉サービスの格差が解消される一方で、地域福祉サービス、特に介護保険対象外の住民へのサービスの格差が広がっている。また、共助・公助だけでは解決できない問題が明らかになってきている。そのような中で、2017 年 5 月に地域包括ケアシステム法が可決成立し、社会福祉法の改正では、地域共生社会の実現に向け「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けた取り組みがリスタートする。そこで、本講義では、地域福祉の歴史的な経過や概念を学ぶとともに、地域福祉の基礎的な学力を習得し、時代(制度)とともに変化する地域福祉のあり方について考える力を持つことができるよう、下記の計画で展開する。		
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション 地域福祉を学ぶとは何か 2 地域福祉の主体と福祉教育Ⅰ 3 地域福祉の主体と福祉教育Ⅱ 4 行政組織と民間組織の役割と実際-地域福祉計画Ⅰ 5 行政組織と民間組織の役割と実際-地域福祉計画Ⅱ 6 行政組織と民間組織の役割と実際-社会福祉協議会・社会福祉法人Ⅰ 7 行政組織と民間組織の役割と実際-社会福祉協議会・社会福祉法人Ⅱ 8 実際のボランティア活動 9 特定非営利活動法人の役割・保護司 10 行政組織と民間組織の役割と実際-民生委員 11 福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献 12 コミュニティソーシャルワークの考え方と方法Ⅰ 13 コミュニティソーシャルワークの考え方と方法Ⅱ 14 共同募金会 15 専門多職種チームアプローチと CSW	16 専門職の役割と実際 17 住民の参加と方法Ⅰ 18 住民の参加と方法Ⅱ 19 ソーシャルサポートネットワークアプローチ論 20 地域における社会資源の活用・調整・開発Ⅰ 21 地域における社会資源の活用・調整・開発Ⅱ-事例 22 福祉でまちづくりとソーシャルアクション 23 地域トータルケアシステムの構築と実際 24 ソーシャルケア従事者の研修と組織化 25 地域における福祉サービスの評価方法と実際 26 災害と地域福祉 27 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方Ⅰ イギリス 28 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方Ⅱ アメリカ 29 地域福祉の歴史 30 地域福祉関連の答申、委員会報告、分科会報告	
授 業 の 留 意 点	1. すべての講義において、授業開始前にプリントを教室の前の机に置くので、授業開始前に取ること。 2. テキストとプリントを用いて講義を行う。なお、必要に応じて講義の中で、ビデオ学習を行う。 3. 毎授業ごとにリアクションペーパーを回収するので提出のこと。リアクションペーパーの中で、履修生に共通の課題については、講義の中で解説を行う。 4. 該当するページは事前に読んで講義を受講すること。 5. プリントについて、講義で使用しないものもあるが、参考として講義終了後に必ず目を通すこと。 6. 参考文献は講義で指示をする。		
学 生 に 対 す る 価 値	詳細は第 1 回目のオリエンテーション時に確認するので必ず出席してください。 平常点・リアクションペーパー (10 点)、定期試験 (90 点) 試験は、記述式で持ち込みは一切不可。		
教 科 書 (購 入 必 須)	新・社会福祉士養成講座 第 3 版 9 地域福祉の理論と方法-地域福祉論 中央法規		
参 考 書 (購 入 任 意)			

科 目 名	介護福祉論				
担 当 教 員 名	長谷川 武史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	1. 介護福祉の概念について理解する。 2. 介護福祉の今日的状況について理解し、介護を取り巻く課題を検討できる視座を獲得する。 3. 介護過程の展開を理解し、利用者の状況にあった支援環境を考察できるようになる。				
授 業 の 概 要	今日の介護福祉の位置づけを把握し、海外と日本における介護福祉の沿革と課題について理解する。そのうえで、在宅介護・施設介護の意義と沿革を学び、人権尊重を基盤とした介護に関する基礎的な知識を習得する。				
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション、介護福祉の概念を理解する 2 介護福祉の目的(理念とその対象)を理解する 3 介護福祉の範囲と方法を理解する 4 地域包括ケアシステムの目的と課題を理解する 5 共生社会における要介護者の生活支援を理解する 6 介護職という労働環境を理解する 7 基本的な介護過程の展開を理解する 8 高齢者のこころとからだのしくみを理解する 9 認知症による生活への影響と介護者支援についての理解する 10 施設介護におけるケア方式を理解する 11 高齢者の人権と関連する問題について理解する①(高齢者虐待) 12 高齢者の人権と関連する問題について理解する②(介護殺人) 13 終末期ケアについて① 日本における終末期ケアの現状を理解する 14 終末期ケアについて② 終末期ケアにおける専門職連携・家族支援について理解する 15 介護福祉の今日的課題を整理する				
授 業 の 留 意 点	毎回、講義と演習を使用して展開していく。演習では各自の積極的な取り組みが必要となる。				
学 生 対 対 する 評 価	毎回のリアクションペーパー：30 点 レポート：70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	必要な資料は講義時に配布する				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科目名	医療概論				
担当教員名	大見 広規				
学年配当	3年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	後期	必修選択	社福・社保：必修 栄養：選択	資格要件	教職(高福)・社福士・精保士：必
学習到達目標	社会福祉士・精神保健福祉士として実地で役割を果たすためには、生体としての人の解剖生理学的な仕組み、各種疾病の原因・発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法の基礎、疾病についての基礎的な医学的知識、疾病によって失われた機能を補償する保健医療福祉制度、を習得しておく必要がある。本講義では、医療現場における福祉職の基礎的な医学的知識の獲得を目標とする。				
授業の概要	人体の構造・機能、疾病・障害および福祉政策、関連法制度について解説する。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達 2 人の老化 3 身体構造と心身の機能 (1)：細胞、体液、免疫 4 身体構造と心身の機能 (2)：神経 5 身体構造と心身の機能 (3)：感覚器、筋肉 6 身体構造と心身の機能 (4)：循環器 7 身体構造と心身の機能 (5)：消化器、呼吸器、体温 8 身体構造と心身の機能 (6)：泌尿器、内分泌 9 疾病の概要 (1)：生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧 10 疾病の概要 (2)：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病 11 疾病の概要 (3)：腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア 12 障害の概要 (1)：ICF、視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、高次機能障害 13 障害の概要 (2)：DMS、発達障害、認知症、精神障害 14 リハビリテーションの概要 15 健康のとらえ方 				
授業の留意点	教科書、講義資料を中心に授業を進める。講義の際に問題集と復習問題を配布する。試験は問題集と復習問題から出題する。				
学生に対する評価	定期試験 100 点				
教科書 (購入必須)	社会福祉士養成講座編集委員会編集「人体の構造と機能及び疾病」 中央法規出版株式会社 厚生統計協会編『厚生指標・国民衛生の動向』厚生統計協会 (1年次の公衆衛生学で使用したもの)				
参考書 (購入任意)	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験問題分析と受験対策 共通科目 久美 (株) 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 共通科目 中央法規 吉岡利忠、内田勝雄編「生体機能学テキスト 第2版」中央法規出版 (2009年) 田中明、宮坂京子、藤岡由夫編「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち」羊土社 田中明、宮坂京子、藤岡由夫編「栄養科学イラストレイテッド [演習版] 臨床医学ノート 疾病の成り立ち」羊土社：絶版ですが図書館にあります。 加藤昌彦他「イラスト人体の構造と機能および疾病				

科 目 名	介護現場実習				
担 当 教 員 名	長谷川 武史				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>介護サービス利用者に対して、授業で学んだ介護知識・技術を踏まえた介護支援の方法を体験的に習得する。</p> <p>(1)利用者に対して、その状況に適したコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>(2)利用者のアセスメントを通して、必要なサービス支援の意義と効果を適切に把握する方法を習得する。</p> <p>(3)利用者との人間的なかわりを体験し、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。</p> <p>(4)指導者のスーパービジョンを受けながら、介護職務についての理解を深める。</p>				
授 業 の 概 要	<p>介護サービス利用者個々における援助の必要性を客観的かつ具体的に考察し、理論的根拠に基づく思考と実践を行う。</p> <p>事前学内授業（オリエンテーション含む）、現場実習5日、事後学習(レポート)を予定している。実習施設は履修人数に応じて、市内のデイケアセンター、デイサービスセンター、介護老人福祉施設のいずれかを予定している。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(実習に向けての事前学習について) 2 事前学習(1)介護技術の振り返りと実習課題の検討 3 事前学習(2)実習課題の作成と実習に向けての諸注意 <p>実習 計4日間の施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 事後学習(1)実習の振り返りの実習課題の考察 5 事後学習(2)実習成果報告書の作成 6 事後学習(3)実習成果報告 				
授 業 の 留 意 点	現場実習に対する明確な目的意識をもって、自主的かつ積極的な姿勢で取り組むこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>実習日誌：20点</p> <p>実習課題の考察：30点</p> <p>実習成果報告書：30点</p> <p>事前・事後学習の状況：20点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>使用しない。</p> <p>授業中にレジュメ、資料等を適宜配布する。</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	実践手話				
担 当 教 員 名	福島 麻由美				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福)：選択
学 習 到 達 目 標	手話の表現を学び、簡単な会話ができるようになる。 情報障害者とも言われる聴覚障害者について、より深く理解する。 聴覚障害者に、どんなサポートが必要か理解する。				
授 業 の 概 要	日常会話の手話を確実にし、手話で簡単な会話ができるように手話の反復練習。 また、聴覚障害者に対する、より良いサポートについて考える。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害者について 2 名寄市における通訳の現状 基本的な手話の復習 3 日常会話に必要な手話の復習 1 指文字・数詞 4 日常会話に必要な手話の復習 2 自己紹介 5 日常会話に必要な手話の復習 3 手話特有の文法 6 手話の表現と日本語 7 文章表現 1 日常会話に手話をつける 8 文章表現 2 感情表現を豊かに 9 文章表現 3 表現を大切に 10 文章表現 4 手話表現の空間利用 伝わりやすい表現 11 文章表現 5 手話表現の空間利用 P T を意識した表現 12 文章表現 6 例文を使っての手話表現練習 短く簡単な文章の表現 13 文章表現 7 例文を使っての手話表現練習 日本手話を意識しての表現 14 文章表現 8 手話による自己表現 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	必ず積極的に手を動かし、新しい手話の習得に努める。 学んだ手話を確実に身に着ける復習・確認をする。 毎回、必ずレポートを提出する。 ※「入門手話」履修済みであるか、あるいは手話サークル、地域の活動などを通して、 挨拶程度の簡単な手話表現ができることが望ましい。				
学 生 に 対 す る 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 (60 点) ・毎回提出のレポートによる評価 (40 点) 				
教 科 書 (購 入 必 須)	使用しない。必要に応じて資料を配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	社会福祉教育論				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選 択	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	児童・生徒や成人一般が、国民の権利としての社会福祉に対する関心と理解を深め、地域福祉における参加・参画と協働をすすめるための教育活動について、具体的・実践的な活動を組織するための視点と方法を学ぶ。				
授 業 の 概 要	学校教育などにおいて教育活動として行われる福祉教育だけでなく、地域福祉活動に参加することを通して人々が互助・共助の意義を理解し、サービス利用者として、また地域福祉の担い手として主体形成してゆく過程も視野に入れて、内容を構成する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉教育の概念 2 現代の福祉課題と福祉教育 3 学校教育における福祉教育の展開 「福祉のこころ」から人権教育へ 4 学校教育における福祉教育の展開 体験学習をどうすすめるか 5 学校教育における福祉教育の展開 ボランティア活動と福祉教育 6 学校教育における福祉教育の展開 福祉教育の評価をめぐる 7 生涯学習としての福祉教育 地域福祉活動における住民の学び 8 生涯学習としての福祉教育 地域で考える認知症 9 生涯学習としての福祉教育 高齢者・障害者にとっての学びと文化 10 生涯学習としての福祉教育 子育てサロン活動と障害理解 11 生涯学習としての福祉教育 「助ける一助けられる」を学ぶ 12 生涯学習としての福祉教育 地域共生社会の実現と福祉教育 13 職業教育としての社会福祉教育 職業教育・職業指導と専門職養成 14 職業教育としての社会福祉教育 援助技術教育と社会認識の形成 15 職業教育としての社会福祉教育 社会福祉従事者としての職業観・倫理観の指導 				
授 業 の 留 意 点	高等学校（福祉）の教員免許を取得しようとするものは必修となるので注意すること。				
学 生 対 する 評 価	期末のレポートで評価を行う。				
教 科 書 (購 入 必 須)	指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>村上尚三郎・阪野貢・原田正樹編著『福祉教育論』北大路書房、1998年</p> <p>原田正樹『地域福祉の基盤づくり—推進主体の形成』中央法規、2014年</p> <p>辻 浩『住民参加型福祉と生涯学習』ミネルヴァ書房、2004年</p>				

教職に関する科目

中学校（社会）

高等学校（公民）

高等学校（福祉）

科 目 名	教職概論				
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫				
学 年 配 当	1年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	本授業は、教職を目指す学生のための入門授業です。教職への理解を深めるとともに、自らが目指す教師の姿を具体的に描けること、教師の立場から保護者への対応を考える視点を持つことを到達目標とします。				
授 業 の 概 要	教育の今日的課題と現状を学び、教職者としてのあるべき姿と社会的要請として求められる姿を学びます。さらに、現実の職務内容の広さと多忙煩雑さ、そこから得られる達成感など、多角度から「教職」についての理解を深める授業とします。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 本講義の概要とオリエンテーション なぜ教師を目指すのか 2 教職の意義 3 教職観と理想の教師像 4 教師と教員養成の歴史 5 教員の任用と服務 1 6 教員の任用と服務 2 7 教師の役割と仕事 8 管理職主任の役割 1 9 管理職主任の役割 2 10 教師の職場環境 11 教師の資質向上と研修 12 教師に必要な資質と力量形成 13 教師の資格と採用試験 14 教育現場を知る（ケーススタディ） 15 「生きぬく力」を育てる教師 講義のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	教職への希望と夢を大切に持つことができる授業にしたいと考えています。皆さんの考えや思いを交流できる機会を、ケーススタディなどを通じて持ちたいと考えています。				
学 生 対 する 価 値	<ol style="list-style-type: none"> 1. リアクションペーパー 30点 (授業の感想、課題提出など) 2. 課題レポート 70点 3. 授業態度を加味する 				
教 科 書 (購 入 必 須)	「教職概論 第4次改訂版 ―教師を目指す人のために―」佐藤晴雄 学陽書房				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義の中で適宜紹介する				

科目名	教育心理学				
担当教員名	糸田 尚史				
学年配当	1年	単位数	2単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職：必修	資格要件	教職：必修
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育にかかわる心理学についての知識や理論を学び、理解する ・教育にかかわる心理学についての知見を教育現場に応用できる力を身につける ・教師としての自覚と責任をもつ 				
授業の概要	<p>学習、神経発達症（知的能力障害・発達障害）、モチベーション、記憶、パーソナリティなど、教育と関連の深い心理学的な領域について解説する。実際の教育相談事例などにも触れる。写真や図が主体のスライドと共に映画などの視聴覚教材や教育にかかわる優れた絵本なども織り交ぜながら講義を進める。</p>				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（心理学、教育心理学、心理学実験、鏡映描写） 2 学習①パブロフによる古典的条件づけ（レスポデント条件づけ）、スキナーによる道具的条件づけ（オペラント条件づけ）、映画『名探偵モンク』 3 学習②：映画『刑事コロンボ』（映画『市民ケーン』、条件反応、動機、ゲシュタルト心理学、言語連想法、シェイピング） 4 学習③：ケーラーによる洞察学習、バンデュラによる認知的学習理論、モデリング（示範）と手遊び歌、レイヴとウエンガーによる正統的周辺参加 5 知能①：知能理論、知能検査（WPPSI-III、WISC-IV、WAIS-III、KABC-II、DN-CAS、田中ビネー知能検査V、新版K式発達検査2001） 6 知能②：遺伝は環境を通して、映画『大逆転』、映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、先天奇形症候群、ウィリアムズ症候群と「適性処遇交互作用」 7 神経発達症と特別支援教育①：絵本『どんなかんじかなあ』、自閉スペクトラム症（ASD）、サヴァン症候群、アンジャッシュのコントにみる「心の理解」、「心の理論」課題 8 神経発達症と特別支援教育②：知的能力障害、注意欠如・多動症（AD/HD）、発達性協調運動症（DCD）、限局性学習症（LD）、児童虐待（第四の発達症） 9 モチベーション①：進化心理学、動因低減説、外発的動機づけ、内発的動機づけ、発見学習、自己実現 10 モチベーション②：セリグマンによる学習性無力感、ドキュメンタリー『青い目 茶色い目』、バンデュラによる自己効力、ワイナーによる帰属理論 11 記憶①：系列内位置効果の実験、虚偽記憶、感覚記憶、ゲシュタルト心理学、直観像、ワーキングメモリー（短期記憶）、長期記憶 12 記憶②：絵本『こんたのおつかい』、映画『ときそば』、魔法の数7 ± 2、潜在記憶、陳述記憶、エピソード記憶、忘却、干渉、記憶術 13 パーソナリティ①：パーソナリティ理論（類型論・力動論、特性論）、迷信的（似非科学的）類型としてのABO式血液型占い 14 パーソナリティ②：フロイトの精神分析理論、映画『夢の降る街』、言い間違い・し間違い、防衛メカニズム 15 まとめ 				
授業の留意点	<p>心理学的な実験や演習も行うので積極的に参加してほしい。配布資料は順番に綴り、遺漏のないように管理していただきたい。</p>				
学生に対する評価	<p>試験（60点）・提出物（20点）・受講態度（20点）の合計点で評価する。提出物（20点）は毎時の「気づき・学び」にかかわるリアクションペーパーの作成・提出である。</p>				
教科書（購入必須）	<p>N・C・ベンソン著（清水・大前訳）『マンガ 心理学入門：現代心理学の全体像が見える』 講談社（ブルーバックス） 2001年</p>				
参考書（購入任意）	<p>鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学（第4版）』 有斐閣 2015年 教員採用試験情報研究会『教職教養これだけはやっとう（教員採用試験シリーズ）』 一ツ橋書店 2016年 東京アカデミー『教員採用試験対策参考書2 教職教養II（教育心理・教育法規）』 七賢出版 2017年</p>				

科 目 名	教育原理				
担 当 教 員 名	加藤 隆				
学 年 配 当	1 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 : 必 修	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	<p>社会の急速な発展は、人間の生活や価値観に大きな変化をもたらすとともに、様々な課題を生じさせている。今日の子ども達を取り巻く状況をみても、不登校、虐待などの問題、学力低下への対応は依然として解決されていない。加えて、家庭の教育力の低下、社会における人間関係も希薄化、情報の氾濫などに起因する問題も多く、学校が核となって地域や家庭と連携して教育再生に取り組んでいくことへの期待はますます強まっている。とりわけ、学校教育を担う教師の意欲と教育的力量を高めていくことが教育再生の鍵と言っても過言ではない。</p> <p>本科目においては、学生自身のこれまでの経験や問題意識を大事にしつつ、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>日本の学校教育に大きな影響を与えた教育思想や教育の基礎理論を取り上げ、それとの関連で学校教育上の成果と課題について考察したい。また、そのことの延長線上にある課題として、児童生徒の現状や、学校教育が抱える問題についても触れていきたい。さらには、教育課程や授業、或いは学級経営という教育内容を具体的に取り上げながら、教師に求められることは何かを共に考えてみたい。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業全体のガイダンス、教育の本質について 2 教育の歴史と思想（1）西洋古代近代教育を中心に 3 教育の歴史と思想（2）西洋現代教育を中心に 4 教育の歴史と思想（3）日本の古代近代教育を中心に 5 教育の歴史と思想（4）日本の現代教育を中心に 6 児童生徒の学習や生活、環境などの光と影（1） 7 児童生徒の学習や生活、環境などの光と影（2） 8 学校教育の内容とは何か（1）教育課程とカリキュラムを中心に 9 学校教育の内容とは何か（2）学習指導要領を中心に 10 学校教育の内容とは何か（3）授業が成立するとは 11 学校教育の方法とは何か（1）学習指導の要素を中心に 12 学校教育の方法とは何か（2）生徒指導、教育相談を中心に 13 学校教育の方法とは何か（3）教育の評価を中心に 14 家庭・地域との連携の課題の可能性（1）日本の先進事例を中心に 15 家庭・地域との連携の課題の可能性（2）北欧の先進事例を中心に 				
授 業 の 留 意 点	<p>自身の経験や課題意識など、教育についての問題意識を持って履修してください。予習も重視します。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>評価は、授業での意欲・態度 30 点、レポートの提出 30 点、及び試験 40 点による。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>指定する教科書はありません。必要なものは資料などで用意します。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)	<p>参考書については、講義開始時、指示します。</p>				

科 目 名	教育課程論				
担 当 教 員 名	椿 達				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	本講義では学習指導要領の変遷を踏まえながら、現行学習指導要領の趣旨と内容及び教育課程の全体構造や具体的編成のあり方、さらに次期学習指導要領の理念や教育改革の方向性やキーワードについて理解し、考察することを目標とする。受講者はこのことを踏まえて、「わかる」「できる」授業を目指して教育評価を考え、指導目標・学習目標を立て、授業の指導案を作成していく基盤をつくることを目標とする。				
授 業 の 概 要	本講義では教育課程に関する諸理論を概観するとともに、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷の理解、「ゆとり教育」をめぐる言説の検討、現行の学習指導要領の主な特徴を把握する。また今回の学習指導要領改訂のキーワードが①育成すべき資質・能力、②アクティブ・ラーニング、③カリキュラム・マネジメント④社会に開かれた教育課程、などがあげられる。これら次期学習指導要領の理念・教育改革の方向性・キーワードの理解や批判的な検討を通して、これからの学校教育を担う教師としての教育実践と研究の基盤づくりに資する講義内容とする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造－学習指導要領とは何か－ 3 近代・現代日本の教育課程の歩み－学習指導要領の変遷－ 4 教育課程の編成と諸要因－「ゆとり教育」とは何だったのか－ 5 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 6 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 7 教育課程と評価（カリキュラム・マネジメント） 8 カリキュラム開発と学力向上策 9 国際学力調査の教育課程改革への影響 10 学習指導要領（１）－現行学習指導要領と教育課程編成－ 11 学習指導要領（２）－次期学習指導要領を掴む－ 12 資質・能力を育むカリキュラム（１）－なぜ資質・能力の育成が必要なのか－ 13 資質・能力を育むカリキュラム（２）－２１世紀に求められる資質・能力－ 14 「わかる」「できる」授業を目指した授業計画について 15 指導計画作成の実際 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育をめぐる動向や社会の動きに関心を持ち、教育課題解明のために教育課程をどのように編成・実施すべきか、つねに問題意識を持ちながら受講すること。 ・ 教科書を輪番で解説する演習を設けるので、その役割を果たすこと（詳しい割り振り は最初の講義にて指示する）。 ・ 指示された教科書の該当部分を読んで予習してくること。（５時間） ※最初の回は、第１章（pp.1～13）を予習範囲とする。 ・ 講義後に授業ノート、配付資料を見直し、復習すること。（５時間） 				
学 生 に 対 す る 評 価	<ol style="list-style-type: none"> (１) 講義及び形式的な課題への取組：25 点 (２) 演習への参加態度及び小レポート：25 点 (３) 講義終了時の課題レポート：50 点 				
教 科 書 (購 入 必 須)	古川治・矢野裕俊・前迫孝憲編（2015）「教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房				
参 考 書 (購 入 任 意)	国立教育政策研究所編（2016）「国研ラブラリー 資質・能力 [理論編]」東洋館出版社 苫野一徳著（2014）「教育の力」講談社現代新書				

科 目 名	特別活動論				
担 当 教 員 名	松田 剛史				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教 職 : 必 修	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の意義と教育的効果について理解することができる。 ・教育活動としての効果的なあり方について考えることができる。 				
授 業 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業では以下の場面を多く設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・受講者参加型ですすめる学習場面 ・自己で学びをふりかえり、相互に気づきや学びを共有する場面 ・学んだことを活かしてプログラムをつくる場面 ・新たな知識や経験をインプットする場面 2. 学外活動 <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークに出かけることがある（土日や休日を含む） ・学校への実地訪問をすることがある ※上記2つの活動日程については事前に学生のみなさんと相談して決定 3. 事前・事後の学習としては以下に対応する意識を高くもつこと <ul style="list-style-type: none"> ・本時およびそれまでに学習した内容に関する情報の収集とまとめ ・次時の学習内容に関係する準備 				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 わたしの特別活動をふりかえる 3 人間形成と特別活動の教育的意義 4 特別活動の歴史の変遷 5 特別活動の内容と目標 6 学級活動・ホームルーム活動の実践 7 生徒会活動の実践 8 学校行事の実践 9 人間形成を支える諸理論と特別と特別活動の新たな展開 10 特別活動を進めるための指導計画① ー特別活動の指導計画を構想するー 11 特別活動の実践 ーフィールドワークー 12 特別活動を進めるための指導計画② ー特別活動の指導計画を作成するー 13 特別活動の評価 14 特別活動を進めるための指導計画③ ー特別活動の指導計画を共有するー 15 特別活動という教育活動とは何か？ ー特別活動がもたらす学びをふりかえるー 				
授 業 の 留 意 点	主に受講者の参加型によってすすめる。受講者相互に参加意識をもち、学習を創り上げることでより効果的かつ価値ある時間となると考える。社会の一員としての自覚と責任を指導していく本教科のねらいをよく認識し、授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 す る 価 値	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かう意識・準備などのパフォーマンス（個の学びに向かう力） 30 点 ・学びを深める議論や活動に能動的にかかわるパフォーマンス（対話的に学ぶ力） 30 点 ・成果物やレポートなど 40 点 				
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校学習指導要領解説特別活動編（2017年改訂版）」（2018年3月発刊予定） ・「基礎基本シリーズ③最新特別活動論」原田恵理子，高橋知己，森山賢一，加々美肇 大学教育出版 2016年 				
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・「高等学校学習指導要領解説特別活動編（2009年版）」文部科学省 海文堂出版 				

科 目 名	教育方法・技術論				
担 当 教 員 名	石川 貴彦				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 : 必 修	資 格 要 件	教 職 : 必 修
学 習 到 達 目 標	<p>事物・事象を教育内容として構成し、授業で展開するための方法・技術を習得する。併せて、情報通信技術（ICT）を活用した教材づくりや授業分析の方法を学ぶ。これらの教育方法および技術をマイクロティーチング（模擬授業）で実践し、相互評価による確認・内省を通じて、自身の教育方法を客観的に捉え高める力を養うことを到達目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	<p>教材研究、授業設計、教育技術、教育評価といった一連のプロセスを、それぞれの要素から十分に検討しながら、教育実践の方法・技術を総合的に習得する。これらを踏まえて、実際にマイクロティーチングの相互評価を ICT によって行い、授業評価・分析を通じて、自身の指導力向上の方法について検討する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、教育方法・技術を学ぶにあたって 2 行動主義、認知主義から教材作りを考える 3 教師主導から子ども主体の授業へ 4 教育目標と評価、授業設計 5 授業の工夫（発問・板書）、教育技術 6 学習指導案の書き方 7 学習指導案の作成 8 パワーポイントを用いた教材作成 9 スライド教材を用いたマイクロティーチングと相互評価（栄養教諭対象） 10 スライド教材を用いたマイクロティーチングと相互評価（中学社会対象） 11 スライド教材を用いたマイクロティーチングと相互評価（高校公民対象） 12 スライド教材を用いたマイクロティーチングと相互評価（高校福祉対象） 13 評価結果からの授業分析・改善（他者からの評価） 14 評価履歴からの授業分析・改善（他者への評価） 15 学び続ける教員像を目指して 				
授 業 の 留 意 点	<p>3年次の教科等指導法、4年次の教育実習を見据えて、受講者全員に1人5分程度の模擬授業を行ってもらおう。模擬授業の際は、指導案と教材の準備をしっかりと行い実践に臨むこと。また、免許取得を安易に考えている学生は、この講義で教職課程を辞退する傾向にあるので、自分の進路にとって教職履修が必要かどうかをしっかりと考えて受講すること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>模擬授業の実践・相互評価 40 点、レポート 40 点、授業時の小課題（指導案作成、授業分析等）20 点の合計によって評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>使用しない。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>自分が小学校・中学校・高校時に使用していた教科書・資料などを準備しておくこと。 栄養：食に関する指導の手引（第一次改訂版）、文部科学省、平成 22 年 3 月</p>				

科 目 名	社会科・公民科指導法 I				
担 当 教 員 名	三戸 尚史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(中社・高公)：必修	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学 習 到 達 目 標	<p><到達目標> 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p><授業目標> 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方（年間計画内容、教材、方法など）について、学生の理解を促したい。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会科教師に求められるもの 3 社会科成立の歴史（戦前の社会科，戦後の社会科） 4 学習指導要領の変化と社会科教育 5 社会科の目標と社会科の学力 6 社会科授業づくりの可能性と課題 7 「社会科」と「公民科」という教科について 8 社会科教育の現状と課題 9 「社会科」の内容分析と指導方法 10 学習指導案の作成について 11 学習指導案の実践事例分析と作成実践 12 模擬授業の実施と分析① 13 模擬授業の実施と分析② 14 模擬授業の総括（意見交換・レポート） 15 前期のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に講義に参加することを期待する。				
学 生 対 する 評 価	授業参加態度、試験、レポート、模擬授業等により総合的に評価する。 100点満点（授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点）				
教 科 書 (購入必須)	中学校教科用図書（地理、歴史の各分野のうち最低1冊：出版社は問わない） 高等学校教科用図書（『諸説 日本史B』：山川書店） ※但し、中学・高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 2008年（平成20年） 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2010年（平成22年）				
参 考 書 (購入任意)	佐藤功著『憲法と君たち』（時事通信社） 大森 正・石渡 延男 編著 新版『社会・地歴・公民の教育』（梓出版社）				

科 目 名	福祉科教育法 I				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(高福)：必修	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	高等学校における福祉教育や教科「福祉」の意義と目標・内容など、福祉科教員としての基本的な知識を身につける。福祉科9科目それぞれの教育目標を理解し、各科目の基本的な教育内容について習得するとともに、今日における福祉教育の意義もふまえ、特別活動等も含めた体系的なものとして福祉教育への理解を深める。				
授 業 の 概 要	現行の学習指導要領、介護福祉士養成カリキュラムをふまえながら、2022年度から実施予定の次期指導要領も視野に入れた内容とします。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科「福祉」創設の意義と福祉教育の役割 2 福祉人材問題と高校福祉科 一士・士法改正と学習指導要領改訂の経過 3 青年期における「福祉の学び」 一私の福祉学習体験をふりかえる 4 高等学校における福祉教育の全体像 5 福祉科の目標と内容 社会福祉基礎（1）社会福祉の理念と意義 6 福祉科の目標と内容 社会福祉基礎（2）私たちの生活と福祉の関わり 7 福祉科の目標と内容 介護福祉基礎 8 福祉科の目標と内容 介護過程 9 授業の展開と構成を考える（1）指導案に何を書くか 10 授業の展開と構成を考える（2）指導案の発表と検討 11 福祉科の目標と内容 コミュニケーション技術 12 福祉科の目標と内容 生活支援技術（1）生活の理解と支援 13 福祉科の目標と内容 生活支援技術（2）技術をどう学ぶか 14 福祉科の目標と内容 こころとからだの理解 15 福祉科の目標と内容 福祉情報活用 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・高校福祉の教員採用は、例年30ほどの府県で行われています。道内でも福祉のコース等をおく総合学科の高校が増えてきました。道・札幌市では採用試験は行われていませんが、高校福祉免許を活かす道はあります。「社会福祉学科で学んだ教員」の強みを生かせる免許ととらえてほしいものです。 ・高校生など青年期に福祉や介護を学ぶ意義について考えることを求めます。大学入学後も含め、自らの経験もふり返りながら授業に臨んでください。 				
学 生 対 対 する 評 価	期末レポート（60点）および指導案等の提出物（40点）で評価を行う。				
教 科 書 (購入必須)	保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010年（福祉科教育法 I・II共通）				
参 考 書 (購入任意)	大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002年 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版、2010年				

科 目 名	生徒指導論				
担 当 教 員 名	佐藤 憲夫				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	①生徒指導の意義と役割について、基本的な概念を説明することができる。②生徒指導に係る教師のスタンスを理解し、場面に応じた自分の考えを持つことができる。③生徒理解の方法について、自分のアイデアを練り、工夫を凝らすことができる。④発達障害に関する知識と対応の方法について、理解をすることができる。				
授 業 の 概 要	本講義は、生き方指導、教育相談、進路指導、非・反社会的行為など幅広い生徒指導の実態を学ぶとともに、教育現場において生徒指導が機能するための教師のあり方について学習を深める。実際の教育現場の抱える課題について、ケーススタディを通して考察を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 生徒指導とは 生徒指導の目的① 2 生徒指導の目的② 3 教育課程との関連 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間における生徒指導 4 生徒指導の組織と計画 5 生徒理解の意義と機能 6 生徒理解の内容 7 生徒指導の方法 個別指導と集団指導 8 教育相談の理解と進め方 9 適応と発達 防衛機制と適応障害 10 問題行動①様相 11 問題行動②種類と原因 12 問題行動③処遇 13 進路指導の目的と内容 14 教育現場の実際にふれる（ケーススタディ）グループ協議と発表 15 子どもたちの「生き抜く力」を育てる教師 講義のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	教師を志す者としてのスタンスをしっかり持つ。自分が教師となったときの場面を想定し、指導者としての立場でどう行動することが必要であるのか考えを深めてほしい。講義の内容を自分自身の中高時代の行動や思考にスライドさせることも、理解の深化に結びつく。また、常に社会の動向を注視し、教育に関する情報アンテナを高く持つことが必要である。				
学 生 に 対 す る 評 価	<ol style="list-style-type: none"> 1. リアクションペーパー 30 点 (授業の感想、課題提出など) 2. 課題レポート 70 点 3. 授業態度を加味する 				
教 科 書 (購 入 必 須)	「はじめて学ぶ生徒指導・進路指導—理論と実践」 広岡義之編著 ミネルヴァ書房				
参 考 書 (購 入 任 意)	文部科学省 2010 『生徒指導提要』				

科 目 名	教育法概論				
担 当 教 員 名	松倉 聡史				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (中 社 ・ 高 公) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (中 社 ・ 高 公) : 必 修
学 習 到 達 目 標	学習到達目標を①戦前の教育法体系から戦後の教育法体系がいかに転換されたかを理解すること、②教育基本法の法的性格とともにどのような改正過程と改正教育基本法の特徴を理解すること、③学校教育法を含め教育関連三法の改正の意義について理解すること、④教育権の所在の争いとともに判例の展開を理解すること、⑤教育法規としての学習と理解を確認することとする。				
授 業 の 概 要	教育法の概要を基礎的に学び、戦後の教育諸課題について学校を中心に具体的に考察する。また、現代の教育改革の課題や動向をさぐることもあわせて本講義の課題とする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育法の歴史 2 現代日本の教育法の構造 3 教育法学と人権としての教育 4 戦後教育行政改革と展開 5 学校教育制度の構造と展開 6 現代教育の課題と教育法（1）・・・教育内容をめぐる法的問題（1） 7 現代教育の課題と教育法（2）・・・教育内容をめぐる法的問題（2） 8 現代教育の課題と教育法（3）・・・懲戒・体罰をめぐって 9 現代教育の課題と教育法（4）・・・いじめ・不登校をめぐって 10 現代教育の課題と教育法（5）・・・学校事故をめぐって 11 現代教育の課題と教育法（6）・・・教員養成と教師の研修 12 現代教育の課題と教育法（7）・・・家庭・学校・地域の協力と連携 13 現代教育改革の動向と教育法（1）・・・教育基本法の改正 14 現代教育改革の動向と教育法（2）・・・教育基本法と教育三法の改正 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	教育と法との関係を具体的に把握するようにつとめること。教職に対して熱意ある学生の受講を期待する。				
学 生 対 対 する 評 価	授業参加態度（10点）、リアクションペーパー（20点）、レポート課題（70点）により総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	テキストは使用しない。配布プリント等を使用する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	参考書を必要に応じて指示する。				

科 目 名	社会科・公民科指導法Ⅱ				
担 当 教 員 名	三戸 尚史				
学 年 配 当	3年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(高公):必修 教職(中社):選択	資 格 要 件	教(高公):必修 教(中社):選択
学 習 到 達 目 標	<p><到達目標> 「良識ある公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p><授業目標> 日本国憲法・教育基本法の理想とする平和で民主的な国家社会の形成者を育成する教科であるということをしっかり認識し、授業実践などを具体的に学びながら、社会科授業の理論と実際を習得させることを目標とする。</p>				
授 業 の 概 要	生徒が能動的に学ぶ意欲を引き出すための授業のあり方(年間計画内容、教材、方法など)について、学生の理解を促したい。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 「現代社会」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法① 3 「現代社会」「政治・経済」「倫理」の内容分析と指導方法② 4 創造的な授業実践から学ぶもの 5 新聞記事を生かした授業 6 討論授業の工夫 7 教科の評価について 8 時事問題について分析と研究協議 9 学習指導案の作成と検討 10 模擬授業の実施と分析① 11 模擬授業の実施と分析② 12 模擬授業の実施と分析③ 13 模擬授業の実施と分析④ 14 模擬授業の総括(意見交換・レポート) 15 後期のまとめ 				
授 業 の 留 意 点	事前に配布する資料に基づいて、受講者への予習・復習の内容等について、その都度指示する。学習指導案づくり、模擬授業のための知識・理論など総合的力量を身につけさせたい。学生が自主的、意欲的に講義に参加することを期待する。				
学 生 対 する 評 価	授業参加態度、試験、レポート、模擬授業等により総合的に評価する。 100点満点(授業参加態度20点、試験・レポート60点、模擬授業20点)				
教 科 書 (購 入 必 須)	中学校教科用図書(地理、歴史の各分野のうち最低1冊:出版社は問わない) 高等学校教科用図書(『諸説 日本史B』:山川書店) ※但し、中学・高校時代に使用していた教科書が手元にある場合は、購入の必要なし 『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 2008年(平成20年) 『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 2010年(平成22年)				
参 考 書 (購 入 任 意)	佐藤功著『憲法と君たち』(時事通信社) 大森 正・石渡 延男 編著 新版『社会・地歴・公民の教育』(梓出版社)				

科 目 名	福祉科教育法Ⅱ				
担 当 教 員 名	大坂 祐二				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(高福)：必修	資 格 要 件	教職(高福)：必修
学 習 到 達 目 標	教材研究と指導案作成について学び、模擬授業やグループワークを通して、社会福祉の理念、制度、援助技術等の効果的な指導方法について、理解を深める。				
授 業 の 概 要	福祉科教育法Ⅰをふまえ、生徒が将来の社会福祉専門職者として、また福祉社会を担う市民として、主体的に課題解決にあたることができる能力と態度を育てるための方法について検討する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉科・福祉教育における教育方法 2 福祉科の内容と方法 介護実習・介護総合演習 3 体験学習の指導 4 体験学習から「住みやすい環境」へ 5 ボランティア学習の指導 6 教科「福祉」における「授業」をどうつくるか 7 教材研究と指導案（1）学習の内容と教材 8 教材研究と指導案（2）教材から学習活動への展開 9 指導案の検討と模擬授業（1）目標・内容の確認 10 指導案の検討と模擬授業（2）指導案をつくる 11 指導案の検討と模擬授業（3）模擬授業 12 指導案の検討と模擬授業（4）ふりかえり 13 ワークシートと ICT の活用 14 訪問・交流・行事の指導 15 福祉教育における評価 				
授 業 の 留 意 点	グループワークや模擬授業を取り入れて行うので、学生の積極的な参加を求める。履修者数や模擬授業を行う人数によって授業の計画を変更することがある。				
学 生 対 対 する 評 価	グループワーク等への参加と提出課題（60点）、レポート(40点)で評価を行う。				
教 科 書 (購 入 必 須)	保住芳美編著『高等学校 新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010年（福祉科教育法Ⅰ・Ⅱ共通）				
参 考 書 (購 入 任 意)	大橋謙策編『福祉科指導法入門』中央法規、2002年				

科 目 名	道徳教育論				
担 当 教 員 名	加藤 隆				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(中社・栄養)：必修	資 格 要 件	教(中社・栄養)：必修
学 習 到 達 目 標	今日の学校課題であるいじめや学習意欲の減退、或いは人間関係の希薄さなども、「よりよく生きたい」という道徳教育のテーマと深く結びついている。その意味で、学校教育の要である道徳教育の役割と重要性を理解し、「道徳的価値」の自覚を深め、人間としての生き方やよりよく生きるための道徳的な実践力の育成について共に考えたい。このようなことを通じて、受講生は自ら問題意識を持ち、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授 業 の 概 要	道徳教育の理論(倫理観の類型、方法原理、発達理論など)を取り上げ、道徳教育の目標と内容、「道徳の時間」のねらい、道徳教育の課題とあり方について理解を深める。また、道徳の本質や道徳教育の歴史を概観するとともに、学校における指導の実際(全体計画、年間指導計画、指導過程、指導方法など)について考察し、学生との討論や意見交流を重視しながら指導の資質・力量の育成を図る。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義全体のガイダンス：15回の授業展開とねらいについて説明する。 2 道徳とは何か I：モラルやマナーと関連させながら倫理や道徳について考え、お互いの問題意識について意見交流を行う。 3 道徳とは何か II：近代ヨーロッパの倫理思想や東洋の倫理思想と対比させながら、日本の道徳思想の特徴について理解する。 4 道徳教育の歴史 I：日本における修身科と道徳教育の関係、教育勅語と戦後教育の関係について理解を深める。 5 道徳教育の歴史 II：学習指導要領の変遷と道徳教育の流れについて理解する。 6 学習指導要領にみる道徳教育 I：道徳教育の基本的な構成について学び、その目標と内容について理解する。 7 学習指導要領にみる道徳教育 II：道徳教育の基本的な構成について学び、その指導計画作成と、内容の取り扱いについて理解する。 8 道徳教育の授業方法：道徳性の発達段階に応じた資料活用のポイントや「心のノート」の活用について理解する。 9 学習指導案の作成 I：指導事例に基づき、指導の基本について理解する。 10 学習指導案の作成 II：指導事例に基づき、資料の選択について理解する。 11 学習指導案の作成 III：実際に指導案を作成し、お互いに発表し、検討を行う。 12 学習指導案の作成 IV：作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。 13 学習指導案の作成 V：作成した指導案を全体の中で交流し、改善的な視点から修正などを行う。 14 世界の道徳教育を学ぶ：欧米を中心とした道徳教育を紹介し、その成果と課題について理解を深める。 15 まとめと小論文作成：14回の授業を振り返り、道徳教育の課題と可能性について討論する。また、その後に小論文を書く。 				
授 業 の 留 意 点	道徳的課題解決に向けてペア・グループ学習で解決の一般化を図るため、論理的に自分の考えを表現できるよう努力すること。新聞や本などを参考にして道徳教育の教材を発掘し、教壇に立つ意識を持って講義に参加すること。				
学 生 対 する 評 価	複数のレポート 50 点、課題提出(指導案の提出を含む) 50 点を総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	特になし。必要な資料などは教師が用意します。				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義の中で紹介します。				

科 目 名	学校カウンセリング				
担 当 教 員 名	大橋 毅士				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職：必修	資 格 要 件	教職：必修
学 習 到 達 目 標	教育相談（学校カウンセリングを含む）は生徒指導の機能であり、学校のあらゆる教育活動を通しての行われることを理解する。また、カウンセリングについての基礎的な知識や技能を学び、教師としての教育相談の進め方について理解する。				
授 業 の 概 要	児童生徒の抱える問題について知り、生徒指導と教育相談（学校カウンセリングを含む）の関連や発達障害等の発達上の課題についてを理解するとともに、児童生徒の指導に生かすカウンセリングの基礎的な知識や技能について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 生徒指導と教育相談（学校カウンセリングを含む）の意義 3 教育相談の体制 4 児童生徒にかかわる諸問題① 5 児童生徒にかかわる諸問題② 6 発達障害① 7 発達障害② 8 児童期・思春期の精神疾患 9 教育相談に生かす解決志向アプローチ① 10 教育相談に生かす解決志向アプローチ② 11 教育相談に生かす解決志向アプローチ③ 12 教育相談に生かす解決志向アプローチ④ 13 スクールカウンセリングとチーム援助 14 保護者との教育相談・保護者への援助 15 学校の危機管理と緊急支援 				
授 業 の 留 意 点	事例や資料をもとに具体的な授業をめざす。カウンセリングの基礎的な知識や技能を身に付けるためのワークやロールプレイを行う。また、学生の感想（今までの教育相談等の体験を含む）を授業の中で取り上げていきたい。そのため、毎回短いレポートの提出を求める				
学 生 に 対 す る 価 値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への参加態度（30点） ・ レポートの提出（30点） ・ レポートの内容（40点） 				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	使用しない。必要な資料はその都度資料を配布する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	社会科指導法																													
担 当 教 員 名	松田 剛史																													
学 年 配 当	3 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	講義																									
開 講 時 期	通年	必 修 選 択	教職(中社):必修 教職(高公):選択	資 格 要 件	教(中社):必修 教(高公):選択																									
学 習 到 達 目 標	<p><到達目標> 「公民としての資質」をはぐくむために必要となる見方・考え方、意識、行動、生き方・あり方を学び、それに対して適切な学習指導法を探究し、自らが社会の一員としての自覚と責任を身につける。</p> <p><テーマ> 「市民」をはぐくむ教育の探究</p>																													
授 業 の 概 要	<p>1. 授業では以下の場面を多く設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者参加型ですすめる学習場面 ・自己で学びをふりかえり、相互に気づきや学びを共有する場面 ・学んだことを活かしてプログラムをつくる場面 ・新たな知識や経験をインプットする場面 <p>2. 学外活動を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークに出かけることがある(土日や休日を含む) ・学校への実地訪問をすることがある <p>※上記2つの活動日程については事前に学生のみなさんと相談して決定</p> <p>3. 事前・事後の学習としては以下に対応する意識を高くもつこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時およびそれまでに学習した内容に関する情報の収集とまとめ ・次時の学習内容に係る準備 																													
授 業 の 計 画	1 オリエンテーション	2 「社会」とは何か	3 「公民」とは何か	4 コミュニケーションと社会	5 情報リテラシーと社会	6 「社会科」という教科について	7 「地理的分野」の内容分析と指導方法	8 「歴史的分野」の内容分析と指導方法	9 「公民的分野」の内容分析と指導方法	10 持続可能な開発のための教育の視点について	11 学習指導案の作成について	12 学習指導案の実践事例分析	13 学習指導案の作成実践	14 模擬授業と研究協議	15 総括	16 オリエンテーション	17 学習指導案の分析と協議①	18 学習指導案の分析と協議②	19 学習指導案の分析と協議③	20 学習指導案の分析と協議④	21 教科の評価について	22 社会の中の自己を見つめる(社会教育/生涯学習の視点から)	23 持続可能な社会・未来を創造する(持続可能な開発目標:SDGs)	24 学習指導案の作成と検討①	25 学習指導案の作成と検討②	26 模擬授業と研究協議①	27 模擬授業と研究協議②	28 模擬授業と研究協議③	29 模擬授業と研究協議④	30 総括
授 業 の 留 意 点	主に受講者の参加型によってすすめる。受講者相互に参加意識をもち、学習を創り上げることでより効果的にかつ価値ある時間となると考える。社会の一員としての自覚と責任を指導していく本教科のねらいをよく認識し、授業に臨んでほしい。																													
学 生 に 対 す る 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かう意識・準備などのパフォーマンス(個の学びに向かう力) 30点 ・学びを深める議論や活動に能動的にかかわるパフォーマンス(対話的に学ぶ力) 30点 ・成果物やレポートなど 40点 																													
教 科 書 (購 入 必 須)	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校学習指導要領解説 社会編(2017年改訂版)」(2018年3月迄に発刊予定) ・「入門 社会・地歴・公民科教育 確かな実践力を身に付ける」栗原久 梓出版社 2015年 ・平成30年度版中学校教科用図書(地理、歴史、公民の各分野のうち最低1冊:出版社は不問) 																													
参 考 書 (購 入 任 意)	<ul style="list-style-type: none"> ・「高等学校学習指導要領解説 公民編」教育出版 2010年(平成22年) ・平成30年度版中学校教科用図書(地理、歴史、公民の各分野の未購入のもの:出版社は不問) 																													

科 目 名	教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	加藤 隆・石川 貴彦				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(中社・高公・高福) : 必修	資 格 要 件	教職(中社・高公・福) : 必修
学 習 到 達 目 標	<p>教育実習は、これまでの教職課程での学びを学校現場で実践する唯一の科目である。実習でなるべく多くの経験を積むためには、事前に十分な準備を行い、さらには自己課題を明確にして、子どもや教師から様々なことを吸収できる体制を自ら構築しておかなければならない。そして、教育実習の経験を踏まえて自ら成長できる教師を目指さなければならない。</p> <p>本演習ではこれらのことを到達目標とし、教育実習に向かうための事前指導、および実習後の事後指導を実施する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>事前指導では、教育実習において必要な事項を最終確認する。そして各自の実習課題を明確にし、それに向けて十分な準備を進める。</p> <p>事後指導では、各自の事後レポート報告を前提に、得られた経験や学び、自らの今後の課題についての意見交換を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 教育実習の内容と準備 3 実習日誌の書き方 4-5 教育実習に向けての最終確認 (模擬授業) 6-7 教育実習に向けての最終確認 (模擬授業) 8 教育実習後の意見交流 (実習報告会) 				
授 業 の 留 意 点	<p>事前指導から教育実習は始まっていると認識してほしい。特に遅刻・欠席は実習中止の対象になり得る。また、教育実習前の4月に集中的に実施するので、就活等で長期間欠席するのは避けること。</p> <p>事後指導は教育実習報告会を兼ねて、3年生を交えながら12月下旬に実施する。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>リアクションペーパー (30 点)、実習前の取組状況 (模擬授業等) (30 点)、教育実習後レポートおよび実習報告 (40 点) から総合的に評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>教育実習の手引き (第6版)、学術図書出版社、2010年 教育実習日誌 (第3版)、学術図書出版社、2011年</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教育実習 I				
担 当 教 員 名	加藤 隆・石川 貴彦・大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	4 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(中社)：必修	資 格 要 件	教職(中社)：必修
学 習 到 達 目 標	中学校において、①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる、②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる、③教育実習を通じて、自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりできることを、実習の到達目標とする。				
授 業 の 概 要	教育実習（中学校） 中学校の教員免許を取得する者は、原則中学校において3～4週間の実習が必要である。教育実習事前指導を受けた後、学校現場での実習に臨む。なお、中学校と高等学校の両方の教員免許を取得する場合、この科目を履修すること。その場合、高校での教育実習は別途必要としない。また、研究授業については、道内の実習校に限り、教職担当教員が訪問し直接指導を行う。				
授 業 の 計 画	1 教育実習（第1週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等 2 教育実習（第2週） 学級経営、授業観察、授業参加、教材研究、授業実習 等 3 教育実習（第3・4週） 学級経営、教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等				
授 業 の 留 意 点	教育実習途中での履修放棄は絶対にしないこと。あらゆる場面に直面しても、最後まで責任を持って実習をやり通すこと。				
学 生 に 対 す る 評 価	各実習校において取組を総合的に評価し、その結果を踏まえて教職担当教員が最終的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて、実習までに各自準備しておくこと。				
参 考 書 （購入任意）					

科 目 名	教育実習Ⅱ				
担当教員名	加藤 隆・石川 貴彦・大坂 祐二				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(高公・高福)：必修	資 格 要 件	教職(高公・高福)：必修
学習到達目標	高等学校において、①大学で学んだ知識や理論、技術を具体的に展開できる、②授業や生徒指導の中に知識等を結びつけて、生き生きとした教育を展開できる、③教育実習を通じて、自己の教員としての適性や能力を発見したり、判断したりできることを、実習の到達目標とする。				
授業の概要	教育実習（高等学校） 高等学校の教員免許のみを取得する者は、高等学校において 2 週間の教育実習が必要である。教育実習事前指導を受けた後、教育現場での実習に臨む。また、研究授業については、道内の実習校に限り、教職担当教員が訪問し直接指導を行う。				
授業の計画	1 教育実習（第1週） 実習校のプログラムによるが、概ね以下のような内容になる。 着任式、講話、学級経営、教材研究、授業観察 等 2 教育実習（第2週） 学級経営、教材研究、授業実習、研究授業、離任式 等				
授業の留意点	教育実習途中での履修放棄は絶対にしないこと。あらゆる場面に直面しても、最後まで責任を持って実習をやり通すこと。				
学生に対する評価	各実習校において取組を総合的に評価し、その結果を踏まえて教職担当教員が最終的に評価する。				
教科書（購入必須）	使用する教科書等については、実習校および実習教科により異なるので、事前訪問や連絡を通じて、各自準備しておくこと。				
参考書（購入任意）					

科 目 名	教職実践演習（中・高）				
担当教員名	加藤 隆・大坂 祐二・石川 貴彦・松倉 聡史				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(中社・高公)：必修	資 格 要 件	教職(中社・高公)：必修
学習到達目標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授業の概要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職論 教師の専門性（加藤） 2 教職論 授業づくりと実践(加藤) 3 教職論 教師と生徒指導（加藤） 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（松倉） 5 学校経営 校務分掌と教職員の協働（松倉・現職者） 6 学級経営 学級づくりの実践（松倉・現職者） 7 教科指導 教材研究と指導案①（石川・松倉・大坂） 8 教科指導 教材研究と指導案②（石川・松倉・大坂） 9 教科指導 授業研究・模擬授業①（石川・松倉・大坂） 10 教科指導 授業研究・模擬授業②（石川・松倉・大坂） 11 生徒指導 ケーススタディ①（外部講師） 12 生徒指導 ケーススタディ②（外部講師） 13 生徒指導 ケーススタディ③（外部講師） 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（松倉） 15 教職論 教職実践と自己の課題（加藤） 				
授業の留意点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学生に対する評価	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教科書（購入必須）	特になし				
参考書（購入任意）	各項目に応じて、適宜指示する。				

特別支援学校教諭

科 目 名	障害児の病理と心理 I				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(高福・特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる障害に関連して、以下の3点を学習する。</p> <p>(1) 言語発達の阻害要因を説明できる。</p> <p>(2) 言語障害に関わる代表的な検査について説明できる。</p> <p>(3) 障害種別により言語発達の支援目標を説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、構音障害と言語発達遅滞の評価と支援の基礎について学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語にかかわる障害の種類 2 音韻の産生 3 構音の発達と構音障害 4 構音検査 (概要) 5 構音検査 (結果の解釈) 6 構音指導 (事例) 7 言語の発達 8 言語発達の阻害要因 9 言語発達評価 評価の流れ 10 言語発達評価 国リハ式言語発達遅滞検査の概要 11 言語発達評価 国リハ式言語発達遅滞検査の発達段階 (段階1～2) 12 言語発達評価 国リハ式言語発達遅滞検査の発達段階 (段階3～5) 13 言語発達遅滞児の支援 評価結果の読み取りと支援結果の作成 14 言語発達遅滞児の支援 絵画語い発達検査 (PVT-R) の概要 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>自らの発話の仕方を内省し、児童への構音指導をイメージすることが望ましい。また、語彙の獲得についての経験を思い出し、自分の考えを根拠をもって他者へ伝えられるように努力してほしい。</p>				
学 生 対 対 する 評 価	<p>授業内課題提出 40 点、試験 60 点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児教育学				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>障害者の権利に関する条約批准に伴い、2016年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、福祉や教育は、大きな転換点が訪れている。特別支援教育が本格的に始まってから10年が経過し、障害のある子どもへの教育も変化してきている。わが国が築きあげてきた障害児教育の歴史を概観し、先達の理念と努力を学ぶことを通して、その意義と継承すべき視点について深く理解する。併せて、障害児教育を学ぶスタートラインとして、特別支援教育に関わる教員としての職業的自覚や今後の学びの意味を理解し、高いキャリア意識を醸成する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育が何を狙っているのかについて学び、これまで行われてきた障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を再評価する。</p> <p>各障害の概要を知り、障害や特性に応じた根拠のある支援の基本の理解を目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 特殊教育から特別支援教育への転換 2 障害児教育の歴史(1) 欧米における障害児教育の成立と展開 3 障害児教育の歴史(2) わが国における明治期の障害児教育に尽くした人々 4 障害児教育の歴史(3) わが国における大正期・昭和前期の障害児教育 5 障害児教育の歴史(4) わが国における戦後の障害児教育 6 障害児教育実践－先達に学ぶ 7 世界の動向とインクルーシブ教育システム 8 障害のある子どもの教育制度と就学支援 9 特別支援教育と特別支援学校、特別支援学級 10 ライフステージと教育(1) 11 ライフステージと教育(2) 12 個別の教育支援計画と個別の指導計画 13 卒業後の就労に向けた支援 14 交流及び共同学習とインクルーシブ教育システム 15 関係機関との連携と特別支援教育 				
授 業 の 留 意 点	<p>知識として吸収するだけでなく、積極的に議論に参加し、解の見つけにくい課題に対しても思考するプロセスを身につけていくことが求められる。</p>				
学 生 に 対 す る 価 値	<p>議論や質問に応じていく機会の多い授業となるため、授業の参加態度や議論の質等について、日常的にフィードバックする(30点)。これらの評価と最終試験の結果(70点)と併せて、総合的に判断し、評価する。</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>資料を配布する。</p>				
参 考 書 (購入任意)	<p>橋場隆著「発達障がい幼児へのかかわり」小学館</p>				

科 目 名	障害児の病理と心理Ⅱ				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>障害児に共通して現れる言語に関わる課題への支援について、以下の3点を学習する。</p> <p>(1) 基本的な構音指導を説明できる。</p> <p>(2) 言語発達検査の結果を解釈し、言語発達段階に応じた支援を考えられる。</p> <p>(3) 障害の種別を理解した支援を考えられる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象には、ことばの遅れや発音の不明瞭さのある児童・生徒が多くみられる。本講義では、具体的な構音指導と言語指導について学ぶ。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 言語発達の阻害要因 2 定型発達の復習 3 自閉症児の言語発達 4 構音検査の復習 5 知的障害児の言語発達 6 構音検査の結果の解釈と指導方針の策定 7 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の復習 8 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査の結果の解釈と指導方針の策定 9 言語発達遅滞児の支援 前言語期の指導 10 言語発達遅滞児の支援 語連鎖理解の指導 助詞理解の指導 11 言語発達遅滞児の支援 文字の指導 語彙の拡大 12 談話の発達 13 談話の評価 質問-応答検査の概要 14 談話の評価 質問-応答検査の結果の解釈 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、障害児教育実習を念頭において理解を深めることが望ましい。「障害児の病理と心理Ⅰ」の内容を復習し、支援内容・方法を積極的に考えてほしい。</p>				
学 生 対 する 評 価	<p>講義内課題提出・発表 40点、試験 60点</p>				
教 科 書 (購入必須)	<p>テキストは使用せず、プリントを参考資料として配付する。</p>				
参 考 書 (購入任意)	<p>「自閉症の僕が跳びはねる理由」 東田直樹 (角川文庫)</p>				

科 目 名	障害児教育方法論				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	2年	単 位 数	2単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	選択	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	知的障害児の発達の諸相と障害特性についての理解を深め、効果的な指導方法を導き、指導の効果を評価→改善していくプロセス（Plan-Do-Check-Action）の意義と具体的な指導について理解を深める。				
授 業 の 概 要	知的障害や発達障害、自閉症スペクトラム障害は、認知、コミュニケーション、社会性、行動の調整などの困難な状態が、継続しているものである。 したがって、その教育や対応は、それぞれの発達の背景と機序を理解することから、具体的な指導法を導くところにあるといえる。 障害の特性の評価を行うアセスメントから指導計画の作成、指導方法の検討と指導、評価を行っていく一連のプロセスについて、事例を交えながら学べるようにする。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害教育がめざす自立とは（イントロダクション） 2 行動観察とアセスメント 3 支援ツールの開発と利用 4 応用行動分析による行動の理解 5 自発的行動を高めるための支援 6 家庭や地域と連携した支援 7 主体的活動を促す支援とツール 8 コミュニケーションの発達と支援 9 社会性の発達と支援 10 知的障害と認知処理過程 11 発達障害の理解と支援（1） 12 発達障害の理解と支援（2） 13 自閉症スペクトラム障害の理解と支援（1） 14 自閉症スペクトラム障害の理解と支援（2） 15 自発的な行動を育てるチームティーチング 				
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	講義への参加態度(20点)、質問への対応、議論の質などの自発的な学習の深化(20点)、最終試験結果(60点)を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 (購入必須)	特に指定しない。資料は適宜配布する。				
参 考 書 (購入任意)	古荘純一著「発達障害とは何か」朝日新聞出版				

科 目 名	障害児教育課程論				
担 当 教 員 名	矢口 明				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>知的障害を中心とする教育について、教育史、教育の目的及び教育形態の概要と、学校が教育的活動を計画し、実践する際のよりどころとなる教育課程の概要を理解する。</p> <p>改訂された特別支援学校学習指導要領のポイントについて理解する。</p> <p>あわせて、近年のインクルーシブ教育の潮流に基づいた、制度・教育的変遷の意義と課題を概観する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>視覚障害教育や聴覚障害教育から始まった「特殊教育」の時代から、現在の「特別支援教育」に至る過程を理解しながら、今後の展望を見通すことを目的とする。</p> <p>特別支援教育の理念を十分に理解しながら、障害特性に応じた教育の計画と評価を可能とするために、改訂された学習指導要領に基づいて、各学校で編成される教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 知的障害とは（イントロダクション） 2 障害児教育の概要 1 3 障害児教育の概要 2） 4 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題（「生きる力」を中心に） 5 障害のある子どもの学ぶ場（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室） 6 教育課程の概念と原理（国による法令と基準） 7 学習指導要領改訂の変遷と意義(1) 8 学習指導要領改訂の変遷と意義(2) 9 各教科等を合わせた指導と自立活動の指導 10 重複障害児の指導 11 医療や福祉との連携の課題（就学から入学まで） 12 医療や福祉との連携の課題（卒業後の就労） 13 インクルーシブ教育システムと特別支援教育 14 特別支援学校教員に求められる専門性 15 特別支援学校教員に求められる専門性と教師キャリア 				
授 業 の 留 意 点	<p>特別支援学校教員免許に関わる講義であるため、知的障害以外の障害と教育の概要について、同時に理解を深めていくことが望ましい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>講義への参加態度（10点）、議論参加や質問への対応などの自発的な学習の深化（20点）、最終試験結果（70点）を総合的に判断して評価する。</p>				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>特に指定しない。資料は適宜配布する。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	<p>文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編</p>				

科 目 名	肢体不自由者教育課程論				
担 当 教 員 名	小野川 文子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肢体不自由児の障害特性を理解する。 ・ 肢体不自由教育の教育内容・方法を学び、教育課程の基本について理解する。 ・ 肢体不自由教育の授業づくりの基本的視点を理解する。 				
授 業 の 概 要	肢体不自由児の障害の基礎的な特徴を概説し、肢体不自由教育の教育課程、指導方法について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス（肢体不自由の定義） 2 肢体不自由教育の現状 3 肢体不自由教育のあゆみ 4 発達と障害の基礎理解 5 脳性マヒの発達と障害の基礎的理解 6 肢体不自由教育の教育課程（教育課程編成の特徴） 7 肢体不自由教育の内容と指導法①（自立活動） 8 肢体不自由教育の内容と指導法②（コミュニケーション） 9 肢体不自由教育の「個別指導計画」の作成 10 重度重複児の実態把握の方法 11 重度重複児の教育実践①（特別支援学校における教育内容） 12 重度重複児の教育実践②（訪問教育、医療的ケア） 13 肢体不自由児とその家族の生活実態と支援 14 肢体不自由教育の今日的課題 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、病弱、視覚障害、聴覚障害、軽度発達障害、等）の心理・生理・病理に関する理解を深めることが望ましい。				
学 生 に 対 す る 評 価	リアクションペーパー（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	猪狩恵美子・河合隆平・櫻井宏明編（2014）『テキスト肢体不自由教育 子ども理解と教育実践』全障研出版部				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介する。				

科 目 名	聴覚障害教育総論				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>聴覚障害児教育について、以下の3点を学習する。</p> <p>(1)聴覚の評価方法を説明できる。</p> <p>(2)補聴について説明できる。</p> <p>(3)聴覚障害領域における福祉制度を説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象である聴覚障害に関連して学習する。聴覚の評価方法について学習し、障害程度と福祉制度について理解する。さらに補聴について理解し、聴覚障害児への支援について独自の工夫ができるようになる。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス きこえのしくみ 2 聴覚障害の評価 純音聴力検査 3 聴覚障害の評価 語音聴力検査 4 難聴の種類 福祉制度 5 補聴 6 聴覚の定型発達 聴覚障害教育の歴史 7 聴覚障害児の言語指導 8 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<p>耳の聴こえづらさが発達や日常生活に及ぼす影響について考えながら受講してほしい。前の時間の復習をした上で、次の時間の授業を受けてほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>講義内課題提出 30 点、試験 70 点</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	知的障害心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	玉重 詠子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>特別支援教育の対象である知的障害児の指導や支援のあり方を探求する基礎として、以下の3点を到達目標とする。</p> <p>(1) 知的障害の定義を説明できる。</p> <p>(2) 知的障害の評価方法を説明できる。</p> <p>(3) 知的障害の特徴を理解し、知的障害教育の意義を説明できる。</p>				
授 業 の 概 要	<p>特別支援教育の対象である知的障害について学習する。知的障害教育の意義と発達の生理的基礎を理解した上で、知的障害の定義と評価方法について学習する。評価方法の学習を通して知的障害の特徴を理解し、支援方法について考える。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 知的障害とは 2 知的障害教育の意義 3 知的障害の定義 知的障害の原因 4 発達の生理的基礎 (中枢神経系の構造と機能～大脳皮質の機能局在) 5 定型発達児の脳機能 (前頭葉) 発達 6 知的障害の評価 1 発達検査 (新版 K 式発達検査 2001 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査) 7 知的障害の評価 2 適応能力の検査 (S-M 社会生活能力検査第 3 版) 8 知的障害の評価 3 ビネー式知能検査 (田中ビネー知能検査 V 改訂版鈴木ビネー知能検査) 9 知的障害の評価 4 DN-CAS 認知評価システム 10 知的障害の評価 5 ウェクスラー式知能検査 (WISC-III WISC-IV WAIS-III) 11 知的障害の評価 6 カウフマン式認知検査 (K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー 日本版 K-ABC II) 12 知的障害児の言語発達と支援 13 特別支援学校での言語指導 (知的障害) 14 特別支援学校での言語指導 (自閉症) 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校教諭免許に関わる講義であるため、知的障害教育を念頭に置いて理解を深めることが望ましい。 ・ 授業の展開、及び受講者の関心や理解のようすによって順番を変更することがある。 				
学 生 に 対 す る 評 価	講義内課題提出・発表 30 点、試験 70 点				
教 科 書 (購 入 必 須)	テキストは使用せず、プリントを参考資料として配布する。				
参 考 書 (購 入 任 意)	向後利明監修「知的障害の子どものできることを伸ばそう！」日東書院				

科 目 名	肢体不自由心理・生理・病理			
担 当 教 員 名	小野川 文子			
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態 講義
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件 教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	肢体不自由とは、四肢体幹に永続的な機能障害があり、姿勢や運動動作に制限がある状態のことをいう。その発生原因となる疾病は多様である。それぞれの疾病に応じた特性をテーマにし、それらについての基本的な理解を得ることを目標とする。			
授 業 の 概 要	肢体不自由教育の対象となる主な疾患の病理・生理及び心理について学ぶ。また、認知・社会・コミュニケーション・心理特性などの特性について理解しながら、その支援について学習する。			
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 肢体不自由とは 2 姿勢と運動の発達①（運動発達について） 3 姿勢と運動の発達②（感覚・姿勢反射） 4 脳性マヒの特性とその支援①（脳性マヒの種類とその特性） 5 脳性マヒの特性とその支援②（脳性マヒ児に対する支援） 6 筋ジストロフィーの特性とその支援①（筋ジストロフィーの種類とその特性） 7 筋ジストロフィーの特性とその支援②（筋ジストロフィー児に対する支援） 8 二分脊椎の特性とその支援 9 その他の疾病について 10 てんかんについて 11 肢体不自由をともなう子どもの心理発達過程とその支援 12 肢体不自由をともなう子どもの認知機能とコミュニケーションへの支援 13 肢体不自由をともなう子どもの社会及び関係発達 14 肢体不自由をともなう子どもの就学、就労支援について 15 まとめ 			
授 業 の 留 意 点	特別支援学校教員免許にかかわる講義であり、免許取得希望者は履修すること。			
学 生 対 する 評 価	リアクションペーパー（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。			
教 科 書 （購入必須）	適宜、資料・視聴覚教材を使用する。			
参 考 書 （購入任意）	講義で紹介する。			

科 目 名	病弱心理・生理・病理				
担 当 教 員 名	小野川 文子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (特 支) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (特 支) : 必 修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の子ども心理・生理・病理について理解する。 ・具体的な事象や事例から病弱の子ども行動背景を考察することができる。 				
授 業 の 概 要	病弱教育の対象となる子どもにみられる疾患の生理・病理や病気の子ども心理的理解と求められる心理的支援・配慮について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (授業の進め方等) 2 健康、病気、障害の概念 3 小児期の慢性疾患Ⅰ (喘息・アレルギーの特性) 4 小児期の慢性疾患Ⅱ (腎臓病・心臓病の特性) 5 小児期の慢性疾患Ⅲ (糖尿病の特性) 6 悪性腫瘍 (小児ガン、脳腫瘍) 7 進行性筋ジストロフィーの特性 8 てんかんの特性 9 血友病、その他の疾患 10 心身症・精神疾患 11 発達障害と二次障害 12 病気がもたらす心的な影響Ⅰ (慢性疾患による心的な影響) 13 病気がもたらす心的な影響Ⅱ (セルフコントロール) 14 病弱の教育上の定義 15 障害の特徴と心理的支援・配慮のあり方 				
授 業 の 留 意 点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害 (知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等) の教育課程・指導法に関する理解を深めることが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	リアクションペーパー (20 点)、課題の取り組み状況 (30 点)、レポート (50 点)。				
教 科 書 (購 入 必 須)	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定。				
参 考 書 (購 入 任 意)	講義で紹介する。				

科 目 名	肢体不自由教育演習				
担 当 教 員 名	小野川 文子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	肢体不自由教育は、一人ひとりの子どもの運動障害の程度や知的発達に応じて、複数の教育課程が用意されている。本講義では、肢体不自由児の事例を通して、教育課程・指導内容・指導方法の理解を深めることを目標とする。				
授 業 の 概 要	知的障害を伴う重複障害の子どもの事例を中心に、肢体不自由児の実態把握や指導内容・方法を考える。また、グループディスカッションや発表を通して、実際の授業等を想定した演習を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（授業の進め方、グループ分け） 2 肢体不自由児の実態把握の実際① 単一障害児の事例から考える 3 肢体不自由児の実態把握の実際② 知的障害を伴う重複障害児の事例から考える 4 肢体不自由児の実態把握の実際③ 重症心身障害児の事例から考える 5 教育目標と教育評価について考える 6 個別指導計画の作成 7 個別指導計画の検討 8 授業づくり① 指導内容の設定（教材、指導方法の検討） 9 授業づくり② 指導内容の設定（指導案の作成） 10 授業研究（授業発表の準備） 11 授業研究（授業発表） 12 授業研究（評価・反省） 13 障害のある子どもの生活について考える 14 家族支援について 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法に関する理解を深めることが望ましい。				
学 生 に 対 す る 評 価	課題の取り組み状況（60点）、レポート（40点）。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料を配布、もしくは視聴覚教材を使用する予定。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	病弱教育学				
担 当 教 員 名	小野川 文子				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	前 期	必 修 選 択	教 職 (特 支) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (特 支) : 必 修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱者教育の歴史と意義について理解する。 ・病弱者教育の対象者に応じた教育の特徴について理解する。 ・病弱者教育の現代的課題について理解する。 				
授 業 の 概 要	病弱教育の歴史から病弱教育が果たしてきた役割について学び、病弱教育の意義と課題について学ぶ。病弱教育の対象である主な疾患とその特徴、教育を行うに当たって配慮すべきことを考察する。病弱教育の現代的課題や病類に応じた教育の特徴について学ぶ。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 病弱者教育の歴史的変遷と定義：病弱者教育の成り立ち 3 病弱者教育の意義と目的：学ぶ権利の保障 4 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性①：呼吸器疾患、内分泌疾患 5 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性②：腎・泌尿器疾患 6 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性③：心疾患、筋疾患 7 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と特性④：重症心身障害 8 ターミナル期にある子どもの教育：死について考える 9 命の選択：自分自身を振り返る 10 病気とともに生きるということ：グループワーク 11 子どものこころの病について：不登校、虐待について 12 病弱者教育の設置基準と教育の場：特別支援学校、学級、院内学級 13 医療機関と教育の関係と連携、家庭との連携：連携のあり方 14 病弱者教育の現代的課題 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害（知的障害、肢体不自由、病弱、聴覚障害、軽度発達障害、等）の教育課程・指導法に関する理解を深めることが望ましい。				
学 生 対 する 評 価	リアクションペーパー（20点）、課題の取組状況（30点）、レポート（50点）等で評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	適宜、資料・視聴覚教材を使用する。				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）	講義で紹介する				

科目名	視覚障害教育総論				
担当教員名	前佛 誠				
学年配当	3年	単位数	1単位	開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	教職(特支)：必修	資格要件	教職(特支)：必修
学習到達目標	<p>本講義では、視覚障害の概要、視覚障害教育の歴史・教育課程・指導内容・指導方法・評価法などについて学び視覚障害教育に関する知識を習得するとともに共生社会形成の基礎となる特別支援教育に対する理解を深めることを目的とする。学習の到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の概要を視覚器の構造・視機能の観点から指摘できる。また、児童生徒の眼疾患に関する健康管理や教育的配慮について説明できる。 2. 近代視覚障害教育の成立から現代までの重要な教育史的事実を指摘し、視覚障害教育変遷の過程を説明できる。 3. 特別支援教育制度の概要を理解し、視覚障害教育の制度上の特徴を説明できる。 4. 視覚障害教育における教育課程、指導計画、指導内容、指導方法、評価方法の特徴及び指導上の配慮事項について説明できる。 				
授業の概要	<p>本講義では、主として視覚障害教育に関する以下の内容について、テキスト、プリント資料、映像教材、実物教材を使用しながら授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害の概要及び視覚管理 2. 視覚障害教育の歴史及び制度 3. 視覚障害教育の教育課程及び指導計画 4. 視覚障害教育の指導内容・指導方法及び評価法 				
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 視覚障害の概要と視覚管理 視覚障害の定義 視覚器の構造と視覚障害 視機能と視覚障害 眼疾患と教育的配慮 2 視覚障害教育の歴史 近代視覚障害教育の成立 日本訓盲点字の完成 盲学校及び聾唖学校令 学校教育法盲学校、聾学校及び養護学校の義務制実施 特別支援教育への転換 3 視覚障害教育の制度 特別支援教育の仕組み 特別支援学校（視覚） 特別支援学級（視覚） 通級による指導 重複障害教育 特別支援学校（視覚）のセンター的役割 視覚障害児童生徒の就学 4 視覚障害教育における教育課程と指導計画 教育課程の意義 教育課程の編成と指導計画の作成 特別支援学校（視覚）における教育課程の特徴 視覚障害教育における自立活動の内容 個別の指導計画 5 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅰ（盲児の指導） 盲児の触知覚の特性 点字の読み書きの指導 空間概念の指導 言葉と事物・事象の対応の指導 歩行の指導 盲教育の教材教具 盲教育における指導上の配慮事項 6 視覚障害教育における指導内容と指導方法Ⅱ（弱視児の指導） 弱視児の視知覚の特性 弱視教育の教材教具 弱視教育における指導上の配慮事項 7 視覚障害乳幼児の発達と支援及び視覚障害教育における評価法 視覚障害児の発達を規定する要因と発達の特徴・支援 視覚障害児のアセスメントの基本 視覚障害児のアセスメントの方法及び記録 8 視覚障害教育の課題と展望 特別支援学校（視覚）のセンター機能の充実 交流・共同学習の充実 早期教育の充実 キャリア教育・進路指導の充実 インクルーシブ教育の進展 				
授業の留意点	<p>特別支援教育学校教員免許に関わる講義でもあり、他の障害の教育課程及び指導内容・指導方法に関する理解を深めることが望ましい。授業前にシラバスを参考にテキスト及び参考書の関係部分を学習し、課題意識を持って授業に臨むことを期待する。又、毎回授業後に当該授業に関する演習課題を提示するので復習に活用し学習内容の定着を図ることを期待する。</p>				
学生に対する評価	<p>講義の態度、提示課題の取り組み状況、レポートの結果等を総合的に判断して評価する。レポート評価の基準は60点未満は不可、60点以上70点未満はC、70点以上80点未満はB、80点以上90点未満はA、90点以上はSとする。</p>				
教科書（購入必須）	<p>書名：「視覚障害教育入門」 青柳まゆみ 鳥山由子 編著 発行所：ジアース教育新社</p>				
参考書（購入任意）	<p>書名：「五訂版 視覚障害教育に携わる方のために」 香川邦生 編著 発行所：慶応義塾大学出版会</p>				

科 目 名	障害児教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	小野川 文子・矢口 明				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	教育実習は、障害児の教育に関して具体的実践的に学ぶ重要な場となる。事前指導と事後指導を通じて、対象児の理解に基づいた指導を実践し、評価していくための手続きと方法を具体的に学ぶ。実習の反省を十分にいかして、専門家としての自覚を持つことを目標とする。				
授 業 の 概 要	事前指導では、学校参観や模擬授業案の作成などを通じて、具体的・実践的な見通しを持つために、できるだけ協力校等をフィールドとした活動を通して、教育実習に対する事前準備を十分に行う。 事後指導では、実習の反省を具体的に報告することを通じて、児童・生徒の特性による課題、学校組織の課題、専門的知識や方法論による課題、チームティーチング等具体的なマネージメントなどを分析的に検討し、専門家として教育現場で活躍する基礎的態度を身につけるようにする。				
授 業 の 計 画	<p>〈事前指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 教育実習校の訪問参観 3. 知的障害特別支援学校、肢体不自由特別支援学校、高等特別支援学校の現状と課題 4. 実習計画の作成 <p>〈事後指導〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習反省報告 2. 課題グループ討議 3. 課題改善のための討議成果報告 4. 教師としてのライフデザイン作成 5. 教師教育と教師キャリア 				
授 業 の 留 意 点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 評 価	講義への参加態度 (20 点)、学習指導案の評価 (20 点)、学習支援や模擬授業等の実践活動 (80 点) を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習日誌 (第 3 版)、学術図書出版社、2011 年 教育実習日誌をもとに、資料、DVDなどの教材を活用する。				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	障害児教育実習				
担 当 教 員 名	小野川 文子・矢口 明				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	実習
開 講 時 期	後期	必 修 選 択	教職(特支)：必修	資 格 要 件	教職(特支)：必修
学 習 到 達 目 標	教育においては、高い実践的指導力が求められている。教育実習では、幅広い知識と大学における経験とを十分に発揮し、具体的な経験を積む。職業としての魅力を十分に理解し、自らの課題を真摯に受け止めることを通して、内省的実践者としての態度を育成することを目指す。				
授 業 の 概 要	教育実習は、学生の関心の高い特別支援学校（北海道内知的障害養護学校、肢体不自由養護学校、高等特別支援学校、道外自閉症特別支援学校）で行うようにし、教員として必要な知識・技能・態度及び習慣を培う。 実習の成果を内省的にととらえることを通じて、自己の適性や職業に対する意欲を改めて把握し、進路選択や進路決定にいかす有用な機会ともなる。				
授 業 の 計 画	各実習先の指導教員の監督・指導に基づいて、以下の内容を中心に実習する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育講話の聴講 2. 学習場面・生活場面の観察 3. 学習場面・生活場面の部分的指導 4. 授業計画の作成 5. 教材研究 6. 授業の実施 7. 研究授業（指導案作成・教材研究・授業・反省会） 				
授 業 の 留 意 点	基礎免許の教育実習の成果と反省を十分に活用して、自らの課題意識と開発的な授業提案を持つことが望ましい。				
学 生 に 対 す る 評 価	実習先の評価及び研究授業評価を総合的に判断して評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	教育実習日誌（第3版）、学術図書出版社、2011年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

榮養教諭

科 目 名	栄養教諭論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講義
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
学 習 到 達 目 標	栄養教諭の職務である学校給食の管理および食に関する指導について基礎的な知識を修得し、理解を深める。				
授 業 の 概 要	<p>①学校給食および食に関する指導の対象となる児童生徒の成長・発達、生活状況などについて確認する。</p> <p>②学校給食および食に関する指導にかかわる法制を理解する。</p> <p>③食に関する指導と各教科および給食業務のかかわりについて学ぶ。</p> <p>④教材となる献立作成が「食に関する指導の全体計画」に結びつき指導案の作成に繋がることを理解する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養教諭の現状、児童生徒の成長、発達 2 児童生徒の生活状況 3 学校給食、食に関する指導の歴史 4 学校給食、食に関する指導にかかわる法令 5 「食に関する指導」(1)－全体計画 ①必要性 ②作成手順 ③留意点 6 「食に関する指導」(2)－指導計画・成果・評価 7 「食に関する指導」(3)－①給食の時間 ②発達段階に応じた内容 8 「食に関する指導」(4)－教科「総合的な学習の時間」「特別活動」 9 「食に関する指導」(5)－教科「家庭科、技術・家庭科」「体育科、保健体育科」 10 「食に関する指導」(6)－教科「道徳」「生活科」 11 「食に関する指導」(7)－個別栄養相談指導 家庭・地域との連携 12 給食管理における栄養教諭の役割(1)献立作成、食品構成 13 給食管理における栄養教諭の役割(2)学校給食摂取標準 14 給食管理における栄養教諭の役割(3)衛生管理 15 給食管理における栄養教諭の役割(4)施設設備 				
授 業 の 留 意 点	栄養教諭は栄養士職と教育職を兼ね備える職種であり、全ての基本は「給食管理」であることを認識して授業に臨んでほしい。				
学 生 対 する 評 価	小テスト(20点)、レポート(20点)、試験(60点)により総合的に評価する。				
教 科 書 (購入必須)	<p>金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂第2版』建帛社、2012年</p> <p>文部科学省『食に関する指導の手引－第一次改訂版－』東山書房、2010年</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編(平成20年8月)』東洋館出版社</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編(平成20年8月)』ぎょうせい</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編(平成20年8月)』東洋館出版社</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 技術・家庭編(平成20年8月)』</p>				
参 考 書 (購入任意)					

科 目 名	食生活・食文化論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (栄 養) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (栄 養) : 必 修
学 習 到 達 目 標	小中学生の生活環境に適した食教育の実践および学校給食の教育的効果を引き出すために、食生活の変遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。				
授 業 の 概 要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷と現状および児童生徒の栄養・食生活状況を把握し、家庭の食事や学校給食の変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域の食文化の礎となる地場産物について演習を通して学習する。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる児童生徒の栄養・食生活状況 4 地域における児童生徒の栄養・食生活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化 8 地域の食文化 9 地場産物と食に関する指導 10 地場産物と学校給食①北海道の地場産物 11 地場産物と学校給食②出身地別の地場産物 12 演習①関心のある地域の地場産物を調べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出 				
授 業 の 留 意 点	食および地域について広く関心をもって授業に臨んでほしい。				
学 生 に 対 す る 評 価	発表内容 (30 点)、試験 (70 点) により総合的に評価する。				
教 科 書 (購 入 必 須)	金田雅代編著『栄養教諭論－理論と実際－3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引－第一次改訂版－』東山書房、2010年 文部科学省『小学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年 文部科学省『中学校学習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	食教育指導論				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	3 年	単 位 数	2 単 位	開 講 形 態	講 義
開 講 時 期	後 期	必 修 選 択	教 職 (栄 養) : 必 修	資 格 要 件	教 職 (栄 養) : 必 修
学 習 到 達 目 標	食に関する指導の目標および必要性を理解し、食に関する指導に係る全体計画の作成・教科等との関連および個別的な相談指導等、学校内における様々な場面での指導、さらに家庭・地域との連携、調整の重要性を広く横断的に見る力を養う。 学習指導案の作成・発表・模擬授業などの演習を通し、栄養教諭としての指導法・技法等を修得する。				
授 業 の 概 要	栄養教諭として各自のテーマをもつことができるように知識を凝集していき、各自のテーマに対して広い視野から問題を把握し、指導計画案を作成・実行・評価することを学ぶ。 学校給食を「生きた教材」として活用する食に関する指導についての理解を深めるために、現役栄養教諭に実際の職務についての講義をしていただき、栄養教育実習先を想定して学校給食を教材とした「食に関する指導」の指導案作成・模擬授業などを行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス：「食教育指導論」で何を学ぶか、学校における食育の推進の必要性、食に関する指導の目標・必要性 2 食に関する指導に係る全体計画の作成、各教科等における食に関する指導の展開 3 学校給食を生きた教材とした食育の推進、学校・家庭・地域が連携した食育の推進 4 個別的な相談指導の進め方、学校における食育の推進の評価 5 食に関する指導の教育理論と技術 6 教材研究、指導案づくり 7 食に関する指導と学校給食の管理を一体のもとで行う職務の実際 8 給食時間における食に関する指導の指導案づくり 9 給食における食に関する指導の模擬授業 (1) 発表会 (前半グループ) 10 給食における食に関する指導の模擬授業 (2) 発表会 (後半グループ) 11 栄養教諭の職務の実際 (1) 学校における職務内容 12 栄養教諭の職務の実際 (2) 調理場における職務内容 13 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (1) 教科目標と会に関する指導 14 給食を教材として活用する授業の指導案作成 (2) 15 まとめ 				
授 業 の 留 意 点	栄養教育実習で実施する研究授業につながる科目であり課題が多い科目であるが積極的に取り組んでほしい。				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物提出状況 (30 点)、試験 (70 点) により総合的に行う。				
教 科 書 (購 入 必 須)	文部科学省『食に関する指導の手引-第一次改訂版-』(東山書房) 文部科学省『小学校学習指導要領』(東京書籍)				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	栄養教育実習事前事後指導				
担 当 教 員 名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	演 習
開 講 時 期	前期	必 修 選 択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習に必要な知識や技術を確実なものにする。 ・事後指導では、自分の課題を明確化し、今後さらに修得する必要がある知識・技術、コミュニケーション能力などについて明らかにする。 				
授 業 の 概 要	<p>事前指導では、栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習心得を確認する。 また、児童・生徒についての食に関しての課題を明確にし、実習日誌や実習報告書の作成方法等を通じ実習効果を高める方法を学ぶ。 実習校での研究授業の準備を行う。 事後指導では、実習の問題点を整理し、実習内容および研究課題などをまとめ、報告会で発表する。</p>				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養教育実習の意義、目的、内容 2 栄養教育実習のための準備と心得 3-6 模擬授業 7-8 栄養教育実習報告会 				
授 業 の 留 意 点	<p>栄養教諭の職務は、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開することであるため、学校給食の管理についての復習をしてから授業に臨んでほしい。 また、栄養教育実習の意味を十分に理解し、その準備に真剣に取り組み、実習後には課題を明確化して将来につなげてほしい。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	提出物（50点）、模擬授業（50点）の内容などから総合的に評価する。				
教 科 書 （ 購 入 必 須 ）	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成） 教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社 教職課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参 考 書 （ 購 入 任 意 ）					

科 目 名	栄養教育実習				
担当教員名	黒河 あおい				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	1 単 位	開 講 形 態	実 習
開 講 時 期	前期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
学 習 到 達 目 標	<p>実習を通して学校教育に対する理解と認識を深め、栄養教諭の職務や役割について理解する。指導教諭と連携し「食に関する指導」等を行う。</p> <p>また、生きた教材としての「学校給食」と「食に関する指導」との一体化について理解する。</p>				
授 業 の 概 要	<p>実習では学校経営等について理解し、児童および生徒への個別的な相談・指導の参観・補助、教科・特別活動や給食時間等における指導の参観・補助および食に関する指導案の立案作成や教材研究を行う。</p> <p>また、校内の連携・調整の参観・補助や家庭・地域との連携・調整等の参観・補助を行う。</p>				
授 業 の 計 画	<p>1 週間の実習</p> <p>学校経営、校務分掌、食に関する指導および学校給食の学内での位置づけについての理解</p> <p>児童および生徒への個別的な相談、指導の実習</p> <p>児童および生徒への教科・特別活動等における指導の実習</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習</p>				
授 業 の 留 意 点	<p>必要な準備を整えて実習に臨むこと。</p> <p>健康管理に十分に留意して実習に専念すること。</p> <p>実習生であっても学校の構成員の一員である教員としての自覚をもって行動すること。</p>				
学 生 に 対 す る 評 価	<p>実習内容（50点）、提出物（30点）、出席状況（20点）などから総合的に評価する。</p>				
教 科 書 (購 入 必 須)	<p>栄養教育実習日誌（担当教員作成）</p> <p>教育実習の手引き（第6版）学術図書出版社</p> <p>教育課程で使用したすべてのテキストを参考書として使用する。</p>				
参 考 書 (購 入 任 意)					

科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当教員名	加藤 隆・黒河 あおい・松倉 聡史				
学 年 配 当	4 年	単 位 数	2 単位	開 講 形 態	演習
開 講 時 期	後期	必修選択	教職(栄養)：必修	資 格 要 件	教職(栄養)：必修
学 習 到 達 目 標	教職課程の履修を通じて、教員として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身に付けさせるとともに、その資質能力の全体を明示的に確認する。このような学びを通じて、受講生は自ら問題意識を明確にし、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を育成する。				
授 業 の 概 要	「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「生徒理解や学級経営に関する事項」「教科等（栄養教諭）の指導力に関する事項」の4項目で構成し、各項目について総合的に学習するとともに、教職課程の総まとめとして、自己の到達度や今後の課題について最終的な確認を行う。				
授 業 の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教職論 望ましい教師とは（加藤） 2 教職論 授業づくりと授業実践(加藤) 3 教職論 生徒指導(加藤) 4 社会性・対人関係 子どもの人権、表現の自由（松倉） 5 学級経営 校務分掌と教職員の協働（松倉・現職者） 6 学級経営 学級づくりの実践（松倉・現職者） 7 学校給食管理 学校現場（共同調理場を含む）見学・調査（黒河・現職者） 8 学校給食管理 講義・グループ討論（黒河・現職者） 9 学習指導 食に関する指導の全体計画・年間指導計画（黒河） 10 学習指導 教材研究と指導案（黒河・現職者） 11 学習指導 授業研究・模擬授業（黒河） 12 児童・生徒指導 個別的な相談、指導・特別支援の食に関する指導（黒河・現職者） 13 生徒指導 ケーススタディ（外部講師） 14 社会性・対人関係 保護者・地域との連携（松倉） 15 教職論 教職実践と自己の課題（加藤） 				
授 業 の 留 意 点	教育実習などの振り返りを生かして進める。				
学 生 対 対 する 評 価	4つの項目について、実践およびレポート等の課題（20点×4項目）を課し、授業意欲（20点）と合わせて総合的に評価する。				
教 科 書 （購入必須）	特になし				
参 考 書 （購入任意）	領域に応じて、適宜指示する。				